

279
102



1

0044034-000

279-102

映画による学習の実際と施設

下野宗逸・著

教育書館

昭和3

AHF

この著作物は、著作権者不明のため、著作権法第67条の規定に基づき、平成12年3月14日付けで文化庁長官の裁定を受け使用するもの

3

內務省
3.12.4
正本

區教育
號 453
永久保存

下野宗逸著

映畫による學習の實際と施設

東京 教育書館藏版



279
102

序

近來、映畫教育の聲が頓に盛んになつてきたが、その實施されてゐるのは、主として社會教育の方面に於て、學校教育の方面にはまだあまり普及してゐない。しかし、兒童生徒のために、學校に於て適當な映畫を選択し、適當な方法のもとに觀覽せしむるといふことは、單に、近來やかましくいはれてゐる、興行映畫の年少者に及ぼす惡影響を防止する上からいつても、極めて必要なことであるのみならず、更に進んで映畫を教材として用ひ、映畫によつて學習の効果を擧げるといふことも、直觀教授の尊重せらるゝ今日、當然夙に實施さるべきものと思ふ。

しかるに、今日尙容易に之が實現を見ないのは、一つには經費の問題もあらう、また適當なフィルムに乏しいといふ點もあらう、しかしその經費といひ、フィルムといひ、教育の實際にあたる人々から要求が盛んに起つてくれば、おのづからまた解決される問題なのである

要は、教育當事者に映畫教育の實際問題と、實際方法を研究して、之を實施せんとする熱と誠意があるかどうか、といふ點にあるといはなければならぬ。

この機運を醸成し、わが國の映畫教育、就中、學校に於ける映畫教育の普及發達を圖らるがために生れたものが、わが全日本活映教育研究會であつて、すでに今日までに、研究機關雜誌「映畫教育」の發刊、フィルム・ライブラリーによる教育映畫の配給、學校巡回映畫聯盟の組織、學校映畫研究部の設置と學校用映畫の製作提供、學校職員の映寫技術並に教育映畫説明法講習會の開催、映寫機の全國的普及計畫等、着々としてその實際運動を進めてゐるのである。

下野訓導は、わが研究會の會員として、熱心に映畫教育の研究につとめてゐらるゝのみならず、すでにその櫻井小學校には映畫施設を完成して、實際的經驗をつみつゝある人、今度平素の蘊蓄を傾けて「映畫による學習の實際と施設」を公刊せられることゝなつた。蓋し實際教育家の手によつて、かくの如き映畫教育の實際的研究が發表されるといふことは、わが

映畫教育運動の上に實に貴重なる一石を投じたものといふべく、特に學校映畫教育の普及發達に貢献するところ尠からざるべきを思つて、衷心欣びに堪えない次第である。

昭和三年九月二十六日

大阪毎日新聞社にて

稲田達雄

序

序

最近映畫教育は我教育界に於いて著しく注目される様になり映畫と教育の密接なる關係が研究論議されてゐることはまことに喜ぶべき現象と言はねばならぬ。我校に於いても映畫の教育的價値の非常に大きいものあるに鑑みその施設をなし興行映畫の害毒を防ぐと共に進んで教育映畫を平素の學習の中に取り入れてゐる。本校訓導下野宗逸君はこの方面にも熱心なる研究と實驗をとげられ此際書肆の切なる求めに應ぜられて愈々上梓されることになつた。今内容を一讀するに學校教育上まことに重要な實際的研究の發表であつて我初等教育界に貢献するところ非常に大きいものがあると確信する。私はこの貴き實際研究の生れ出でたことを喜ぶと共に眞に兒童教育を考へてゐる教育者諸君を初め映畫教育に關心をもつすべての人達にぜひ一讀をおすすめしたい。

昭和三年十月一日

奈良縣櫻井小學校長

福塚平七

自序

兒童に映畫を見せてはならぬといふやうな考へは間違つてゐる。然しどんな映畫でも見せてよいといふのではない。どういふ映畫を見せたならばよいか、どういふ方法で見せるのであるか、兒童の學習のうちにどんなに織込んで行けばよいか、即ち映畫による學習は如何にあらねばならぬかといふことに就いて述べたのが小著である。然し小書き研究と體驗であるがためその記述及び順序に於いても不十分な點はあるだらうと思ふ。

近時映畫教育は日を追ふて盛になりつゝある。けれどもたゞ單に學校が兒童に映畫を觀覽せしめるとか、兒童映畫日を設定するとかいふことのみをもつて映畫教育と言へるだらうか。日日の兒童の學習のうちに適當に取り入れられてこそ映畫のもつ教育價値が十分發揮されるものでありそれをほんとうの映畫教育だと私は言ひたい。

ベストロツチの教育思想の中で重要な意味を有する直觀主義は現代の學校に於いては種々なる形をもつて行はれてゐるのであるが、色々な點から考察してこの映畫といふものが他

序

序

の直観材料よりもまことに都合のいいものであることは何人も首肯出来るだらう。たゞ直観具としての映畫に止まらず、美的陶冶上、意的陶冶上如何に私達の教育實際に役立つかを考へるとき、その教育効果の非常に大きいのに驚かざるを得ないのである。

言ふまでもなく私は映畫によつて全教育をなさうとするのではない。教室に於ける學習の補助手段として映畫特有の性質を利用し教育の効果を、より以上にあげたいと思ふのである。幸ひ映畫教育の實際にたづさはる人々、映畫教育を將來試みやうとする人々、及び映畫教育に關心をもつすべての人達の一讀を熱望する。

未筆ではあるが自分の如き無名のものの然もかうした特異な著述を公にして下さる交盛館主武田福藏氏に對し感謝の意を表すると共に今後益々教育に對する私の研究を深めたいと思ふ。諸賢の御批正を切望する次第である。

昭和三年十月

著者識

映畫による學習の實際と施設 (目次)

一 映畫の史的概観

映畫の發明	一
映畫の現状	三

二 映寫機の使用法

映寫機の種類と小學校に適する映寫機	一〇
映寫前の注意	一六
フィルムを掛けるには	一八
フィルムの映寫が終るときには	二〇
フィルムを停止映寫するには	二二
フィルムを機械でまきかへすには	二三
油を差すには	二三

目次

レンズの手當及び電球の位置	三
レンズのインチに就いて	四
フキルムの手當及び接続法	五
手廻映寫に際して	五
變壓器の使用に就いて	六
ベルトに就いて	六
シャッターの流れるとき	七
修理及び部分品の補給	七
フキルムの蠟引に就いて	六
映寫機取扱注意事項	六
三 小學校に於ける映寫場の設備	
暗室装置	三
暗さの程度と視覺	三

通風装置	五
映畫學習者の席の作り方	六
映寫幕の種類	四
電力設備	四
映寫機臺の位置と映寫幕の距離	五
非常出口と映寫技術員の態度	五
映畫と音楽	五
説明に就いて	五
講堂に於ける諸設備と特別教室の設備	五
四 各國に於ける映畫教育の現況	
映畫の影響と教育映畫問題	五
兒童映畫と一般教育映畫	六
我國に於ける映畫教育	六

目次

五 教育と映畫の關係

各國に於ける映畫教育	七
兒童と映畫	五
視覺教育—ヴィジュアルエデュケーションと映畫	二
情操陶冶と映畫	八
直觀教授と映畫	六
映畫學習と將來の學校構造	九
娛樂と映畫	九

六 興行映畫と兒童

興行映畫と兒童の關係	九
常設映畫館と兒童衛生	一〇
兒童と風記問題	一〇
不良兒と映畫	一〇

七 映畫による各科學習の實際

小學校に於ける映畫設備の急務	一三
映畫を取り入れたる學習指導案—各科	一四
映畫學習指導案(一)	一四
映畫による學習指導の要點	一四
獨自學習より映畫學習へ	一七
相互學習より映畫學習へ	一四
劣等兒指導と映畫	一五
映畫の見方指導	一五
映畫感想發表會	一六

八 各學年の教材と映畫の調査

讀方教材と映畫	一六
國史教材と映畫	一七

目次

目次

地理教材と映畫 一七三

理科教材と映畫 一七三

修身教材と映畫 一七六

其他教科教材と映畫 一七九

職業輔導及び公民教育と映畫 一八〇

低學年教育と映畫 一八三

九 各教科と映畫の關係

映畫による學習にはどんな教科がよいか 一八四

映畫による學習にはどんな教材がよいか 一八六

一〇 年中行事と映畫

行事と映畫 一八八

季節と映畫 一八九

諸會合と映畫 一九〇

一一 映寫に關する諸注意

フィルム longa 及び映寫時間と學年 一九二

説明者即ち指導者の言葉 一九三

一二 映畫學習に於ける指導者の準備

試寫の必要 一九四

其他の準備 一九五

一三 フィルムの選擇と借入法

フィルムの選擇 一九六

フィルムの借入法 一九七

一四 映畫施設の費用

映寫機と映寫幕の費用 二〇一

電力消費 二〇二

目次

目次

フィルムへの借入費用	二〇四
暗室装置その他の費用	二〇五
映畫設備と火災保険	二〇六

一六 教育者自身と映畫製作者の反省

映畫製作者へ	二〇七
教育者自身へのことば	二〇八
私達の希望する映畫	二一一
教育映畫プロダクションに就いて	二一六
鑑賞教育としての劇映畫	二一八
映畫教育座談會	二二一

附 録

文部省製作活動寫眞フィルム貸與規定	二二六
昭和二年度文部省推薦映畫一覽	二二二

— (終) —

映畫による學習の實際と施設

下野宗逸 著

一 映畫の史的概観

映畫の發明

映畫學習の實際を述べる前に先づ私は映畫といふものが如何にして發明され如何なる経路をたどつて發達してきたかといふことを考へねばならぬと思ふ。わすか數十年前にはまことに幼稚なそれは今日から考へると子供の玩具に等しい様な映寫機や撮影機が現在の様な精巧なものになり如何に多くの人々を熱狂せしめてゐるかといふことを思ふとき實に驚くべきものがある。

この驚くべき進歩發展をみた映畫が私たちの實際教育界に如何にしてとり入れられ如何な

映畫の史的概観

る程度に利用されてゐるかは後述に待つとしてこゝに於ては一般映畫の發明と現狀に就てごく簡単に書いてみたい。

映畫の先祖とでもいふべきものはゾエトロオプ(Zoetrope)だといふ人もある。これはトオマトロオプなるものが發達したもので今から九十年餘り前流行した一種の玩具であつて先づのぞきからくりの様なものである。

一八七一年米國に於ては馬の疾走狀態について大論議があつた。そのとき自分の議論を證明するためカルホルニヤ州の知事ランド・スタンフォードは英吉利人エドワード・マイブリツヂに馬の疾走狀態を寫眞にうつすことを依頼した。これは數十のカメラをトラックに配列しておいて走つて來た馬がそのシャッターにむすびつけた糸にふれてその瞬間々々の馬の疾走狀態が撮影されるやうに仕組んだのである。これが現代の撮影機の元祖ではあるまいかと思像する。

この事實があつてから五年後に佛蘭西人レイナルはマイブリツヂの撮影したものを幻燈装置によつて映寫することを工夫し先づ成功したと言つてよい。こゝまでくるとやゝ活動寫眞

としてのかたちは幾分そなへてをると言はねばなるまい。

一八八六年米人エヂソンは、のぞきからくりのやゝ精巧なものを工夫案出しこれをキネトスコオプ(Kinetoscope)と言つてゐた。これはその前年に於て發明されたイーストマン氏の柔軟フィルムを使用したものでやゝ社會の人々から注目されたのである。

このエヂソンの創案以後に於て米國の一青年フランス・ゼンキンスの手によつて今日の映寫機とほゞ同じ装置のものをこしらへたのである。けれども世の大抵の人々は活動寫眞と言へばエヂソンを聯想しこの偉大なる發明家ゼンキンスを忘れ勝なのは不思議である。

これからエヂソンなどによつてこの映寫機に幾多の改良を加へられ現代の様な精巧なものとなつたのである然し現在のものと言へども尙使用の際多少の不便はあるし絶對危険がないとは言へないが年々改善に改善を加へられてゐるから科學の進歩とゞもにますます精巧なものとなりその使用はより輕便なものとなりつゝある。

映畫の現狀

映畫による學習の實際と施設

映畫の最も盛な國と言へば矢張アメリカ合衆國である。それは色んな點から考察することが出来るが常設館數の多いこと、映畫觀覽者の多いことフィルム製作の多量なこと等に於て何と言つても世界第一である。今左に世界各國の活動寫眞常設館數を見るに總數五萬三千五百有餘の中アメリカにあるものが約半數の二萬五千である。

各國の活動寫眞常設館數(一九二六年調フィルムデイリー)

アメリカ合衆國	二五〇〇〇	カナダ	二〇〇〇
イギリス	三八九六	ドイツ	三六七八
フランス	三〇〇〇	イタリア	二〇〇〇
スペイン	一五〇〇	スエーデン	一〇〇〇
ベルギー	八〇〇	ロシア	四〇〇
オランダ	二五六	印度	三三〇
日本	一〇五七	支那	一〇六
コロンビヤ	二〇〇	アルゼンチン	二〇〇

南部アフリカ	三八〇	オーストラリア	一一一六
ニュージーランド	三五〇	フィリッピン	二五〇
その他	五九三四	總計	五三五五三

何故にアメリカに於てかくの如き映畫の盛大さを見たのであるか、各方面より考察するとが出來やうと思ふが第一アメリカは資本のゆたかな國である。金の唸つてゐる國である。如何なるものを製作するにも勿論金の必要なことは論をまたないが映畫製作に於ては特に大した金の入ることであるからアメリカでこの映畫の盛んになつたことが容易にうなづけると思ふ尙映畫の發達した理由の一つとして彼等の國民性といふものを考へねばならぬ。由來アングロサクソン人は國民美術にせよ國民音楽にせよ殆ど大したものをもつてゐない。即ち藝術といふ方面については——特に音楽や美術の方面——概して劣つてゐる様である。が、その代りに彼等英米人は實際的の國民であり、すこぶる現實的のものを欲する性質をもつてゐる。現實的な娛樂現實的な慰安としては活動寫眞即映畫が彼等に最も歡迎されると思ふこれが即ち米國に於て映畫の盛大なる理由の一つである。

映畫の史的概観

だからアメリカには監督の御歴々映畫俳優の大立物大映畫會社が數へ切れぬほどであると
言つてもよい。

英國に於ける映畫界はどうかと見るに英本國に於て上映される映畫の八十パーセントは米
國製のものであり大した會社もなさうである。而し映畫常設館數など相當に上つてゐる點
から考へてみて我國よりも盛んであることは論を待たない。

佛蘭西獨逸伊太利の映畫界は米國のそれの如くではないが、その製作された映畫を観るに
米國ものゝ様に奇抜なものは少く内容は割合に通俗的なものが多い様であるがアメリカもの
とは比較にならぬほど高雅な趣味とクラシツクな味と力強さを持つてゐる。我國に米國も
のが多く輸入されてこれらのものが餘り多くはいつてこなかつたのは種々原因もあらうが一
般民衆をひきつけるには高雅なものよりも少し目さきの變つた奇抜なものゝ方が割合歡迎さ
れたからであらうと思ふ。

以上私は極く簡単に然も雜然と現在の映畫界を見たのであるこれでは甚だ不満足な點が多
いと思ふが少し我國の映畫の現状をみて次の問題に移りたいと思ふ。

我國に活動寫眞が輸入されたのは何時頃であつたか餘り古いことでもないが世界の各國か
ら各方面の手を経て入つたこと故話が一定してゐないそこでいつかの「サンデー毎日」誌上
で述べられた話の概要を借りることにする。

「ちようど今から三十年前荒木和一氏といふ人がアメリカの某雜誌を通じてエヂソンのヴ
アイタスコオプの事を知つたのである。荒木氏はいろ／＼都合をつけて一八九四年サンフラ
ンシスコに開かれた博覽會を目指して同地へ渡つた。

荒木氏は飛鳥の如くにして博覽會場へ行つてみたのであつたがヴアイタスコオプはない失
望の色を顔に浮かべながらサンフランシスコの街を歩いてゐるとヴアイタスコオプ以後のキネ
トスコオプを見つけたしそれを買はうとしたのであるが五百ドルのお金がないため涙をのん
で日本へひきかへした。

一八九五年再び荒木氏が米國へわたつてみるとキネトスコオプがのぞきからくりの域をと
び越えて映寫して見せることが出来る様に進歩してゐる。スタア劇場でそれを見た荒木氏は
すぐエヂソンの許へ行つた。然しそれは伊太利からすでに申込があるためあなたは二番目で

映畫による學習の實際と施設

すといふエヂソンの言葉をきいてガツカリした。エヂソンも流石に氣の毒に感じてか他へ賣る場合には第一番にあなたへお知らせすると言つてくれた。荒木氏は所持金の大部分を入金としてエヂソン氏に渡した。荒木氏がかへつた翌年即明治二十九年の十二月に横濱へこのキネトスコオプが着いた。翌三十年大阪商船の三光丸沈没による罹災者への義捐金募集のためこのキネトスコオプを持ち出し公開した。これが我國に於ける映畫公開の最初である。」とその後各所で各方面から歓迎をうけ目新しいことを好む人間の本能は終に今日の盛況を見るに至つたのである。その中には映畫機械の精巧なものが作られ輸入されるに随つて益々斯界の發達を促したのである初めは外國フィルム輸入でそのみの上映にすぎなかつたが次第に映畫會社が創設され外國ものにくらべて尙劣るとは言はれてゐるがどうか日本物を出す様にまでなつたのである。特に大正九年頃から劇映畫の發達には目ざましいものゝあるのを忘れてはならない。今昭和元年十二月に内務省警保局調による我國各府縣の活動寫眞常設館數及び入場人員數をみるに常設館の總數一〇五七の多きに對しその入場人員は實に一億一千七百八十萬人(大正十五年度入場數)餘に對してゐる。

東京府	一九四(常設館)	二六〇〇三〇三人(入場者)
大阪府	八三	一六八六七六〇四人
京都府	三三	三七九三四八三人
北海道	六六	四一七四二〇五人
神奈川県	五三	四〇七〇〇四五人
兵庫縣	三四	六五二五六〇三人
愛知縣	三二	四七三〇八五人
廣島縣	一八	三五三二八九七人
長野縣	二三	一二三五七九六人
埼玉縣	一八	八六六八一〇人
奈良縣	七	五〇三五〇〇人
青森縣	一三	九四四七八二人
三重縣	一四	一〇〇六五七四人

映畫の史的概観

愛媛縣 一四

二九七六七二五人

福岡縣 六九

六七三七六七七人(以下畧)

以上は常設館とその入場者の調査であるが、この外に常設館以外の興業場及び假設興業場無料公開のもの等加へると映畫觀覽者の數は實に驚くべきものであると思ふ。そしてどんな田舎へ行つても字の讀めるほどの子供でありさへすれば尾上松之助や水谷八重子の知らないものはほとんどないと言つてよいぐらゐ何といふ流行のすばらしさかといふことに一驚せざるを得ない現狀である。

二 映寫機の使用法

映寫機の種類と小學校に適する映寫機

映寫機の種類には色々あるが今これらを固定型、可搬型、携帯用靴型、家庭用小型の四つに大別することが出来ると思ふ。

(一) 固定型 これは映畫劇場などに適するものでいつも一定の場所に固定して用ひられるものであるがため器械の動搖が少く映畫が非常にはつきりとしてゐるこの固定型には

A シンプレックス

米國プレサジョン械製造會社製もので映畫劇場などで使用してゐるものにこれが非常に多いと言ふことである。

B パウア六號 B

これも米國パウア會社製造のもの。

C モオシヨグラフ

米國オプティカル製造會社の製品であるが相當値段が高いらしい。

(二) 可搬型 學校などに於ては映寫場と言つた特別映寫専用の部屋をもつことは中々至難であり餘りそういふぜいたくな設備は必要ないため固定型のものよりもこの可搬型のものの方がはるかに便利である。この可搬型に屬するものには。

A アクメSVE型

映畫機の使用法

米國シカゴのアクメ活動寫眞映寫機會社製品で便利なことにはフィルムをとめて映寫することも出来る。

B スーパーデヴライ

デヴライもアクメと同じくアメリカ製でデヴライ會社のもの、アクメと同じ様に停寫装置が出来てゐるので兒童に特に必要な部分の説明が念入りに出来るのでよい。

C グラフオスコープ、ジュニア

米國ニューヨーク市のグラフオスコープデヴエロピング會社のもの。この機械の特長はアクメやデヴライのやうにフィルムを捻ることがない。その代りにフィルムを停寫することは出来ない。

D パウア六號A

米國パウア會社の製品。

E ゼニス

ダルス市安全映寫機會社の製品である。これにはアクメやデヴライの様に停寫装置が

してゐる。

(三) 携帯用鞆型 この携帯用のものは可搬型のものより小さくして携帯には非常に便利なものである勿論アクメSVE型やスーパーデヴライの如き可搬型のものも持ち運びに便利ではあるが少し容積が大きいのでこの種携帯用の如く手軽にはいかない。小學校等ではこの種ものが一ばんいい様である。

A デヴライ B アクメ十二號型 C グラフオスコープ鞆型 D ビーコン

等種々あるが何れも小型である。教室から講堂へ講堂から理科室へと持ち歩く我々の小學校ではこの種ものが最も便利である。

尙この携帯用鞆型のものにもゴールド・グラス・シャッターを使用してゐるので必要に応じて停寫することが可能である光力も四〇〇ワットぐらゐで映寫出来るのだからいゝ(四) 家庭用小型 近時家庭映畫といふことがやかましく言はれてゐるが彼のラジオがどの家庭にも入りこんである様に映畫も今後はどの家庭にもうんとはいつていくだらうと思ふ。家庭に於ては餘り大きい室をもたないし大抵座敷ぐらゐで映寫されるのだから餘り型の大き

いものや高價なものはいらないだらうと思ふ。

A パテーベビー B フキルモ映寫機 C ロイヤルベビー D デヴライ十六ミリ

この種のは家庭用として又學校教室用としては適當なものと思ふ勿論映畫はごく小さいものであるから上映効果は少いだらう。

以上は主としてアメリカ製のものゝみを列擧したのであるがこの外に優秀なるものとしては佛國アンドレ・デブリのジャツキー映寫機、獨逸クルツプエルネマン會社のキノボックス B 型等がある。尙米國製のものでホルムスやビクトリー一〇號型等も大へんいゝものであることを附記しておく。これはまへの分類のときにかきおとしたのである。この外にもいゝ機械があるのだらうが寡聞なる私にはおぼえがない。

小學校に適する映寫機はどんなものがいゝだらうか？現代どの劇場でも使つてゐる映寫機は固定型の大きいものであり大抵は手廻しである。手廻しは自動廻轉のものに比較して便利な點も亦あるが我々教師が使用するものとしては自動廻轉のものゝ方が安全でもありあまり技術も要しないから結局便利であると思ふ。講堂用としては可搬型もしくは携帯用鞆型の

ものがいゝだらうし教室用としては鞆型携帯用のものか家庭用小型のものがいゝだらう。

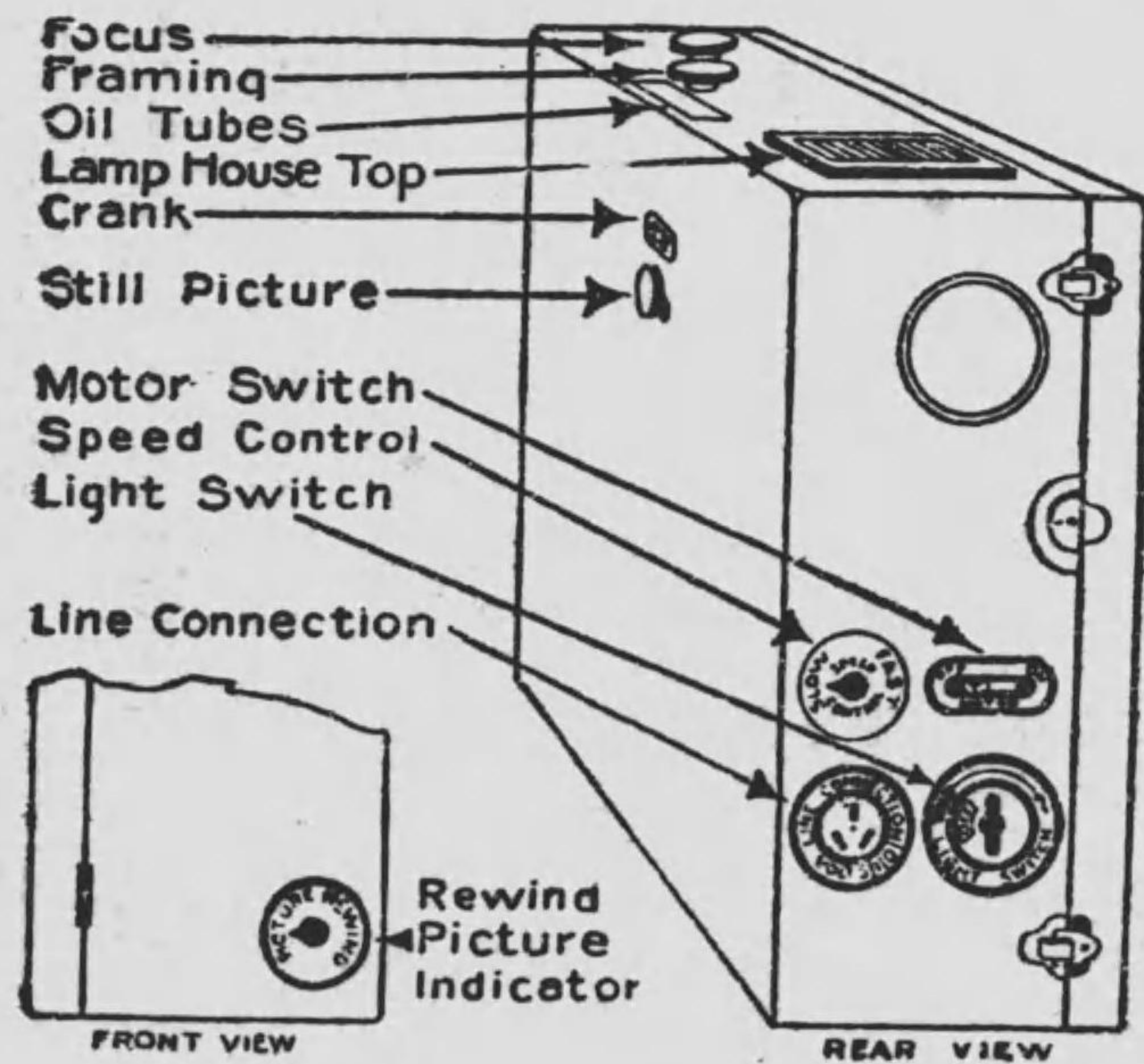
何れにしても精巧な機械であるから使用者がその使用方法を十分會得理解すべきは言ふまでもなく機械の保存上耐久上から言つても技術に習熟することは必要である。よく學校とかその他何かの會場で映寫中にフィルムに引火して火事さはぎを演じたといふ様なことを新聞紙上で散見するがこれは全く映寫機使用者の不注意から起ることが大部分であるさうだ。使用者は綿密なる注意と沈着な態度がなければならぬ。活動寫眞は危險なものだと一般素人の人が思ふのは無理ないこともあらうがこれは機械の罪ではなく使用者の不注意から來る罪である。使用者が用意周到でありさへすれば如何なる器械も故障ない限り絶対安全であると言ひたい。けれども使用者も萬一の不注意をまぬがれないのだから餘り技術に堪能でないものにはゴールドグラスシャッターのつけてあるものゝ方が絶対安全であり停止映寫も出来るから特に學術物の映寫には兒童の學習上便利だと思ふ。このゴールドグラスシャッターの装置のあることはフィルムに引火せないといふ點から考へて停止映寫できる上から考へて大した發明考案と言はねばならぬだらう。勿論これらの機械は電力に依る自動式のものであつてこ

の自動式廻轉は又手廻しのものより多少の不便な點のあるのは又已むを得ないことである。

映寫前の注意

私はこの項に於て各映寫機の使用方法を詳細にわたつて書くべきであるがとても紙數が許さないで、今私の學校で使つてゐるアクメ十二號型をその一例として書いてみたいと思ふ。

映寫機は頑丈な机又は映寫機臺としてつくられた臺の上に据へ機械が絶對うごかない様にして映寫機後端のモータースイッチと電燈スイッチを切り、『OFF』とし速度調節ボタンは遅『LOW』に置き尙映寫機前端下部の巻返映寫指示ボタンは映寫の方へ廻しておく。



(なほ右の圖に示すボタンは映寫機廻轉中には決して廻しはならぬ。)

次に映寫機に附屬のコードを以て電流を取る所のソケットと映寫機後端のソケットとを連結すること。映寫機内の反射鏡電球聚光レンズ及映寫レンズは常に注意して拭き置くことなど忘れない様にせねばならぬ。映寫機後端の電燈スイッチが『ON』を示すときに映寫用電球に點燈され『OFF』を示すときに消燈し案内燈は映寫機内フィルム窓の上部に簡単に點燈される様になつてをる。さて映寫用電球に點燈されても幕に白い輪廓が現はれないときには側面の停止映寫ボタンを矢の方向前方に廻して映寫レンズのまへからシャッターを避ければよす。

次に焦點ボタンを廻して鮮明整然たる輪廓をスクリーンに現はし、若し不鮮明のときは指跡のつかぬ様に鹿皮又は布かきれいな紙をあて、映寫レンズを前後何れかに動かして焦點を得る様に調節するのである。

若しそれでも畫面の一部がどこか暗い様なときには電球の位置がわるいのであるから電球臺の止め捻をゆるめて電球を上下左右に動かして光源の中心が反射鏡と聚光レンズの真中に

映寫機の使用法

來る様に調節すべきである。かくして焦點を得た後電燈スイッチを『ON』に廻して切り次の準備にとりかゝるのである。尙映寫前に必ず忘れてはならないことは油の差すべき場所には油を差しておくことである。

フィルムを掛けるには

フィルムを掛けるには先づ映寫機内窓の上部にある案内燈パイロットに點燈し映寫機内のフィルム收納罐を開ける。内側に固着してゐる方が巻取罐で外側の手前に開いた方を供給罐といふ。前者はフィルムを巻き込む罐で後者はそのフィルムを送り出す罐である。双方の罐の心棒の先きに縮金が付いてをるからそれを真直にする。一枚の梅鉢を供給罐に入れ夫れから映寫するフィルムの前後裏表をよく改めフィルムが出る様に供給罐へさしこんで又一枚の梅鉢を入れ心棒の縮金を締めるのである。このとき注意すべきはフィルムには光澤ある SINSIDE 面と無光澤の DULLSIDE 面とがあるから罐に入れるときには此の無光澤の面が上になる様にするのである。いつでもフィルムを供給罐に入れて上にのばした場合光澤面が常に右側にな

ればよい。

次に三尺ばかりフィルムを出しておいて機械箱の上部にあるフリーミングボタンを捻じて機械全體を出来るだけ前方に送り然る後クロスと印付けてある防火辨を開きフィルム窓を開け三つの齒車に付いてゐるフィルム押へを下又は左へ押しあける。フィルムの光澤面を右にして一度手まへに捻つて無光澤面が光源電球に向く様にして右手に持ちフィルム窓の下の齒車にフィルムの目が齒車の齒に合ふ様にかへ左手にてフィルム押へを齒車の方へをし返しそれからフィルムを真直にフィルム窓にあてがひ窓を閉めるのである。

次にフィルム巻取罐に觸れぬ程度にフィルムをたるめて取入れの齒車にかけ前と同様フィルム押へで押へ穴に切込みのある梅鉢を巻取罐の中に入れ右廻轉にフィルムを巻取る様に巻心に巻いて第二の梅鉢を入れて縮金をしめる。それから防火辨即ちクロスを閉めてフィルムが箱の内面巻返用ローラーに觸れぬ程度にフィルムをたるめて手まへの齒車にかけフィルム押へを押し上げフィルムの残りは梅鉢を廻して巻取らせ供給罐を閉ぢるのである。要するにかういふことは實際に練習されるればすぐ出来ることであつて最も熟練した人であると今言つ

ただけのことは卅秒ぐらゐで出来るし普通にやつても一分間とはかゝらないのである。

フキルムの映寫が終るときには

フキルムを映寫する際にはよく注意して映寫機箱の前端下方にあるボタンの針をピクチュアの方へ廻し速度調節ボタンは必ず *LOW* の方へ廻しておくこと、停止映寫した場合も繼續して映寫に移る前も注意してせひスローの方へ針を廻すこと、且電燈スイッチを *ON* に廻して映寫ランプを點けておくのである。而る後モータースイッチを入れる。これは映寫する際のことであるが映寫が終るときには注意してフキルムの最後の齣が終らぬまへに映寫ランプを消すと不愉快な白き閉光がスクリーンに現はれず従つてフキルムの内容についても學習者即ち觀覽者に好印象を與へるのである。全部フキルムが巻取罐に巻込まれた後モーターのスイッチを切ると同時に速度調節ボタンをスローの方へ廻すこと。若し映寫機を數分間も使用しないときにはコードのプラグを引抜いておくことが肝心である。

フキルムの停止映寫するには

フキルムの停止映寫は小學校などで學術物のフキルムとか何か難解の場所の説明には是非必要なものである。この停止映寫するには映寫中先づモータースイッチを切る。そうするとゴールドグラスシャッターがコンデンサーとフキルムとの間に下降し電球から出る熱線だけを反射放散して光線のみ通すからフキルムの繪があだかも幻燈の様靜止してスクリーンにうつるのである。若し何らの光がスクリーンにあらはれないときはシャッターがじやましてゐるのであるから箱の側面にあるステイルピクチュアボタンを矢の方向にまはして調節するがよい。停止映寫後再びもとの如く動かすには最初速度調節ボタンをスローに廻しておきモータースイッチを入れて靜かに速 (*FAST*) の方に廻せばよい。

フキルムを機械に巻きかへすには

フキルムを映寫機で巻返しするにはパイロットを點じ映寫機前端のボタンを巻返しの方へ

廻しておく。フィルム収納罐を開けると手前の方が供給罐で固着した方が巻取罐であるから双方の心棒の締金を真直に起し巻かへしせんとするフィルムを梅鉢にはさんでフィルムが出る様に供給罐に入れて締金を締めるのである。

次にフィルムを巻返用の二つの木駒に掛けて巻取罐内に兼ねて備付の巻芯にフィルムの光澤面が巻芯の方に向く様内側にして巻付けておくこと。このときフィルムの光澤面が巻返し木駒に向つてゐる様注意すべきである。

斯くしてフィルム巻取罐の方の巻芯にフィルムをまきつけた後今一枚の梅鉢を入れて締金でしめつけて収納罐をとちておくのである。輪廓調節ボタン及び焦点調節ボタンを廻して機構部を出来るだけ後方へやつておくこと。尙箱の前端にあるボタンをまきかへしの方へ廻してあつるや否やを今一度たしかめてから速度調節ボタンをスローに廻しておきモータースイッチを入れて靜かにファストの方へ廻すこと。フィルムの巻返しを全部終つたらモータースイッチをきり箱前端のボタンを必ずピクチュアの方へ廻しておくのである。

油を差すには

齒車及び収納罐齒車及び収納罐齒車押を除いた他の油差管及び油差孔には映寫機使用毎に油を差すことを忘れてはならぬ。然し特に注意すべきはフィルムに接する場所には油がにじみ出でない様に拭ひとることである。最も油の必要なところは巻取罐の心棒に OIL HERE とかいてあるこゝにはいつも油氣がないと心棒がやついて廻轉不能になるときがある。

レンズの手當及び電球の位置

反射鏡電球及びコンデンサーの前後は映寫する度毎に鹿皮か又は柔い布で拭くこと。電球をとりかへた時は必ず電球の發光纖維が正しい位置にあるかどうかを確かめねばならぬ。尙電球纖維の位置の如何は光力に非常な影響をあたへるものであるから特に細心の注意が必要である。

Lens Table

レンズの インチ	映寫 距離	25 Ft.	30 Ft.	35 Ft.	40 Ft.	50 Ft.	60 Ft.	70 Ft.	80 Ft.	90 Ft.	100 Ft.
3.0"	縦横	5.6	6.7	7.9	9.0	11.3	13.6	15.8	18.1
	縦横	7.5	9.0	10.5	12.0	15.0	18.0	21.1	24.1
3.5"	縦横	4.8	5.8	6.7	7.7	9.7	11.6	13.5	15.5	17.4
	縦横	6.4	7.7	9.0	10.3	12.9	16.5	18.0	26.9	33.2
4.0"	縦横	4.2	5.0	5.9	6.8	8.5	10.2	11.9	13.6	15.3	16.9
	縦横	5.6	6.7	7.8	9.1	11.3	13.6	15.9	18.1	20.4	22.9
4.5"	縦横	4.5	5.2	6.0	7.6	9.1	10.6	12.1	13.6	15.1
	縦横	6.6	7.0	8.0	10.1	12.1	14.1	16.1	18.1	20.1
5.0"	縦横	4.7	5.4	6.8	8.2	9.5	10.9	12.2	13.6
	縦横	6.3	7.2	9.1	10.9	12.7	14.5	16.3	18.1
5.5"	縦横	4.3	4.9	6.2	7.4	8.7	9.9	11.1	12.4
	縦横	5.7	6.6	8.2	9.9	11.5	13.2	14.8	16.5
6.0"	縦横	4.5	5.7	6.8	7.9	9.1	10.2	11.3
	縦横	6.0	7.5	9.1	10.6	12.1	13.6	15.1
6.5"	縦横	5.2	6.3	7.3	8.4	9.4	10.5
	縦横	7.0	8.4	9.3	11.1	12.5	13.9

レンズのインチに就て

映寫に際して最も關係の大きいのはレンズのインチと距離とによつて畫面に大小を生ずることである。

アクメ第十二號F型映寫機には伸縮自在な四インチのレンズがつけてあるから八間乃至十間の距離を最も適當とする。例へば八間の距離に於て縦八尺五寸横十一尺三寸の畫面を映寫することが出来る。

レンズとインチと映寫距離の關係は本表の通りである。

フキルムの手當及び接續法

萬一映寫中フキルムが切れたときにはすぐ映寫を止めて巻取罐の中にてクリツプ(ゼムピン)をもつてつぎクリツプでついでところを巻取罐の中で少し巻き込んだ後映寫するのである。然しこれは應急手當であるから映寫が終つたら忘れない中に必ず接合藥(アセトン)で接續しておかねばならぬ。尙フキルムの取扱法について詳細を知らうとされる方は大阪毎日新聞社発行の映畫教育昭和三年の第二輯から交野宗一氏がかいてをられるのでそれをごらん下さる方がいゝと思ふ。

手廻映寫に際して

手廻し映寫をなすにはモーターのスイッチを入れて手廻しをした方が比較的軽いが最秘から全然手廻映寫しなければならぬときは豫めモーターのベルトを外しておいた方がより軽く手廻し映寫することができる。クランク(CRANK)はあまり無理をすると切損する虞

れがあるから手廻し映寫に先きだち側面のスタイルピクチャーボタンを矢の方向に僅か廻すかモーターのベルトに助力して手廻映寫するがよい。

變壓器の使用に就て

アキノ映寫機は普通電壓九〇ボルト乃至一一〇ボルトまでの電流が最も適當だが一般電燈線は一〇〇ボルトであつて都合いゝが地方によつては八〇ボルト甚だしきは七〇ボルト位のところが多くある。七〇ボルトや八〇ボルトでは畫面不鮮明であるから變壓器を用ひるのである。

變壓器は四割まで上昇することが出来るから一〇〇ボルトのもので一四〇ボルトになり八〇ボルトのもので一一二ボルトまで七〇ボルトで九八ボルトまで上昇する。かうなると映寫に必要なだけの電壓があるわけである。但し變壓器の使用は必ず交流でなければならぬ。もしも誤つて直流につなぐと變壓器内を焼いて了ふのである。

ベルトに就て

映寫機内のベルト二本の中、モーターにかゝつてゐるものは四五時間も使用の場合又は夏夏候など多少延長して偶々スリップすることがあるこのときはモーターの右側をつまんで約一寸ぐらゐの隔りがある程度に短縮すればよい。

シャッターの流れるとき

フィルム映寫中字幕が林の様に筋を引くことがある。これを俗にシャッターが流れると言つてをる。これを調節するには映寫機前方の丸穴からシャッター（二葉のプロペラー）を止めてある二つのネヂをゆるめて映寫機側面のスタイルピクチャーを矢の方向に廻して映寫窓下のスポロケット（齒車）が今正に廻り初めんとするとき二葉のプロペラーの何れかがレンズから出る光を全然隠くしておればよいのである。

修理及び部分品の補給

修理などは初めの中はあまり自分で勝手にやらない方がよいと思ふ。勿論研究のためなら

いざ知らず、その機械を買つた店で専門家に直してもらふ方がいゝだらう。部分品の補給もその機械を買つた商店からだとすぐとりそろへてくれる。

フキルムの蠟引に就て

未蠟引フキルムは早く損傷し易く特に新しきフキルムは最初の中にフキルムの目をこはし膜面の藥を削りとりおそれがあるから蠟引器を使つて一はフキルムがすれてきしむ音響を少くし耐久力を強める様にするがよい。萬一映寫窓（アパチンアゲート）に汚物が固く附着すれば銅貨銀貨の類にて毀のつかぬ様摺り取らねばならぬ。

映寫機取扱注意事項

前述の注意と重複する虞れもあるが取扱上の諸注意をこゝに列記しておく。

- (一) 反射鏡、電球、聚光鏡、レンズは使用前に必ず拭ふこと。
- (二) 自動車は常に餘分のタイヤを備へてゐると同様に映寫機にも必ず一個以上の映寫電

球を備へておくこと

- (三) 機械を使用せないときは電球のプラグ（繼電器）をぬきとつておくこと。
- (四) 機械使用前には必ず適量の油を差すこと。
- (五) 映寫中は必ず映寫機箱の扉を閉づること。
- (六) 映寫機及びフキルムの附近に火をおかないことは無論絶対禁煙を守ること。
- (七) マッチ、ローソクなどを使用して機内をのぞかぬこと。必要の場合は案内燈を使用すること。
- (八) 使用しないフキルムは必ず罐におさめてふたをしておくこと。
- (九) 映寫機を使用しないときはフキルムを機内にかけて放しにしておかぬこと。
- (一〇) 箱の前端にある「Picur-Revid」のボタンはモーターの廻轉中には絶対に觸れぬこと。必ずモーターを止めて調節すること。
- (二) クリップ（ゼムピン）はぜひ用意しておくこと。
- (三) 齒車、フキルムの通過する窓及びローラー等は常にきれいにしておくこと。

映寫機の使用法

- (三) フイルムの切れたときは直ちにモーターを止めねばならぬ。
- (四) 映寫中は絶対に傍を離れてはならぬ。映寫中は常にモータースイッチに指をかけてゐることが最も安全である。
- (五) ゴールドグラスシャッターの昇りがおそくシャッターの輪が畫面に現はれるときは上部の油差し引窓をあけて油を差すこと。
- (六) 防火辨をとじたばあひフイルム窓の扉との間に隙間がない様にレンズの「Jico」を掴んでゐる輪のネジを緩めて調節すること。
- (七) 映寫機内部の手入は柔かい布にワセリンをつけて拭ふこと、すべて機械の耐久力はその手入の如何によつてすいぶんちがふものである。尙手ばかりでなく研究心をもつて取扱ふこと。(アクメ映寫機使用法より)

三 小學校に於ける映寫場の設備

暗室装置

映畫教育が夜間に於て行はれるならとにかく、小學校に於ては夜間に行ふといふことは色んな方面より考察して不便でもあるし、又非教育的非衛生的なことが伴ひ易ひから我々は晝間に於て行はねばならぬ。

夜間に於て行ふのであつたならば運動場でも講堂でも教室でも凡そ電氣の設備さへ出來てをれば即ち電力が映寫場まで來てをれば文句ない筈である。勿論理想的に考へていくとたゞ暗ければうつせる教育出來るといふことはすいぶんつまらない考へかただが、出來ることは事實であらう。然し前述の如く小學校に於ては夜間はよくないのだから晝間に於て映寫出來る装置がなければならぬ。明室に於ける映寫幕もあるさうだがこれは只今のところ完全なものでなさうだときいてゐるからどうしても暗室装置といふことがこの映畫教育には第一の必要條件である。(明室に於けるスクリーンのは後の項で少しのべることにする)

然らば暗室装置はどこへするか？今後の小學校に於ては映寫場兼用の教室が出来るだらうと思ふが、今のところ初めから映寫場兼用といふ考へで建てられた教室は餘り多く見當らないのである。それでこれから映畫教育を試みやうといふ學校に於ては先づ講堂と映寫場と兼用したものが一ばん便利である。これは多くの子供を收容することが出来るしその他成人教育なんかにも使用するにも都合がいゝ。私の學校に於ては講堂が暗室装置になつてゐる。尙理科室はこの學校でも暗室装置が出来てゐるようがこれなどはすぐ使用出来るからよい。その他地歴室ぐらゐは暗室になる様に出来てゐても大へん便利だと思ふが暗室装置も經費が相當かゝるから先づ講堂と理科室だけでよからうと思ふ。

暗室を作るには色々な方法もあるが一ばん安價に仕上げ様と思ふと黒の縞子に綠色のネル地の裏をつけるか又は赤のネル地の裏をつけたカーテンとなして光の入つてくる窓をおほふ様にすればいゝだらうと思ふ。巾七間に長さ十二三間の講堂で（勿論窓の大小多少によつてちがふが）約參百圓もあれば十分だと思ふ。然しこのカーテン式は後述の通風との關係から考へて餘りいゝ装置ではない。それよりも窓の一ばん上部に巻いておいて使用のときに下す

様にしておく方が一層よからうと思ふ。これは講堂の體裁から言つてもよいだらう。

子供や教師の出入する口だけはカーテン式にしておけば一々巻き上げたり下したりするところがいらなくて都合いゝ無論この巻上式カーテンだと少々高價になるだらう。

要するにこの暗室装置の良否は映寫そのものに多大の關係をもつてゐるものであるから精々いゝ装置をせねばならぬ。

理科室、地歴室、普通教室の暗室装置は大體講堂と同じだ。ただ是等の教室は講堂よりも狭いのでから費用の點について講堂のそれよりも少くていゝわけである。

暗さの程度と視覺

完全なる暗室設備をなすと映寫場内は暗夜に等しいものであるが、實際に於てはかくの如き暗さは必要ないし通風その他の關係上そんなに暗く出来るものではない。又餘り暗いといふことは視覺の方から言つてもよくないだらう。畫面が鮮明に見えるだけの暗さがあればそれで十分で、室内に二三個の半球状のおほひのあるランプ（これは十燭位のものでよい）が

小學校に於ける映寫場の設備

當然必要になつてくる。尙映寫以外の時間は黒のカーテンを開くか、若しくは明るい電燈の設備は言ふまでもないことである。

兒童は運動場なり教室なりをいつてすぐ暗室である映寫場へはいつてくるのである。この明るいところから急に暗いところへはいるとき目は一度に瞳孔を大きくするため、その急激なる變化は眼の衛生上よくないだらう。又暗いところから急に明るい運動場その他に出るとも前と反對の現象であつてよくないことは事實である。そこで最も理想的に言ふならば映寫面を一ぱん暗くしておいて次第に後方になるほど少しづつ明るくするのが適當だと考へる。

尙映寫中と言へども各人の顔が誰であるかすぐ判別出来る程度の暗さでなければならぬ。

この照明は相當に考へねばならぬと思ふ。この外に壁の色とか面について考察を試みるならば大體壁は灰色でいゝだらうと思ふ。而も壁面が濃いよりも粗雑な方が光の反射が少なくていい。若し講堂内部の壁が大へんりつばな白壁なんかであることは暗室として映寫場として理想のものであるとは言へない。

兒童が直射光線のきつい校外などで遊んでゐるときには先づ教室か廊下に整列せしめて三

四分間休ませ然る後に暗室設備の出來た部屋へ入れるか、すぐ講堂なんかへ入れた場合は兒童がはいつてから四五分間もしてから黒いカーテンを下して暗室にするかどちらかでなければなるまい。反對に映寫場から出るときも同じことである暗いところからすぐ運動場などの直射光線のきついところへすぐ出さないで映寫終了後も四五分間映寫室にとどめおき靜かにカーテンを上げて日光線を入れるか、又は映寫終了後すぐ電燈をつけしばらくして廊下へ兒童を出し、後運動場へ出すか、その時その時に應じて眼の衛生的方面にも細密の注意を拂ふべきである。

田舎の映畫常設館などではかういふ衛生的方面が餘り考へられてゐない様であるのは兒童のみではなく、一般觀覽者にとつても大へんよくないことに相違ない。その他不潔な點に就てもこの常設館などは遺憾なところが多い。

我々學校で行ふ映畫教育に就てもかういふことは得てして忘れ勝であるがよく注意の上にも注意をめぐらさなければならぬだらう。

通風装置

映寫場内に於て最も困ることは通風装置が完全に出来てないことである。十分な通風設備をなすと室内が明るくなつて都合わるいだらうし去りとて全部どこも密閉してしまふことは衛生上これほどわるいことはない。

そこでこれは暗室設備と多大の關係をもつてゐるのであるが、映寫場の硝子窓を全部開放してそこへ黒いカーテンを下げるのであるが、これでは折角窓を開けはなしておいても又密閉してしまふことになるから、カーテンの下部即ち窓の下部の方は二三尺カーテンが窓にびつたりとくつつかない様にして映寫幕に遠い方即ち後の方で斜に開けておけばよい。割合に下部の光線はスクリーンには影響しないものである。かうしておけばたえずその部分より新鮮な空氣が入り込んで来て春から夏にかけての暖かいときでも餘り苦痛ではないだらう。

勿論六月下旬から九月中旬にかけてはこれだけの通風装置ではとても暑苦しくて映畫そのものを満足に観ることは出来ないから、映寫の時間をごく短くして時々窓外の空氣を中へ入

れるため周囲のカーテンをまき上げるか、さうせないときは場内に扇風器の用意をするかどちらかでなければとても辛抱出来るものではないだらう。何の通風設備もなしに汗を流しながら一定の時間兒童を場内に入れておく時には往々腦貧血などを起したりするものである。

映畫は子供にとつて非常に面白いものであるだけに子供は無理にがまんしてゐるものであるから外へ出たときに顔が青ざめてゐるのをよく見うける。私たちはこの方面の考慮を一層深くせなければならぬだらう。

この外に光線のはいつてこない通風装置はいくらもあらうと思ふし、それ／＼の建築に相應した設備を工夫案出すべきである。

完全なる通風の設備あるならばとにかく、でないときは一時間の映寫時間中には是非中途に於て一度窓を開け窓外の新鮮なる空氣を入れるべきである。

よく映寫場内に入つて何だか汗と油の様な然も炭酸ガスのまじつた異様な悪臭のしてゐることがあるがこれなんかたゞ映畫にのみ熱中して兒童衛生の方を何ら考へてゐないものであると言はねばならぬ。

映畫學習のときのみでなく我々はやゝもすると教授にのみ頭を使つて衛生方面のことを何ら考へないことが間々ある。だから學習法とか指導法が進歩發達して來た割合に教授衛生といふことは忘れ勝になつてゐるのである。

映畫學習者の席の作り方

特別に映畫にのみ使用する室ならばいろ／＼の註文も出来るわけだが私だちの現在使用してゐる講堂とか教室を映寫場に兼用するのであるからとても理想的な觀覽席即ち學習者の席を設けることは出来ないと思ふのである。だから現在どこの小學校でも普通講堂と言へば四角な平面的な教室を一層とりひろげだ様なものゝみであるから、この講堂を使ふとして席の作り方を工夫してみなければならぬ。

で、先づ椅子のならば方であるが同じ高さの椅子を講堂一面に同じ様に列べることはすいぶんまづいならば方である。勿論椅子と兒童の脊丈といふことを考慮せなければならぬが、先づ低い椅子を前列の方へ配列し高學年の高い椅子を後部の方へ廻す様にするのが一ばん普

通なやり方である。

かういふ様にせないと後の椅子に腰を下してゐる兒童は映寫が初まるとそろ／＼腰を上げさはがしくなるのは兒童の見たいといふ氣持から考へて當然である。かうなつて一部分のものでさはがしくなるといふことは場内にをるものが自然と緊張味を缺くことになる。こちらから注意せなければならぬ様になるといふ工合である。私だちは兒童のさはがしいことについてはよく考察してみなければならぬと思ふ。兒童の雜談とかさはがしいとかいふのは一人兒童の罪ではなく大抵の場合教師側の不注意に依ることが多い。さて低いものから順次高いものを列べてこれでいゝか、といへば普通講堂でお話をきくとか童話の會のときだかと音樂會のときなればいゝだらうが、映畫の會に於てはこれでは十分だとは言へない。童話の會や音樂の催しものゝときでも出演者の顔が十分見える程度でなければ、くないだらう。よく教師によると顔はみえなくとも聲だけきこゑたらいゝのだと言つて兒童に叱りとばす人もあるがこれは少し考へものではなからうか？音樂をきくときなど耳へ音がはいつてくれればそれで十分だと思ふ人も中にはあるだらうが、音樂とは音のみものではないと考へる、出演者

小學校に於ける映寫場の設備

の態度姿勢表情唱誦等の集まりを私だちはきくのである。こゝに藝術としてのうまさや味はれてくるのである。音楽を耳のみできくのだと思つてゐるのは大きな誤りであると言はねばなるまい。無論耳で味ひつゝ眼でも視るものである。或食べものを食べるのに口でのみ即ち舌の味覺でのみ味ふのだと思つてゐる人があれば誤解も甚だしい。舌で味ふとゝもに目でものを食べ耳でものを味ふのである。

だから童話といふ様なものでも出演者が眼に見えなければならぬのである。音楽とか童話といふものでも席の作り方が大へん重要なことである。で、映畫に於てはこのよく見えるといふことが第一の條件であつて席の作り方に細心の注意を必要とする。音楽の會のとき少しぐらゐ出演者がみえなくともいゝではないかと言へばそれでも通らないことはない。勿論前述の如き考へかたから言へばすいぶん無暗な言ひかたであるが、然し映畫に於てはよく見えなければ何ら價値がないことになつて終ふ。

映畫の場合畫がよく見えると言つても種々な場合がある。スクリーンが全部見えてゐて映畫が自分の眼の中へはいつて來てゐても全く駄目を席がたくさんにある。そこで相當幅の廣

い講堂などであると講堂の兩側は餘り使用せない方がよい。私が全くだめな席と言つたのはこゝ兩側と、スクリーンに最も近い前列のことである。

何ぞこの兩側は畫を観るに駄目かといふと第一レンズから出た光線がスクリーンに映つて反射して私だちの目に入るのだがこの反射角度が大きくなると畫像そのものが普通に観えないで或は非常に巾廣くみえたり丈長くみえたりする。然しこの兩側と言つても程度問題で狭い講堂であると兩側も問題ではなからう。尙最前列は別に見えにくいといふことはないのだがこの最前列がスクリーンに大へん近いときにはうまく見えないといふのである。少くとも最前列と言へどもスクリーンから二間ぐらゐは離れてゐなければならぬと思ふ。二間以内で畫をみるとか大へん巾のひろい講堂で右又は左に片寄つてみるとかは畫そのものがよく見えないといふばかりでなく眼の衛生上から考へても大へんよくないことである。

次にスクリーンは往々後からもよくみえる様に高いところに張られるのが普通だがこれもよくない。最後列が見えさへすればなるべく低いところに張る方がいゝのである。映畫面は見上げるよりもかへつて見下す方がいゝといふことである。(スクリーンに就ては後述する)

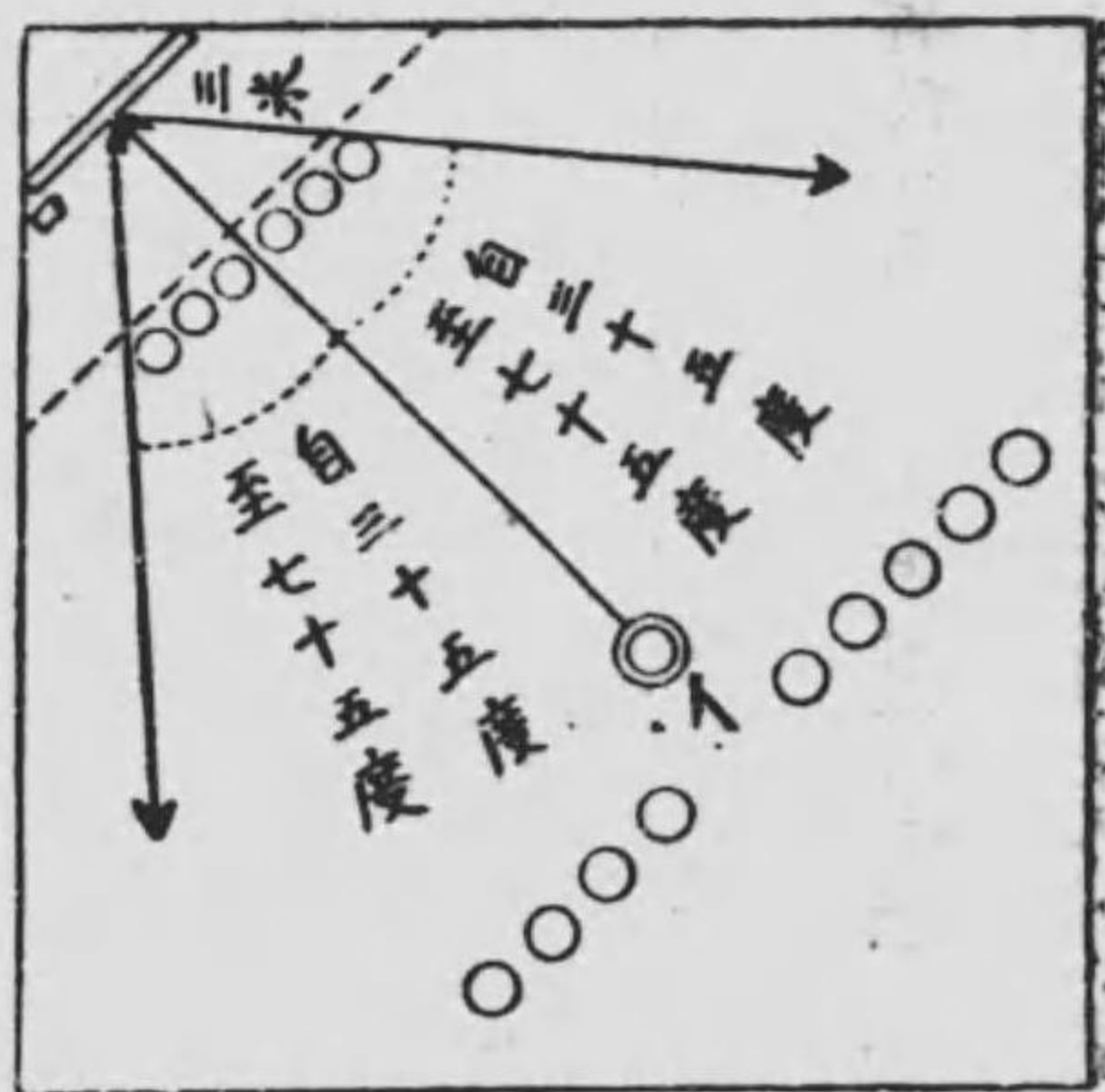
そこで観るもの、席の最もいゝのはスクリーンに直角な線を中心にして一方へ三十五度乃至七十五度の角度をひきその角度内に設けるのがよいと思ふ。勿論人數とか廣さとかいふ點から考へて理想的には困難な事情もあるだらうが大體の標準を示せばかうである。
今観覽席を圖で示してみると左の通りになる。



- イ 映寫機臺
- ロ スクリーン
- 印は観覽席

右は講堂などの如き奥行の深い部屋の座席の作り方であるがほとんど正方形に近い教室とかその他部屋では次の圖に示す様な座席のとりかたもよからう。

映畫観覽席(二)



- イ 映寫機臺
- ロ スクリーン
- 印は観覽席

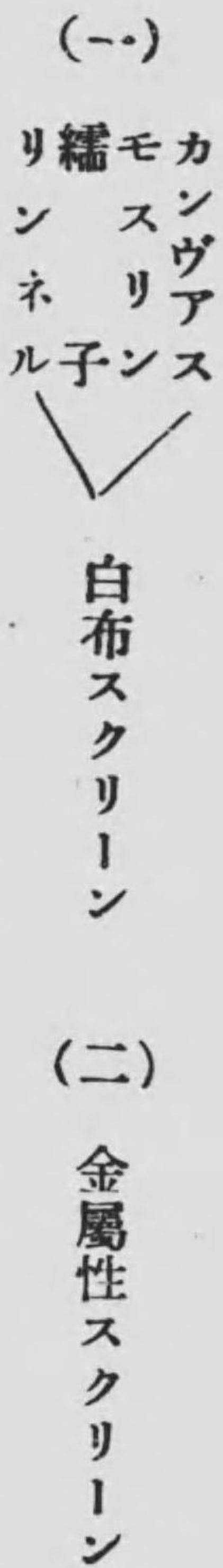
普通手廻しの映寫機である、甚だしく機内の光線が機後にもれて映寫機後でみることは出来ないものであるがアクメとかデヴライ其他携帯用型で光線が箱から外へもれない様になつてゐる機械にあつては機の直ぐ後は別だが斜向ふに映寫機があつても光線にわざはひされることがないからよくみることが出来るのである。

映寫幕の種類

スクリーンには色々のものを使用することが出来る。眞白に塗つた壁なんかも使へるだらうし白木綿のスクリーンでも映寫出来ることは確かである。然しこれも相等研究して映畫効果の大きいものを使ふのがいゝだらう。現在スクリーンとして用ひられてゐるものには大體

小学校に於ける映寫場の設備

左の様なものである。

- (一)  (二) 金属性スクリーン

この金属性スクリーンは視覚度が大へん狭いもので映寫機及びスクリーンをつらねた中心線から一方へ三十五度ぐらゐは有効であるがそれをはずすとやゝ暗くて見えない様になる。それでこの種のスクリーンは非常に細長い部屋即ち奥行の深い室ではいゝだらう。シルバースクリーンといふのがこの金属性に屬するものであつてその特徴とするところは映寫機から投げ出された光線が強烈に反射されるので餘程鮮明で映畫に、より深みのある様に見える。

普通の白布スクリーンはシルバースクリーンの様に強烈な反射はない代り視覚度が極めて大きい。先づ七十五度ぐらゐまで有効であるから幅の相當廣い講堂などではこの白布スクリーンの方がいゝだらうと思ふ。これは反射がやゝ鈍角であるからである。それにひきくらべて金属性スクリーンは反射が鋭角であるがため視覚度が小さいわけである。

同じ布と言つても光澤のあるものとなつてこの視覚度が變つて來る即ち光澤

のないものは視覚度が大であるに反し光澤のあるものは金属性のものに近く視覚度が狭い。これは映畫の光線にのみ限つたことなくすべて光の反射といふことに心得たものならばすぐ理解出來る問題である。

前に白壁がスクリーンの代用にもなると言つたがこの白壁などは視覚度に於て白布スクリーンとシルバースクリンとの中間だと言つてよい。

小學校などのスクリーンとしては右の中モスリンなどが適當かと思ふが經費の關係上普通の木綿物の少しいゝものを用ひても差支ない。

このスクリーンは講堂その他教室にては劇場の様にはたえず常設しておけないから上へまき上げて吊るしておくがよい。左右どちらか一方へカーテンの様にしぼつておくときは子供がそれにいつか手を觸れて垢をつける事もあるだらうスクリーンには、はが出來てよくない結果をみる。然し一本の心棒にまきつく様に、天井に近いところへつるしておけば手垢がついてよごれる心配はないし寫すたびに下へもどすのであるから小さいし、はなどの出來る事は更になくていつも氣もちいゝものである。この設備などはあまり大した費用のかゝるもので

ないから出来るならば講堂や教室のものも捲き上げ式にしておく方が便利で然も體裁もいゝ。若しスクリーンがいつもまき上げたり左右へしぼつたりすることのいらぬ設備であつたならばスクリーンの前にスクリーンカーテンなどもあつてもいいと思ふ。これは大阪松竹座などで大へんいゝものをつかつておる様だが映寫後室内が明るくなつてもすぐスクリーンカーテンが下つてくると大へんきもちのいゝものである。せいたくと言へばそれまでだが、相當氣分といふことも考へておかないといけぬ、特に情操陶冶を重んずる映寫のときなど場内の隅々まで細心の注意を必要とする。

教室に設備するスクリーンなどは黒板の横の天井に小さくまき上げておくがよいと思ふ。教室などはスクリーンカーテンなど必要は十分あつても設備出来ないのである。

スクリーンはなるべく(子供に見える程度に於て)低いところにかけてうんと見上げなければならぬ様だとよくないと思ふ。普通子供が起立しても子供の頭がスクリーンにうつるかうつらない程度のものでよからうと思ふ。これには映寫機臺を少し高くしておけばよい。

スクリーンの大きさは(講堂用又は雨天體操場用としての)

二〇〇纏——二五〇纏

二七〇纏——三六〇纏

(教室又は理科室地歴室用としては)

二五〇纏——二〇〇纏

二〇〇纏——二〇〇纏

これ位の大きさは是非なければならぬ。實物幻燈などに使用するものこの映寫幕さへあればよいと思ふ例へばライツのエピテイアスコープVD型のものを用ひて實物投射をやるにしてもこれだけのものが必要になつてくるのである。

電力設備

映畫教育に缺くべからざるものは電力であることは申すまでもない。いくらいゝ機械とフィルムを持ち合せてをつても電力がなかつたならば駄であることは今更言ふまでもないことである。現在どんな山間僻地へ行つても電氣の通じてゐない村はない筈である。凡て學校

小學校に於ける映寫場の設備

の所在地とでもいふ程の場所であると必ず電燈がついてゐる。これは確かだが一つ心配することはいくら電燈設備があつても晝継のないところは困る映畫學習は勿論晝間に行ふのであつて、晝間でも電力の來てゐるところでないといふ。勿論電燈があれば晝間の電力の供給をうけることは出来るのだがこれは電力會社が相當な費用を要するので中々やつてくれなゝと思ふ。

そこで只今は晝夜線のある場所として話を進めたい。晝夜線のある様なところだと必ず晝線の取りつけも出來てゐるようがその設備の出來てゐないところは先づこの取りつけを忙ぐ必要がある。これは映畫のために必要かくべからざるものであるばかりでなく理科室には是非缺くべからざるものでもあるからである。若し理科室にこの電氣の動力が來てゐないとするとな現在の理科學習は興味と効果が半減するだらうと思ふ。理科室や家事室に電氣動力の取付けなくして何の理科教授だと言はねばならぬだらう。瓦斯なんかの設備もいゝと思ふがこれは大抵の田舎では求められないことであり、出來ない相談と決つてゐる。せめて電力設備だけは十分にすべきである。

さてこの電力が理科室に設備してあるとればこれを映寫室にまで導くべきである。この取りつけに就て私がこゝで喋々せなくとも電氣會社のお世話になればよい。講堂などにその取りつけを、たならばコードをもつてすぐ映寫機のモーターに接続出來る様しておくことは申すまでもないことである。

これと同時に講堂内に電燈設備をなすべきである。これは映寫時間外に點燈するのであつてこの外に半球状のカバーのついた電燈は映寫時間中と言へども點燈すべきものこれは相當いゝ映畫劇場の設備をみればすぐわかる。この外に説明者用の小さい電燈(ランプ状のもの)が一つ又は二つ必要とする。

講堂内の電燈に點火したりすることは一々その係員をこしらへておくことは不便なことが多いから映寫技術員が映寫しつゝ自由に使へる様なスイッチとしておくことが大へん便利の多いことである。

その他地歴室とか普通教室の電力装置は大體講堂と大差ないが講堂の様には廣くはないのだから電燈なんか五十燭光ぐらゐのもの二つでよいだらう。尙映寫技術員即説明者であるがよ

い、だから別に説明者用の机とかそれに用ふる電燈なんかの必要はない。

映寫機臺の位置と映寫幕の距離

映寫機臺と映寫幕の距離に就ては前述の「レンズのインチに就て」の項を参照されるならば、理解出来ることであるから距離に就ての説明は省くことにして映寫機臺の位置に就て少し話をすすめたいと思ふ。

映畫の大きさと映寫機とスクリーンの距離、この關係を考へるときこの機臺の位置といふことは自然考へねばならぬのであるが、今私がいふ位置といふのは映寫場内のどういふ場所にこの臺を置くかといふことである。映畫を鮮明に正しく映寫するにはスクリーンの中心よりスクリーンに直角の線を引きその一線上にこの臺があればよいと思ふがこれは理想とするところであつて觀覺者の席との關係上已むを得ざるときはこの線上より外れてもあまり大した差支はあるまいけれども餘り斜からスクリーンに投影することは上映効果から言つてよくないことは勿論である。教室内であるときも同じことだと考へる。萬一映寫場専用の室があ

ればこの臺は動かぬものにしておくのだが大抵の場合可動式の臺の方が非常に便利なことは論を待たない。尙觀覺者はこの映寫機臺の周圍には絶対集まらない様にするがよい、臺を中心として四方一米は是非共あけておくのがよい。この空間には誰も入つて來ないやうにしておくがよい。よく映寫機の側に來て煙草なんかのむ者も間々見うけるがこれはその附近にちらばつてゐるフィルムのために甚だ危険であると言はねばなるまい。アクメ、デヴライなどゴールドグラスシャッターのついてゐる機械で映寫中フィルムを焼くやうなことは絶対ないと思ふが、然し機械のことである、いつどんな故障が起らぬとも限らぬから機臺の側に誰も接近しない様に努むべきである。アクメやデヴライの様なゴールドグラスシャッターのついてゐるものは別として、かういふ防火設備のない機械で然も手廻しのものであると往々技術員の不注意不用意からフィルムを焼くやうなことがある。この場合兒童が餘り機臺の近くに寄つてゐることは大へん危険なことである。

非常出口と映寫技術員の態度

普通教室で映寫するときは學習してをるものが少數であるから又出入口が大抵二つぐらはあるから非常出口はこの二つの出入口を兼用して何ら差支ないが、大きき場所でも多數の學習者のあるときは非常出口を室の四方に四つ位にきめておいてもよいと思ふ。

ゴールドグラスツターの着いてゐるもので携帯用のものは機械が箱入になるから映寫のとき萬一フィルムに引火しても箱のふたさへしておけばフィルムは供給罐又は巻取罐の申でクスクスと煙を出してゐるだけだから決して危険なことではない。然し暗い部屋の中でのことだからフィルムにくすぶつてゐる白い煙が濛々とたつので觀覺者はびつくりして立ちさばぐのである。そして我先に逃げ出さんとして大抵のものは怪我をなすに至るのである。じつと落ちつきを見せてゐるもので傷をしたりしたものはない。かういふ場合に技術員は機械のふたをしたまゝ外へ機械を持ち出せばよい。そして煙の出ない様になつたときにふたをひらき内部の諸機械を解剖して掃除をすればよいのである。

このとき技術者があはてたならばかへつて機械を損することになるからどこまでも沈着と細心の注意を必要とする。技術員はたえず廻轉の状態とかゴールドグラスツターの昇降を注意してみてゐることが肝要である。

萬一防火設備のない手廻しの映寫機であるところの手廻し機械の習熟に努むべきは勿論のこと自分の不用意か若しくは機械の故障のためフィルムに引火したときはすぐに電流を切ることは言ふまでもなく、直ちに室内に電燈を點すべきである。フィルムに引火したときは大へん白い煙を出して恐ろしい勢で天井に着く様な大きい焰をあげて燃えるものである。もし天井に火がついて火事ははぎとなればとにかくそれまでに至らないときこの映寫機の側へ兒童が来てゐなければ更に危険なことはないのである。それを觀覺者は非常におそれて立ちさばぎ逃げ様とするので出口に至るまでに押さたりたほれたりして大怪我をなすのであるからどこまでも技術者は沈着機敏でなければならぬ。箱なしで手廻しの機械の場合はこの映寫機臺の周圍二米以内には兒童を入れない様にしておくのがよからう。

又この種機械の場合は映寫機臺の上の天井をブリキか亜鉛板で二米平方ほどはりつめておく方が安全でよい。

映畫と音樂

映畫と音樂の關係に就て論ずべきことは甚だ多いがこの問題に就ては他の人々の著作もありこの方面の専門書をひもとけば理解出来ることであるからこゝでは小學校に於ける實際を研究してみたいと思ふ。

映畫は私だちの眼を奪ふものであるとすれば音樂は私だちの耳を奪ふものである。映畫と音樂とはその本質に於て全く異つた二つであるが私だちの感覺を魅するといふ點からは同じやうな効果をもつてゐるものであると言へる。二つとも異つたものであるが、映畫を見てゐるときに音樂といふものが必要なものになつてくるのである。これは恰度現代日本の映畫界に説明者を必要とするが如く、映畫には是非音樂を必要とする。

特に映畫の情緒的效果を上げやうとするならばぜひこの音樂の力をからねばなるまい。た

とへ説明がなくなつても音樂は必ずなければならぬだらう。勿論映畫に音樂が必要でない場合もある。學術ものなどはその一つである。

然し伴奏者が上映効果を上げるといふことを全く忘れてしまひその映畫を何等理解せないで低劣な説明者の如く無暗矢鱈に音樂をつけるといふが如きことであつたならば却つて上映効果をそぐことになるのは確かである。又その映畫を伴奏者が理解してゐても非常に音樂技術の拙劣な人であるとすればこれも前者と同じ様なことになつてしまふからない方が却つていいことになる。

この點から考へて小學校に於ける映畫に音樂をつけるといふことは大變むつかしいことになる。第一現在の小學校教師の中で特に唱歌教授者に映畫を理解してゐる人は大へん少數であるといふこと、第二には地方小學校の唱歌教授者にはオルガンピアノを上手に弾く人はまことに少ないといふこと、第三には少學校に於て立派なシンフォニー・オーケストラの組織は出来ないといふこと等である。

で、現在の様な状態に於ては小學校の映畫には音樂などつけない方がかへつていいかとも

思ふほどである。若し伴奏をするといふことになつてもどこまでも映畫が主であつて音楽は映畫面に相當する曲目によつてその映畫面から受ける情緒を一段と強いものにする様にせねばならぬ。だから伴奏者は映畫そのものをよく理解してゐるといふことが第一である。私は映畫が主であつて音楽を従であるやうに言つたが勿論映畫と音楽を別々にきり離して行ふときは音楽が映畫の従であつてはならぬことは申すまでもないことである。小學校に於て最も手近で適當な伴奏はピアノ伴奏、オルガン伴奏、ハーモニカ伴奏、バイオリン伴奏、尺八奏等である。この外蓄音器のレコードによる伴奏もよいだらう。要するに音楽を如何にうまく映畫面に伴奏するかといふことは一に伴奏者の研究と力とに待たなければならぬと思ふ。

説明に就て

我國の映畫界に於て説明に就てはすいぶん多くの議論がある様であるが實際小學校に於ては説明はせひ必要なものである。畫面を観るといふことは兒童にとつて立派な學習であるが學習には必ず指導者の説明即ち指導がなくては十分だとは言へないだらう。又子供に説明を

ぬきにして畫面の理解は大へん困難なものである。この説明は地方常設館などでよく聞く様な未熟な然も低劣な言葉を使つてはならない。説明が貧しいといふと兒童の畫面からうける感銘を薄いものにしてしまふだらう。即ち上映効果をそぐことになる。そこでこの説明者即ち指導者はよくその畫面を理解し兒童の心理發達の程度を考へ然もわかり易い言葉で説明してやらねばいけない。そうして特に理解出來にくい畫面は停止映寫をなして十分兒童の頭に會得せしむべきである。

兒童はよく活辯の眞似をする、田舎の活辯士はへんな語調で妙な節をつけて説明することがある私だちはあゝいふ説明のしかたは全然拒する兒童が眞似するのは面白いからでもあらうが、あの語調は私だちに低劣なひびきを與へる。たゞ子供が眞似をするといふに止まるならとにかくあゝした言葉のひびき即ち語感とでも言ひ得べきものが兒童の品性上に及ぼす影響も又大と言はねばならぬ。よく映畫の説明には變な調子になり勝であるがこれは前述の通り兒童教育といふ點から考へて十分注意を用することである。

説明はタイトルを読むだけではない理解に困難な箇所は丁寧に説明してやるべきである。

兒童の理解に困難なところをよく説明し上映効果を一層大きいものにしようとするれば指導者は先づその畫を十分理解しておくべきである。ほとんど自分の映畫にし、自分の作つたストーリーを兒童にわかり易く読みかしてやる様な氣持で説明すべである。自分がその畫の中に入つて説明すべである。

講堂に於ける諸設備と特別教室に於ける諸設備

以上私は講堂理科室にける映畫の設備に就て書いてみたのであるが、この項に於ては前述にもれたところを補ふことにしたい。

講堂が完全なる映寫場であるためには講堂の後部に映寫室があればよい。この映寫室は餘り廣いものでなくても間に合ふので先づ一間に一間半の廣さがあれば十分である。

この映寫室は周圍を防火壁にしておくは無論、機械なども少し高級な固定式のものをも備へたならばいいだらう。そして機械の雑音が室内から外部にもれない様になるべく窓を小さくしておくこともいい。尙この外にフィルム保管室、映寫合圖用、説明者の合圖用としての電

鈴等もあれば申し分ないがこれ等は普通の小學校でばとても出来ない相談の様に思はれる。

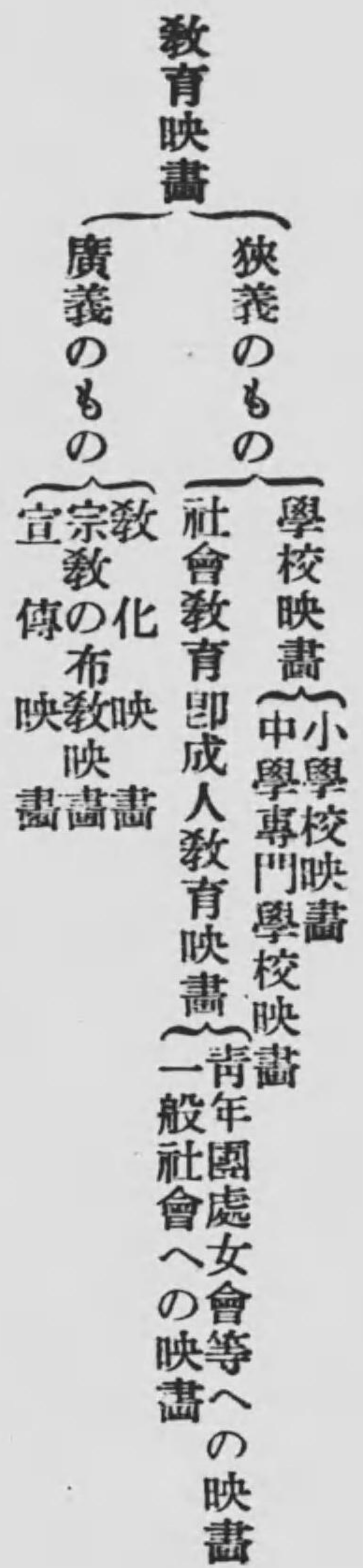
普通教室とか理科室の設備は講堂に於ける設備とは變るべきであらう。こゝには映寫室設備などとても出来ないし電鈴の備へなども餘り必要がないと思ふ。無論完全なる理科室として今後改善されるならばかういふ特別の裝置も決してわるくはなからうと思ふが、今の様な設備ではとてもその上に望めない。かういふ設備の完全に近いほどうまく出来てゐるのは何と言つても東京玉川の成城小學校であるといふことだ。

四 各國に於ける映畫教育の近況

映畫の影響と教育映畫問題

防火宣傳の映畫を觀て放火した少年あがるといふことを私は或る書物で見たことがある。これが事實であるかどうかはしばらく問題としてこの現象が兒童と映畫の密接なる關係を私だちに想起せしむるであらう。

映畫の影響については後述の兒童と映畫の項に於て説明するとして、こゝでは映畫といふ



右の分類は大體權田さんの分類に従つたのであるが、私は主としてその中の學校映畫に就て論を進めたいと思ふ。學校映畫を更に映畫内容より考察してみると、知的映畫、情意的映畫の二つに別けることが出来る。

かういふ分類のしかたはとにかく、學校映畫といふものは教育を目的として作られたものである。教育を目的として作られた映畫はすべて教育映畫といふことが出来るか？ と言ふ問に對して私は躊躇せざるを得ない。何ぞかと言へば如何に教育を目的として作られた映畫であつてもその目的の表現形式に非教育的なことが一つでもあつたならばそれは教育映畫とは言へないだらう。前に例を引いた一少年が防火宣傳の映畫をみて放火の面白味をおぼえて放火したといふ様なことは私だちの考へねばならぬことである。私はこの映畫は學校映畫で

はないしどういふ内容をもつたものかそれは知るよしもないが又この少年の精神状態も個性も何も知らないが若しも放火の面白味を惹起する様な場面が映畫の内のどこかにあつたとしたならばこの映畫の罪も又大きいと言はねばならぬだらう。勿論防火宣傳映畫だから防火の大切なことを説明した書には相違なからうが、何か少年の頭に異様の刺戟をあたへるあまりよくない材料が映畫の一部を占めてゐたとしたならば、かういふものを教育として使ふことはよくないだらう。又かういふ映畫を教育映畫とは言へないだらう。

恰度倫理學に於て行爲を動機、手段、結果の三つに分けて考へたとき如何に動機がよくとも即ち倫理的であつても亦結果が所期の目的を達し得たとしてもその手段方法に非倫理的な部面があればその行爲は倫理的な行爲とは言へないのと同じ意味ではないだらうか？

映畫製作が教育を目的としてであり、その目的を表現する手段形式といふものが又教育的なものであればそれで教育映畫と言ふことが出来ると思ふ。この教育映畫を教育的な還象に於いて上映すればそれで十分教育的効果を擧げ得らるる筈である若しその効果をあげ得られないものがあつたとすれば映畫自體の罪ではなく説明者とか還象とかの罪であると言はねば

なるまい。

教育映畫の本質は此の如きものである。私たちは兒童が一般映畫より、うける悪影響のみを考へ兒童の映畫を愛好する本能的な慾望をおさへることなく、映畫自體の持つ特質を利用しいフィルムに接せしめて、兒童を善導すべきであると思ふ。然るに悲しむべきことには我國にては私の考へてゐるが様ない、教育映畫は甚だ少い。世の教育家、映畫製作者映畫製作會社及び一般社會教育にたづさはる人々の奮起を望むや切である。

特に我々教育實際家の眼をさますべき時である。以上私は主として教育映畫の中でも情意的方面のもののみを述べたのであつて、知的方面のものは考慮に入れなかつたのである。これは映畫自體の性質上餘り問題にすべきほどのものではない。勿論他の意味に於ける私たちの要求はあるとしても、これは何れ後述できると思ふからこゝでは略することにする。

兒童映畫と一般教育映畫

私のこゝで言ふ一般教育映畫とは廣義の教育映畫即ち教化映畫、布教映畫、宣傳映畫、及

び狹義の教育ものの中でも社會教育映畫等を指すのであつて、これらの映畫は兒童とどういふ關係にあるかと言へばそれは興業映畫を見るときに如き危険もなからうと思ふのであるがこれらの映畫は主として成人又は青年向のものであつて、未だ經驗の貧弱な心理發達の幼稚な兒童には映畫内容を理解することも中々困難であるし却つてをもしろくない結果を生みはせぬかと心配するのである。教育映畫であるがためには一般人士を教育する目的のために製作されたものであるのだから言ふまでもなく非教育的なことは盛られない筈である。けれども子供の理解出来ない様な事實が可なり多く入り込まれてゐるとすれば子供の無理解から来る大きな誤解はまぬがれ得ざるものである。この誤解がかなり恐ろしいものであることは我々の教育實際の上に於て往々觀るところである。

そこで私は一般教育映畫を兒童に見せるといふことは少々考へねばならぬと思ふ。こゝに於て矢張り學校用映畫即ち兒童映畫といふものをもつて映畫教育せねばならぬことになるのである。即ち兒童専用の映畫の製作が目下の急務である。

我國に於ける映畫教育

映畫が我が國へ輸入されたのは今から三十餘年前のことであつて、渡來した當時はわづか一部の人々がそれをものめづらしげに興業用として使用したものであり一般の人々もたゞ動く寫眞としてある一種の驚きと子供の如き好奇心をもつて迎へてゐたのにすぎなかつたからこれが教育に利用などといふことは夢にも想はなかつたのであらう。尙この當時は大抵外國直輸入のフィルムを而もごく短尺のものを上映したにすぎないから餘り理解も出來なかつただらうが面白いことにかけては天下一品だつたと想像する。然るに映畫界の進歩は我國でも或程度のフィルムを製作することが出来る様になり、諸外國又争つて映畫の大會社をこしらへていゝフィルムの製造に努めた。こゝに於て外國にては勿論我國にてもこの映畫を教育に利用しようといふ聲が高くなり、はじめは一般民衆にもち出して居つたのであるがこれを學校に取り入れ教育の一助ともなさうとするが様になつて來たのである。

映畫の教育的價値はもはや何人も疑ふべからざるものである。然るに我國に於てこの映畫

を教育に取り入れることの如何に少數であるかと考へるとき、甚だ遺憾な點が多い。教育の能率を増進しその効果をより大ならしめんとしたならば何れの學校に於ても最早何の躊躇もなく映畫による教育を實施すべきである。由來我國の教育界に於ては自由教育だ創造教育だ藝術教育だ教育即生活だ文藝教育だなどその論議は非常にやかましいもので教師諸君は餘り研究を積まず藝術教育の何たるかを問はず、藝術とは如何なるものであるかわけもわからないくせに馳せ參する人がかなり多い。そしてわけのわからぬ論議に花を咲かし理窟をこねまはしてゐる。だからかういふ人々のお手許拜見ときたらどうだ。その實際はことに貧いものである。勿論教育理論の研究も必要なことながらもつともつと教師諸君は教育の實際を凝視すべきである。もつと實際的な施設を豊富にすべきである。藝術教育に口角泡をとばした先生が兒童の畫の鑑識のできないやうなことは困るではないか。文藝教育を或研究會に高唱して居つた先生が綴方の成績を處理せないで机上山をなす状態ではどうなる。

繼續的觀察だ何だといった理科の先生が兒童のノートをいつべんも點檢せないでどうするこの教室は唱歌室として大へん都合わるいと言ふ唱歌の先生口でばかり小言は言つてゐるが

その都合のわるいところを何ら改良しやうと努力せない、私はさういふ状態を到るところ見つけた。小學校教師は口の人であつてはいけない手の人でなければならぬ。

我國の映畫教育の現状も如上の有様を到るところで見せつけられてゐる様では困る。映畫教育が善いか悪いかいつまで議論してゐても盡き様筈がない。教育的に考へて映畫といものが兒童教育上缺くからざる道具であることに疑ひはない然らばこれが實際に織込み教育効果を上げることにつとむべきではないだらうか。けれども私は何でも新しいものを無批判にとり入れよと言ふのではない。凡そ小學校に於ては石橋をたゞいて渡るやうに實着な然も健實なのがよい。然し映畫を小學校にとり入れるについては最早熟慮してゐるのだといふ時代ではないではないか。

最近誌上で傳へられるところによると各地に於て映畫教育の實施を見てゐる様である。その施設がすばらしい勢で増加してゐるのはまことによるこぶべき現象である。特に數年前に即ち大正十四年頃から小學校の實際にとり入れ着々いゝ結果をみてゐるのに東京玉川の私立成城小學校がある。四臺の映寫機と一臺の撮影機の備へがありほとんど完全に近い映寫室の

設備と映寫場をもつてゐるといふことは私たちの羨望にたえざるところである。この外東京大阪各地で相當な設備をなし着々と研究の歩を進めてゐるときが紙面の都合上その紹介を省くことにする。

教育界以外の人々の映畫教育研究又は映畫教育運動も非常に盛になつて來た。即ち大阪毎日新聞社、東京日々新聞社の全日本活映教育研究會と言ひその他各地で開催される映畫教育研究會、大毎フィルムライブラリー、東日フィルムライブラリーの活動、學校巡回フィルム聯盟の組織等、甚だ見るべきものがある。

尙最近各教育雑誌は映畫教育に就ての研究を發表し、特に雑誌小學校は映畫教育研究號を特輯して斯界のため盡されたことを特筆せなければならぬ。

尙大阪毎日東京日々兩社から出てゐる月刊雑誌映畫教育は映畫教育にたづさはる人々の是非見なければならぬ雑誌だと思ふ。

教育映畫の僅少なる我國に於て各映畫會社がこの教育映畫に幾分目をつけ出したといふことも亦よろこぶべき事だと思ふ。若し我國の初等教育界が各校に各一臺づつの映寫機を備へ

たならば各會社は争つていゝものを製作しようと努めるにちがひない即ちいゝもののないのは教育者側の熱意が足りないからである。映畫に對して餘り怠慢だからでもあると言ひ得るが兒童が興業映畫をみることの危険を思ひこれを禁止するは教育者として當然のことではあるが兒童がただ愛好するのではなく本能的に愛好するこの映畫を禁止のみして見せないといふのは、危険な遊びを禁止して兒童にいゝ遊びを與へないのと同様であつて、すこぶる片手落な教育法である。悪いものを禁止すれば一方いゝものを與へてやらねばならぬ。映畫教育を実施することは、よくない興業映畫を見せない様にするためであり然して教科書の補助として非常に有効なものである。

以上の外に映畫問題を中心にして開催された岡山縣及び岡山市主催の全國教育大會（昭和三年四月）京都市主催の映畫教育講演會 昭和三年四月 大阪毎日新聞社内全日本活映教育研究會主催の映畫教育座談會（昭和三年四月）學校職員のために開催された東京日々社の映寫と説明の講習會 昭和三年五月 横濱市の映畫教育研究會、朝鮮の兒童映畫デー、愛知縣小學校長會の映畫觀覽對策として小學校に映寫機を備へるといふ決議 昭和三年六月、岐阜縣の兒

童教育と映畫觀覽對策、富山市の教育映畫デー、大津市の映寫技術講習會、鳥取市の學校映畫施設、愛媛縣社會教育協會の活動、東京市に於ける兒童映畫に婦人の方々の起たれたることと甲府市の教育映畫研究會の設立、宇都宮の教育映畫デー、盛岡に於ける映畫教育研究會、東京市の兒童映畫日の設定、大阪市の學校巡回フィルム聯盟等一々擧げるに暇ないほど全國津々浦々で映畫教育といふものが唱へられる様になつた。これは松竹などが兒童映畫の製作に着手したと相持つて我國初等教育界のため慶ぶべき現象である。

我櫻井小學校に於ても以前よりこれが研究をなすとともに愈々本年度から映畫教育の施設を兒童保護者團の手に依つて完成され一方興業映畫の淺薄低級なもの、安價なセンチメンタリズムなものから遠ざからしめると共に日常教育の補助として、即ち教科書の補助として映畫教育を實施しつゝあるのであつて現在までに非常なる効果を擧げてをるのである。その實際と研究とは後述する。

各國に於ける映畫教育

映畫のすばらしい研究と流行は世界各國共通であるといへよう。英國に於ては一九二四年國內のみの教育映畫問題に就ての會議が開催された。この會議は映畫が教育上利用することの効果が多いものであることを認め教育者はこの教育上まことに有力な手段としての映畫の研究を今後とても十分に行はねばならぬと言つてゐる。尙英國に於ては映畫教育の施設として一週一回に限つてホームプログラムを作りよい映畫を十五才以下の兒童にみせてゐる。そしてこのホームプログラムをみる十四才以下の兒童は他の一般映畫を常設館でみてはいけな
いと言ふきまりになつてゐるらしい。これがいゝと思ふ。一方見せてはならないものを禁止する代りいゝものを提供してみせる。

次に教育映畫の國際的會議としては一九二六年に於て國際聯盟の委員會の主催で開催されそのときの決議事項中の主なるものは(一)社會衛生の指導は映畫によつてやるのが一ばんよいから今後その利用に努めること(二)農業の指導を映畫によつてやること、(三)學校用映畫の製作

並びに利用を今後一層努力すること、などである。この他に一九二六、一九二七、の兩年スイスに開かれた教育映畫の國際的會議に於て申し合せた事項は、今日までの經驗によつて映畫を學校の教育に利用することはたしかに有効なことであり、映畫といふものは國際的のものであるからこれに關係した事からは國際的會議によつて協議して行かなければならぬと言つてゐる。

世界の各國が映畫といふものに如何に頭を悩ましてゐるかはよくうかはれると思ふ。それだから諸外國に於ては映畫の施設と兒童の關係については相等苦心してゐるので或國於ては法律を出して一般映畫を兒童が見ることを禁止してゐるところもある。

スエーデンのストックホルム市に於ては青年及び少年が常設館に入ることを禁止してをりスイスに於ては常設館で上映されるものを廣告するポスターに兒童に見せてもよい映畫があればこれはよいこれはわるいと明瞭に示しておくことを法律で命じてをるほどである。

ポルトガルに於ても十五才以下の兒童の常設館行きを禁止しチェツコスロバキヤにては映畫の檢閲を兒童向、大人向と分けてゐるらしい。

次にギリシヤにては婦人團體が興業者と連絡をとつて子供のためには晝間に上映することにしそれにのみ子供が入場する様にしてゐるらしい。伊太利にても兒童向といふ認定を経なければ兒童には絶對見せないことにしてゐる。獨逸では十八才未滿のものには常設館入場を禁じてゐる。(教育映畫に關する内外の状況を詳しく知らうとされる方は文部省社會教育課編纂にかゝる「映畫教育」中の文部省社會課長小尾範治氏の教育映畫に關する内外の状況といふ一文を読まれたならばよい。私のこの項もその一文に負ふところが多い。)

かゝる世界の現状であるにかゝはらず我が國にては何の制限も設けていないといふことは何とか考へねばならぬことだ。勿論外國の映畫とはその内容もすいぶん異つてゐると思ふが、最近文部省がいゝ映畫をすいせんしてゐるといふことは大へんいゝことである。

五 教育と映畫の關係

兒童と映畫

何ぞお前は活動寫眞を見に行くのだ? と兒童に問ふてみるがよい。これに對して兒童は満足な答へが出来ない。大抵面白いから行きますと言ふだけである。この面白いから行くといふことは活動寫眞がめづらしいからといふ様な意味が餘り含まれてゐない様である。若しめづらしいと言ふのであつたならば二三回見るとその興味はなくなつて終ふ筈なのに兒童はいくらでも見にいゝ終には所謂映畫ファンになつてしまふ。勿論山間の未だ映畫に一廣も接したことのない兒童には最初めづらしからう。好奇心をそゝるだらう。然し常に見てゐる子供がいゝ見ても面白いと言ふのだから不思議である。蓄音機なども面白いものである。山間の未だ聞いたことのない者にとつてはこれまた不思議なもので、もの言ふ機械だとして重寶がられる。けれどももう四五回も聞けば何の興味ももつてゐない様になつてしまふのは何ぞだらうか。現在どんな山間僻地へ行つても蓄音機や活動寫眞の知らない兒童はほとんどなからう。それはすいぶん山間であると未だ知らないものもあるといふことだが極く少數である。

この活動寫眞も蓄音機も幻燈も知つてゐる兒童に尋ねてみるがよい。何が一ばん好きかと



兒童は口をそろへて活動寫眞だと連呼するにちがひない。

なぜ兒童は映畫が好きか。再び私は考へてみる。それは矢張面白いからだ。然してなぜそんなに面白いのか。これを究明することは兒童の心理を究明することであらねばならぬ。試みに今一つの動かない玩具と動く玩具を兒童に與へてみるがよい。どちらを子供はとるだろうか？例へ動かない玩具が金銀寶石をちりばめたまことに高價なものであつても恐らく子供はそんなものに見向きもせないだらう。竹と木の安つばい玩具であつてもそれが前後左右に動くものであつたならば子供はこの竹と木と安つばいものをわけもなくつかみにくるのである。

靜かな水の面をちつとみつめてゐよとは餘りに子供には無理な言ひ分である。不自然なことである。俳聖芭蕉にしてはじめて古池をちつと凝視できたのである。私だち大人にしてはじめて耐へ得らることなのである。子供はちつと靜けさを見守らうとはせない。池の中に木の葉をうかべて遊ばうとする。もしもこの木の葉が風なくてじつと動かないときには石を投げて動かしてみる。そして快哉を叫ぶではないか。

映畫は動く！動くものを子供は愛好するのである。

動かない池へ子供を伴つていくよりも動く海の水を見た方がよろこぶ。この夏私は約十數日間海邊で遊んだ。そこには數知れない子供の群れがある。風もないのに海の波は渚へじやぶんとうちよせてくる。子供だちはむやみに喜びその波打際でたはむれてゐる。もしもあの海がじつと動かない水をたへてゐたと假に考へてみるがよい。何ほど淋しものかわからないそれとも子供のよろこびは半減してしまふだらうと考へた。

子供は動くものをよろこぶ！子供自身が絶えず動いてゐるではないか？

私は未だ四五才の子供がじつと動かないで所謂おとなしく坐つてゐるのを見たことはない。たえず何かして運動をつゞけてゐる。然も實に愉快に！もしも動かないじつと沈み勝な子供がゐたとすればその子供は病身者か何かである。哀むべき子供である。

この間私は飛行船を買つて歸つた。泣いてゐた子供にそれを持たせた。子供はそれをみてもまだ泣きやまない。そこでこの飛行船を糸でつなぎ木の枝につるしてプロペラを廻しつゝ木の枝の周圍をまはして見せた。この泣いてゐた子供はしばらくして廻轉する飛行船を眺め

歡呼の聲をあげた。さきの泣き聲はよろこびの聲と變つた終にはこの飛行船の廻るが如く自分も木の周圍を廻つてゐた。この事實を何と見るか。

此の如く本能的に動くものを愛好する子供が映畫を見たがるのは餘りに當然すぎるほど當然ではないか。この動くものをよろこぶ子供に現代文化の一現象としての映畫を見せないといふのはどうしてか。私にはその理由がわからない。

「もつと本質的に考へて生命の躍動を動くもの内に見出しそこに生の觀照を味はふとする、あるものが子供の心の中にひそんでゐるのである。藝術の發芽が其處にある。動の藝術をよろこぶ心が子供の心の中に無意識ながら備つてゐる。動の中に靜を見ようとするのはもつと長じた大人の者に於いてである。」とは仲木氏の言葉である。

私だちはこゝに於て子供に映畫を提供することの最も自然なことがわかり、子供の藝術といふものも理解出来ると思ふ。

學校で活動寫眞館へ行つてはならぬと嚴命する、兒童は教師の嚴命をしばらくはきく。けれども忘れてしまつてチョイ／＼のぞきこむ。又教師が叱る。又忘れて見に行く。何ぞ教師

の命令が行はれないのならう子供はすいぶん我まゝだ、お行儀がわるい、訓練が行きとどかないなどとならべたてゝ悲觀する教師がよくある。私はかういふ教師に兒童の本性をもつと凝視せよと言ひたい。よく教師は兒童を知らねばならぬと言ふ。兒童を研究せよといふ。この言葉を子供が活動をみたがるのはいけないといふ教師に送りたいと思ふ。

「動くものがみたい、形や色の變化が面白いとするのは兒童の本能である。原始人以來の本能である。映畫をみたらわるいといふのはこの本能をつぶさうとするのと何ら變りはないではないか。原始人以來の遺傳による本能をつぶさうと思ふのは教師の訓話で子供の目をつぶさうとするのと同じである。訓話で子供の目がつぶれないといふことは誰でも知つてゐるがこの愚を映畫の場合教師がくりかへしてゐるのに誰も氣づかないのはどうしたことか。」海野氏が「學校と活動寫眞」でこんな意味のことを言つて居られた。

映畫をみてはならないと教師が嚴命したならば勿論子供はみに行かないだらう。だからと言つて兒童と映畫の問題を解決したと思つてはならない。これは教師の嚴命によつて子供が見に行きたいといふ要求をおさへてをるだけであつて、決して映畫はみたくないといふ氣持

になつてゐるのではない。だから兒童と映畫の問題はこれで解決したとは言へないのである。私は子供の要求ならば如何なる要求でもきき入れるといふ様なことは決してしてゐない。往々に見る兒童の爲すがまゝにまかせるといふ親や教師の考へには賛成出来ぬ。氣まゝ我まゝとかいふものは兒童教育上しりどけたい。又餘り一つものに溺れるといふことも教育上考へねばならぬと思ふが健全なる活動寫眞を彼らに與へ彼らの要求に向つては何等かの満足と與へたいと思ふのである。

見たいが見られないといふことは即ち見たいのだが先生に叱られるために見ないのだといふことになる。かうして兒童の要求を阻止するといふことによつて色々の無理が兒童生活に起つてくることもないとは言へないだらう。かういふ點についても私だち教育の實際にたづさはつてゐるものは細心の注意を拂はねばならぬと考へるのである。

と言つていくらでも兒童がみたいと言ふから見せてゐるといふのではない。これは教育的に考へてその程度がよろしきを得てをらねばならぬと思ふ。

視覚教育——ヴィジュアルエデュケーションと映畫

私だちの五感覺の中視覚は最も重要な地位を占めておるのであつて私だちの日常生活上この視覚に依頼することが最も多いと言はれてゐる。すべての物の知覺にも眼の知覺によることで極めて多く物事を考へるにも眼で見た形や色を心に浮べて考へることが最も多い。色色なことを憶ひ出すにしてもその重さや硬さや味ひを思ふよりも眼にうつたところを思ひ出す方がはるかに多いと言つてゐる。だから私だちの五つの感覺として擧げられてゐる皮膚感覺、嗅覺、味覺、聽覺、視覺の中で何れ一つを缺くとも片輪であることはまぬがれないがこの視覚が最も重要な位置にあることは餘り喋々を要しないことである。だから生理的に考察してみても心理的に考察してみても視覚の質は最も複雑である。

この視覚を通じて教育をなさうとした人は昔から多勢あるだらうが、先づ教育上に視覚手段を用ひ初めた人にはコメニウス(1592—1671)がある。コメニウスは教科書に初めて挿繪を入れたのであつた。覗きめがねや幻燈を視覚教育に用ひるやうになつたのはそれから後の

ことで範圍はやゝ擴大して來たかの感がある。

教育映畫が私だちの教育の中に這入つて來たのは視覚教育即ちヴィジュアルエデュケーションの一手段としてであつて映畫の進歩と相待つてこの視覚教育も一大進展を來たしたのである。

大體我國の初等教育界に用ひられてゐる標本掛圖挿繪とかいふものは最近非常に進歩したかの觀あるが未だ不完全なることは申すまでもない。この方面の製作者、考案者は大へん苦心して作製してゐるのであるが、如何に苦心したつて映畫の如き完全なものは到底望まれなゝいは當然である。

流れる水、飛瀑、飛ぶ鳥の有様、水中にて泳ぐ小動物の状態等は映畫によらなければ見せられないところである。然しこの映畫といふものもただ單に教育的補助手段であつてこれを餘り多くしばしば用ひるといふことは却つて教育上有害なものとなるのである。

最近亞米利加に於て高調されてゐる視覚教育といふものは映畫の教育的價値を過大視して現今使用する教科書を全部徹廢し映畫によつて全教育をなさうとするのである。私はこの極

端なる教育説には無論賛成することは出来ない。

教科書を全部映畫化して使用するといふ議論なども大いに考慮を要することであつて私にこれにも賛意を表することが出来ない。この反對に獨逸に於ては映畫の弊害を述べて映畫の價値を過小視してゐる人もある勿論この論には私たちの傾聽すべき幾多の美點をもつてゐる、がこの説にも私は直ちに賛辭を送ることが出来ないのである。以上簡單に私は現在又擡頭しつつある教育に就て紹介したに過ぎないが今後私自身の研究をこの方面にも大いに進めなければならぬと思つてゐる。

情操陶冶と映畫

情操とは如何なるものであるか？ 陶冶とは？ といふ問題に就ては心理學及び教育學の書物を参照すれば直ちに理解出来ることであり本書に於いてこれが研究をなすべき餘裕を持たない。で、私は本項に於ては情操陶冶又は情操教育といふものに映畫は如何なる役割を演ずるか即ち映畫といふものが如何に有効なものであるかを考察すればよいと思ふのである。

(一) 美的情操陶冶としての映畫

十九世紀に於ける教育運動の中で最も著しいものは藝術教育運動である。この藝術教育運動は美育の性質及び方法を明にする上に大きな貢献があつた。この運動の餘波が我教育界にも浸入してきて一時は藝術教育が非常に盛になつた。そして知的分析的方面を力説した在來の教育を痛罵し情的綜合的美的方面の陶冶を非常に重要視したのである。だから我國に於いても圖畫教育音楽教育綴方教育に美的方面を高調しその表現方面を重じ鑑賞力の養成に努めたものである。

美的情操の陶冶養成即ち美育に映畫といふものが又非常に貢献するであらうといふことは疑ひない事實である。例へば映畫劇をもつて彼等兒童の美感を陶冶するといふことは圖畫、音楽に於けると同等以上の價值をもつてゐるものと私は考へてゐる。

圖畫は空間藝術であり音楽は時間藝術である。藝術味の濃い而も高尚なる趣味の映畫劇は空間的時間的藝術であると言へる即ち綜合的藝術である。綜合的藝術としての映畫劇が私たちの美的情操陶冶に重要な役目をもつてゐることは餘りに明白なることであらう。

(二) 道德的情操陶冶としての映畫

感銘深き修身的映畫によつて、教訓劇によつて兒童の道德的情操を養ひ又國民道德徹底のために、映畫を用ふることはまことに教育的効果の大きいものである。美しい童話に於てこの陶冶をなすことも勿論出来るが映畫を材料にすることは一層徹底度の高いものであると思ふ。

(三) 宗教的情操陶冶としての映畫

所謂畏怖と言はれてゐるものと宗教的畏怖とは多少相違あるが如くに普通的情操と宗教的情操とは異なるものである。この宗教的情操の陶冶を我國の教育界に於てはより重要視せなければならぬ。宗教教育は我國に於て学校教育以外の家庭教育社會教育に任かせておるため餘り教育者が考へてゐないのではないだらうか。兒童に於いては早くから宗教心の萌芽が現はれてゐるこの萌芽を強く伸ばしてやらなければならぬ。映畫に依つてこの宗教的情操の陶冶をなすことは道德的情操美的情操の陶冶をなすと同じく又効果の多きものである。

私は映畫によつて宗教々育をやらうと言ふのではない。兒童の宗教心の萌芽を正しく然も

強く増ひたいと思ふのである。特に現代に於いてこの宗教心の涵養といふことが國民教育上必要なことである。

以上私は紙面の都合上極く抽象的に略述したのであつてその實際に就ては今後何かの紙上で發表することにする。

直觀教授と映畫

兒童に實物を提供し直接にこれを直觀せしめて明瞭なる具體的觀念を得せしめ様とするのが所謂直觀教授の目的である。私だちは教授の中に多くこの方法を取り入れてゐる。この方法が如何に教授の上に有効なものであるかはこゝで詳説するまでもないことであるが教育學者及び哲學者の言ふが如く直觀はあらゆる知識の門戸である。私だちの外界に關する知識は凡て實物の直觀より出發すべきであると思ふ。

勿論實物の直觀は認識の出發點なるをもつて子供が學校教育をうける以前すでに行つてゐるのであるが學校教育に於いてはこれを系統的に秩序的に具案的に行はふとするのである。

然してこの直觀は如何なる感官を通じて行ふのであるか？ 言ふまでも視覺によることが

大部分であると思ふがこの外聽覺、皮膚感覺、味覺、嗅覺も直觀の媒介をなすものである。

だから直觀は視覺にのみよると思ふのは大きい誤りであると言はねばならぬ。

直觀の材料は如何なるものであるか？ これは一々こゝで説明するまでもなく私だちの學校に備へつけてある器械器具標本等枚舉に暇ないほどで、この實物を多くとりそろへた學校は確かに設備がすぐれてゐると言はなければならぬ。學習園の完備、校内に小動物園の設備、礦物の蒐集等は學習上必要缺くべからざるものである。

實物直觀は學年の如何を問はず教育上必要な方式であるが、特に低學年兒童にこの教式を用ふることは學習の効果を一層大きいものにする。

然し直觀教授はその方法等考へないでゐると、兒童に餘り努力を加へさせる機會少く従つて判斷推理の能力を増大せしめることが出来ないだらうと言はれる。確かに直觀教授即ち實物教授は理解しようとする努力を幾分とり去り判斷推理を練磨する機會を與へない場合が多いだらう。けれども私から言はしむればこれは一に直觀教授即ち實物教育の方法に關係を

もつことが多大であると思ふ。その方法に當を失してをれば教育上如何なる有効手段もかへつて所期の目的に副はないことは往々にしてあり得ることである。

實物を用ひてもその方法よろしきを得ば推理判斷の能力を養ひ得ることは十分出来るではないか。尙實物を用ふることに依つて正確なる知識を兒童に得せしむるといふことは教育上忘れることの出来ない點である。

映畫がこの直觀教授に向つて重要な地位を占めて來たことは現代教育界に於ける一新傾向として注目に値する。在來の直觀教授に用ひられてゐた掛圖や挿繪といふものは不完全不備なる點が餘りに多かつた。その最も極端なる一例として或山間の小學校に於て獅子のことを教へる場合兒童にお前たちは獅子を見たことがあるかと教師が聞いたとき兒童の誰もが手を舉げない名まへこそ聞いてゐた非常に恐ろしい動物だといふことぐらゐは知つてゐたのだらうが動物園に出かけたことのないものばかりで知つてゐる筈がない。そこでこの先生は標本室から猫ほどの大きさの獅子の模型をもち出してさあこれが獅子だと説明した。勿論教師の説明も不十分だつたらうが一同の兒童は一驚したそれはなぜかと言へば獅子といふ動物

はとても恐ろしい様子をしたものの様に想像してゐたのにこの標本を見て彼らの想像は全く裏切られてしまつた。何と可愛いやつだ！ 自分の内の犬よりも尙可愛いものだと思つたものもその中にはあつたらう。非常に山奥へ行くと牛を知らない兒童がある。先生は牛の掛圖を見せる。兒童は牛の小さいのに驚くといふ様子。兒童にはあり勝なことではないか。かういふ標本やモデルの不備不完全を救ふものは何と言つても映畫である。獅子を見せやうと思へば動物園へ出かけたらいゝではないかといふ論者もあるだらう。然し動物園といふものも到る所にあるものではないし、たとへ動物園へ出掛けてほんとうの獅子をみたとしても獅子の性情獅子の恐ろしさといふものは十分わかるものではない動物園へ行つた私の受持の兒童が獅子なんて餘り恐ろしいやつじやない獅子よりも馬の方がこはいと言つたのを私はおぼえてゐる。小さいをり中で牛乳と牛肉で育てられ寒くなれば温室装置にしてみらつてゐる獅子にどうしてあの熱帯で荒れ狂ふてゐる様があるか熱帯植物の繁茂してゐる山中、半月一天にかゝる夜半、岩角に起つてうそぶく獅子の雄姿がどうしてわかるか。かういふ風景を如實に見せるのが映畫である。映畫は自然や人類生活の多様な變化を恰も實物であるかの如く

私だちに見せてくれる。即ち熱國の状態も寒國に於ける人間生活も英京ロンドンに於けるロンドンブリツヂもアメリカの四十幾階といふ世界一を誇る摩天閣も實物の如くに私だちのまへに再現してくれる。

こゝで注意すべきことが一つある。それは前に言つた標本の獅子を見せたのと同じ誤解を映畫に於てもくりかへすことがある。例へばラヂオの映畫を上映してその電波の流れる状況をみると兒童は電氣の流れるのはあれ位の速度かと思ふかも知れない。そこで標本を見せるときも同じだがこの映畫を見るときにも正しい觀方と映畫そのもの正確なる知識を持たせなくてはならないだらう。でない場合は兒童に思はざるも甚だしい誤認をさせることがあるから。

映畫學習と將來の學校構造

小學校の映寫場設備に就ては第三項に於て詳言したつもりであるが尙數言を費したいと思ふ。本題に於ては主として學校の構造即ち學校建築について述べることにする。映寫場とし

て特別の室を持たない現代の學校は講堂雨天體操場等にその設備をさるべきは最も便利であるけれども今まで映寫場兼用を考慮に入れてない建築であるがため勿論理想的とは言ひ得ないだらう。今後新しく建築される學校とか改築されるところに於いては必ずこの映寫場兼用の設備をなすべきである映寫専用の建物が學校にあることは非常にいいことであるがこれは寧ろせいたくなくともとしてとても實現出來ないことだらう。又さうした専用の部屋を必ず造る要もなからうと思ふ。それよりも講堂又は雨天體操場は何れの學校でもあるだからこれを映寫にも使用出来る様にしておくことが得策である。どこの學校をみても講堂には一段高い壇がおかれてゐる。この壇は教師の訓話するところであり兒童の談話も出来る場所である。この壇上が甚だ狭い感じがする。もすこし廣いものにしておくことは音樂會のためにもいいことだらう。又映寫場としても體裁のいいことである。上映効果を一層大ならしめ様としたならば相當映寫場の體裁といふことも考慮せなければならぬ。

その他映寫室を後部に設けることなども必要であらう。教室なども映寫に用ふるところは映寫室が後部にあると非常に都合のいいことだと思ふ。特にフェルムに引火するかも知わから

ないといふ映寫機を使用する學校に於ては防火設備は是非なければならぬ。尙天井などに空氣ぬきの完全なものが欲しい。この他照明燈の必要、スクリーンのバックとなるべき壁の色など考へるべき點が色々あらう。他の設備については第三項でのべたからこゝではその重複をさける。

娛樂と映畫

映畫の本來の發達は教育に使用するためでなく娛樂に使用するためである。だから娛樂としての映畫は非常に發達して來た。近時に於てはただ單なる娛樂の域を越え藝術としての映畫が高調されてゐる。最も新しい藝術としてそれをみようとしてゐる。美術、文學、劇、音樂といふものがそれぞれ藝術の一分野であるが如く映畫も藝術の一分野として考へられる様になつて來たことは映畫の一進歩と言はねばならない。

私はこゝで映畫の藝術的價値に就て論評を試み様とするのでない。それは他日にゆずるとして映畫が娛樂としてどういふ地位に置かれどういふ價値をもつてゐるか？ 娛樂としての

映畫を小學校にとり入れることの可否に就て一考察を試み様とするのである。近時我國に於ては娛樂といふものが非常に多くなつて來たことは私だちの見のがすことの出來ない事實である。我國在來の圍碁、將棋、歌留多を初めとし芝居、落語、浪花節、外國より輸入された撞球、トランプ、マーヂャン、ピンポン等數へ切れなほばあるだらう。この外にテニス、ベースボール、バレーバスケツト等本來運動のためのものでもこれを娛樂的に行つてゐる人も多くある。勿論これらのものは運動といふことが必ず主體であることは事實であり或運動家などに言はせると運動としてのテニスを娛樂として行ふのは運動精神を知らないものなすことであり運動といふものの品位を下げたものであると、私はかういふ種類の運動が娛樂的であつても決して差支ないと思つてゐる。寧ろ健全なる娛樂としてこれらの運動に一般の人々を導き入れた方がいゝではないか。餘り理くつづくめでいくよりも人間の興味の心理といふことも多少考へた方がよからう。

とにかく健全なる娛樂といふものが一般人士にやかましく言はれて來たことは事實であり何故かく叫ばれて來たのであるか。何故吾人人生に健全なる娛樂といふものが必要になつて

くるのであるか。若し私たちが寝て起きる飯を食ふ仕事をするといふだけでは甚だ殺風景ではないか。何人も高尚な趣味と健全なる娯樂をもち自分の生活に慰安を與へ又お互の遊び仲間が隔壁をとり去つて融け合ふことといふことが必要である。娯樂の本質に就ては生理的、社會的の各方面から哲學者心理學者が説明を加へてゐる。今これらの説をこゝで例證するまでもなく健全なる娯樂といふものは最早人生にとつて贅澤なものではなく必要なるものであると言はねばなるまい。尙この娯樂といふものが私だちの教育といふ仕事と如何に大きい關係をもつてゐるかは容易に考へ得らるると思ふ特に品性と娯樂の關係に就て私だちは理論をのべるよりも事實を視すればよい。學校に於て成績のよくない品性のわるい兒童と成績のよい品性の高い兒童のもつてゐる娯樂を比較すればよい不良兒が劣悪な娯樂を好み優良兒が高尚なる娯樂を好むといふことは私だちが常に目撃してゐるところである。この劣悪なる危險なる娯樂を好む兒童をして高尚なる娯樂に導き入れることに依つて彼らの品性を高きものとし圓滿なる性格となすことも教育上考へねばならぬことである。この意味に於て學校は兒童の娯樂を指導すべき場所であり教師はその指導者でなければならぬ。延いては學校はその町村

の健全なる娯樂の中心とならねばならぬ。學校といふものが單にその町村の教育の中心であるばかりでなく、運動競技の中心であり、一般成人教育の中心であり健全にして上品な娯樂の中心とまでならねば駄目である。單なる遊び場所であつてはならないが教育的な遊び場所であらねばならぬ。最近學校を諸種の有意義なる會合に使用されることは誠によるべき現象と言はねばならぬが尙その利用方法といふものを一層うまく教育的に考へる必要がある。これに就ては學校設備といふものも今後大いに充實することが肝要である。

我國は全國津々浦々どこへ行つても學校だけは實に堂々たるものである。その村その町へ行き何と言つても一ばん堂々たる建築物は學校である。私は或日曜の一日田舎町の一小學校を訪れたことがある。勿論日曜日でもあるため校内は全くがらんとして人の住むでない様な氣持がしたただ一人の日直を勤めてゐなされる先生が退くつまぎれに新聞をよんでゐたにすぎない。用件をすましてかへりみち賚食をなすため町のほど中央にあるカーウフェへ這入つて驚いた。これはどうしたことかこの町の學校の寂しさにひきくらべてこゝばかりは十七八才から二十三才までの青年で満員とても賑やかなものである。そして彼ら青年の口ばしる

言葉の如何に淫猥にして下劣なることか。その行動の如何に醜きか。私たちがきもちよく晝食出來さうにもない。いつもこんなに賑ふのかと尋ねてみると大抵の日はこんなでもないが夜分なんかいつも賑やかですとその店の給仕が言つておつた停車場まで来てこの町の先生に出會ひカーウフエは相等賑やかですと言ふと、その先生の曰く他の商賣は割合不景氣ださうですがあゝいふところだけはとても好景氣ですな。」と。青年の教育とか指導とかやかましく言はれてもかういふ風景ではつまらない氣がした。この青年たちはこの町の青年か附近の村の青年か私にはわからないが、もつと青年のためにも學校といふものが健全なる娛樂を提供してやらねばならぬと思ふ。健實なる然も趣味に富める青年の讀物を完備するとか、運動場には競技の設備が申し分なく出來てゐるとか、その他いゝ娛樂物が然も教育的なものが欲しいと思ふ。かう考へてやると多數青年をあゝいふ場所へ足を向けしめないだらう。學校へ青年が來る運動場にはろく木だけでがらんと立つてゐる圖書室をみても青年の讀みさうなものはない古い教育書が雜然と立てられてゐる。尙教師が氣持よく彼らを迎へないといふ様なことではどうする。だから卒業した子供は餘り學校に出入しない。卒業するとすぐ學

校とえんをきつてしまふ。何とか考へて青年處女のため學校が彼らのよい教育場、よい遊び場でありたいと思ふ。

青年訓練補習學校のあることはまことによるこぼしいことである。然し補習學校とか訓練所の時間は一年中に於て限られたごく少い時間と日子である。この時間を一層充實せしめるためにその他の時間でも彼らのために學校がよい指導をすべきである。

さて話は大分青年方面にはいつたが、映畫を健全なる娛樂として小學校にとり入れることはどうかといふ問題にふれて行かうと思ふ。

健全なる娛樂が私たちの人生にとにかく必要であること、又青年と娛樂についてはすでに述べた。私ら大人に健全なる娛樂が必要であるが如く兒童にも同様必要なものであると思ふ。映畫といふものは兒童に健全なる娛樂ともなり、又悪いものともなる。それは勿論映畫そのものにもよるだらうし指導者の指導方法如何にも依るものである。映畫のみではない。どんな善い娛樂でも方法と程度によつては非教育的なものになつて終ふだらう。由來小學校には善い娛樂といふものが少ない嫌ひがなからうか。過去の教師は娛樂などと言へばすいぶん

つまらぬものと思つてゐたのである。勿論娯楽と言つても中にはすいぶんつまらないものが多い。

私がこゝで言ふ娯楽は健全なるものを指して言ふのであつて、児童が將來つまらない娯楽に心を引きつけられない様に指導したいと思ふのである。善良なる娯楽は私たちの入生に決して無意味なものではないと私は言つた。休息あるために私たちは自分の仕事に對して懸命になり得らるるのだ、それと同様善い娯楽あるために私たちの生活がより緊張しより眞面目さが加はるのである。今までは善い娯楽でもつまらない娯楽と同じ様に反修養の如く考へてゐた人がある。私はさう思はない、反修養のものでなく修養のための善い娯楽でありたい。かういふ見地からでも私は児童に健全なる娯楽を提供してやりたい。この健全な娯楽には色々なものがあらうと思はれるが映画教育に用ふる映寫機を利用して明るく児童の趣味に合致した、児童心理に即した善い映画を選定して上映してやるのもよいと思ふ。

児童には餘りよくない娯楽をもつてゐるものもある。かういふ児童のためにもよい映画をみせて健全なる娯楽へ高尚なる趣味へと導くのも必要なことではないだらうか。

不健全な娯楽をもつに至つた社會、國家は常に滅びてゐる。これは現代までの外國歴史を見るとすぐわかることである。不健全な娯楽は生活と娯楽との境地を混和せしめて却つて生活力をなくするものであるが健全なる娯楽は新しく活動する所の力を與へるものと考へる。娯楽はどこまでも健全なものでなければならぬ。健全なる娯楽としての映画は又どこまでも健全なる映画でなければならぬ。

六 興行映画と児童

興行映画と児童の關係

映画が何故かくも流行するか？ 興業映画が何ぞ今日の隆盛をみるに至つたか？ それはいろんな方面から説明し得らるると思ふ。先づ映画といふものは動く寫眞であるといふことがその主因をなすであらう思はれる、動くものといふことは児童にはとても興味深いものであるが、又大人にも面白いことである。大體寫眞といふものは私たちに興味深いものである

が、それが動くものだから尙更面白いものとなるのである。かく映畫が動的なものであると共に文藝などと異なり、文字記述でなく寫眞記述であるがため、より實感的である。

その他映畫の特質として表現方法がすこぶる端的であり何人にも明確であることも現今の流行を見るに至つた原因であらうと思ふ。尙俳優などに對する興味は興業者の宣傳と相待つて常設館に足を向けしめるのである。

以上の外に芝居の如く所要時間が長くないこと、入場料が比較的低廉であること、芝居などと違ひ觀覽時間がいつでも隨意に選べること、館内の設備が一般芝居の場内と異なり觀覽者には便利であり出かけるにも大へん手軽であること、たえず新しいものが上映されるといふことなどは現在どこの常設館内に入つても満員の盛況を呈してゐる原因ではなからうか。

特に動的であること、實感的であること、入場料の低廉、興業者の宣傳に對する好奇心等は兒童をして常設館に足を運ばしめた主な原因ではなからうかと私は思つてゐる。このほかにも兒童を常設館へ常設館へと行かしめる原動力とも言ひ得べきものがあるだらう。

そして兒童はこの館内に於て何を學んでくるか？ 一體我國の映畫は外國のそれに比べて

餘りに質が劣つてゐると言はれてゐる。事實劣つてゐる。これは種々なる原因から來てをると思ふが今はその説明を省く。質が劣つてゐるから、どの兒童にもすべて惡影響を及ぼしてゐると見るのは間違つてゐよう。世の多くの人々は活動寫眞は兒童に悪いと頭からけなしてゐたのである。勿論質の劣つてゐるものは質の優れたものに比して惡影響を與へ易いのは當然だが、質の優劣は相對的なものであつて如何に日本の映畫がよくないと言つても兒童の性格と見方の指導によつては好影響も又あらうと思ふ。私はこゝで兒童に與へてゐる好影響を述べないで惡影響を考察してみやうと思ふのである。

興業映畫が兒童に與へてゐる惡影響は甚大なるものであることは事實である。近時教育映畫とか映畫教育の叫ばれて來たことはこの惡影響が甚大であるからでもあらう。

興業映畫の兒童に及ぼす惡影響惡感化はまことに大きいものである。兒童のみでなく一般人が今日どれほどの惡感化をうけてゐるかといふことは、これがためつくられたと言はれてゐる犯罪者の數をみてもわかる。殊に最近數年間の統計によれば智能的犯罪がどんどんと殖

え年々三四百件の新犯罪をつくつてゐるといふことである。この新犯罪のすべてが映畫と關係あるかどうか知ることは出来なかつたが映畫と密接なる關係をもつてゐる數が大部分だと思ふ。この事實に徴しても私だちは今更ながら映畫の惡感化に戰慄を覺えないわけにはゆかないだらう。

以上は或新聞紙の傳へてゐる數字であるから大體正しいものと思つてよい。尙新聞紙の傳へてゐる一二の例を擧げてみると、十八才になる一少年が無切符で上京し東京アヅマスタデイオに入社するつもりでゐたが東京驛で驛員にとりをさへられたこと、松之助の眞似をして感電した馬鹿もの、活動見物から家出した少女、撮影所を訪ふ女性が毎月多數に上つてゐることなど、特に日本のハリウッドといはれてゐる京都の洛西洛北の各撮影所に憧れて訪れて來るものは多く、陽春の頃には月千名にも上り平均少くとも月五百名あるといふ。そしてこの半數以上は警察の方の厄介になり、でないものは誘惑の手にかゝつてしまふといふ状態であるさうだ。こんなつまらないことになるのは特例としても、あの興業映畫館へ行つた兒童が活劇劍劇物を見て棒切れをもつてその眞似をしてゐるのをみても兒童に甚だ大きい影響を及

ぼしてゐることが明瞭になるだらう。兒童が劍道を習ふのは勿論善いことである。があゝした活劇物を眞似るのはつまらないことだと思ふ。その他説明師の口調を眞似たり、男女のラヴシーンを見て來たりすることなど兒童教育上甚だよくないことが多い。そこへ説明師が低級な言葉を使ふものがあれば、とてもつまらないことではないか。

なほ田舎の常設館などへ來ると音楽なども大へんよくないのがある。音楽的な音を出してゐるといふよりか雑音に近い音を出してブーブジャンジャンとやつてゐる。かういふ音楽を兒童の耳へ入れるといふことも大いに考へねばならぬ。

常設活動寫眞館と兒童衛生

小學校に於ける兒童の衛生的方面は現時最も閑却されてゐる部面の一つである。學習、訓練等は相當考へられてゐるし又かういふ方面の研究は非常に盛である。それがためかこの方面はまことに進歩したかの觀あるがそれに引きくらべ兒童の養護方面はその設備にしても、研究にしても甚だ遅々たるものであることは事實である。たとへ學校内に於ける養護が行き

とどいてゐるとしてもその兒童の家庭及び他の場所に於ける養護は忘れられてゐる。勿論これは單に教育者のみの罪でなく一は家庭の罪であり、父兄の責任であると言はねばなるまい。私はこゝで家庭に於ける兒童の衛生的方面を研究するのではなく、劇場方面の衛生的考察特に常設映畫館内に於ける衛生的方面と兒童の關係に就て述べたいと思ふ。謂ふ所の常設館とは一般のものを指すのであつて有數な設備の行届いた衛生方面を顧慮したものはこの論外である。映畫館は上映の必要上暗室になつてゐることは言ふまでもない。暗闇であるために勿論照明はあつても細かい點に就ては私だちの眼にうつらないからきれいだと、即ち清潔だと見えてもこれが明るみへ出したときには大へんである。

誰かが言つたことのあるやうに劇場とか停車場とかその他公衆の常に集るところは傳染病菌の巢窟である。公衆の集合するところは普通一般の家庭よりも不潔だと言へば不潔である特に兒童は大人に比べて身體が薄弱で、抵抗力が弱い、かういふ者を劇場内へ永らく入れておく、いふことは誰が考へても餘りよいことではない。

特にトラホームなどの傳染は多いだらうと思ふ。尙館内の空氣はどうか？ 塵がもやもや

とたつてゐる、禁煙を嚴守されてゐるところはとにかく煙が濛々としてゐる。それでも兒童は寫眞の面白味にひかれて何も知らない。完全に通風装置の出來たところは大へん少い様だから空氣の不潔なこともお話にならない。

次に兒童席といふ様なものは設けてないから椅子の高さが兒童の脊丈と釣合のとれたものはない。大人の椅子に子供が坐つてゐる。だから妙な恰好をして、大へんよくない姿勢をして見てゐる。姿勢などは餘り兒童が考へてゐない。よく見うけることだが子供があの一ばん前のオーケストラボックスの板がこひにぶらさがつてゐる。かう考へてみると設備から來る非衛生的なことは多々あるだらうと思ふ。次に兒童は一回公演ですまさないで二回目までも居坐るものが多數にある。これは兒童の精神を勞することが多く、疲勞といふ點から考へてもよくない。映畫館を出る兒童の顔色を見るがいゝみな青ざめて血の氣を失つた様なものが多い。目などの疲れることもよくない。特に田舎の映畫館で非常に古いフィルムを見せられたときなど目が痛いほどである。

私は外國の映畫館とか劇場のことは知らないが我國の劇場や映畫館では觀覽者が飲食をな

す習慣がゆる。映画館など劇場よりも少い様だがそれでも児童は何か口の中へ入れてをるものが多い。絶えず口を動かして見ている。田舎などの映画館又は劇場で児童がするめ、キヤラメル、果物その他いろんなものを食べつゝ見てゐるのを私は今までよく見た。間食など児童にはあたへてもよいと思ふが、あんなに滅法矢鱈にやられては困る。ただ衛生上の問題のみでなく風儀の上から言つても面白くない。

以上の外に醫學的見地に立つて見たとき尙幾多の非衛生的部面があらうと思はれるがかういふ點については將來の研究にゆづりたいと思ふ。

児童と風紀問題

映画館内に於ける風紀、これは今までからよく聞く問題であり實際に於いて面白くないところが幾多續出してゐる様である特に青年男女に於いて亂れてゐる様に思はれる。映画館内にて男女青年の風紀が亂れてをることには諸種の原因があらうと思はれる。又これを色々な立場から考察出來様と思ふが、第一館内は上映中暗いといふことである。この暗いといふこと

と人間の氣持とか心理とかいふこととは大きい關係をもつてゐるのであつて、例へば晝の明るみの中ではとても立ち小便などせない人が夜の暗いところではやつてみるといふ様なことや、世の多くの犯罪が夜に行はれてゐるといふことなど擧げることが出來様と思ふ。無論夜分であると人がみてゐないといふこともあらうが、明るいところよりも暗いところの方がさういふ悪いことを爲し易い氣持にあるのかとも思はれる。勿論大抵の人がかうなるといふのではないが。

で、映画館内に於いてはかういふ心理になる青年男女もあるがため、とかく風紀が亂れ勝のなつてゐるのである。

次に夜分なんか外出を許されない家庭のものは晝間かうした館内に入つてそこを密會所としてゐるものもあるといふことを私は聞いたことがある。かういふ人々のためにも亂されることもあらう。

この外に館内が男席女席とはつきり區別してないものや、たとへ區別はされてゐても實際に於て男女混席となつてゐる。これが嚴密に實行されたならば多分よくなるだらうと思ふ。

尙映畫そのものから風紀を亂されることがありはすまいか？ 勿論映畫そのものは風紀を亂すために作られたものではない。見る人の心によつて悪いものになるのである。教養の少い男女青年なんか甘いラヴシーンを見せたりすることは彼らに強い性的刺戟となつて漸次面白くない行ひをする様になるのだと思ふ。その他映畫面に於ける女性の肉體的魅力、愛情表現としての接吻、握手、肉體の一部を例へば乳であるとか足であるとかを大寫してその美しさの表はされたもの、着物を着てゐる美人が段々自分の着物を脱いで行く場面をトリックでうまく表現したもの、以上の様な場面を男女青年に觀せるといふことは、初めはめづらしと思ふだけであつてもこれが度重なると漸次彼等の視聽を惹くのみに止らず、性的慾望を刺戟し、ただ單なる興味としてこれを見ないで我自身から女性に近寄つたりして行くのではあるまいかと推察する。

かういふ若い男女のよくない關係を兒童が館内でみたときには勿論兒童自身はそんなことに興味を持たないとしても甚だよくない暗示と感化を與へることになるのである。兒童はさういふことに興味を持つてゐないからと言つても若し此の如き状態をみたときには非常に悪い感化を及ぼすものである。

現代の映畫は教育を目的として作つてゐないものが大部分であり非教育的なものの中には間々見うける。だから兒童は直接映畫面からもよくない暗示感化をうけその風儀の上にもよからぬ影響がある様である。勿論風紀を亂すために作られた映畫は一つもない。けれどもある映畫をみて兒童の風儀がわるくなつたと言へば映畫にもその責任の極く一部分はもたなければならぬだらうと思ふ。

その他だらしない言葉を發するものもあり、前項でのべた風儀上の問題と共に兒童の良習慣を破壊されることが多い。これが對策としても學校に映畫の設備をなすべきは目下の急務と言はねばなるまい。

不良兒と映畫

私がこゝで言ふ不良兒とは所謂不良少年即ち一般教育者のみの手では何とも出来ない困つたもので感化院等で教育されたり、警察の方の厄介になつたりしてゐるものと、小學校に於

ける特別の注意を要するごく少數の兒意とを指すのである。

かういふ兒童が映畫とどういふ關係におかれてゐるか、この問題に就ては既に映畫と兒童の項に於いて述べた點もあるが尙此の一項をとり出したといふのは特に不良兒との關係を一層精密に考へてみたいがためである。けれども私は不良兒の教育とか不良兒そのものに就いての實際研究は未だ着手したことがない即ち經驗の持ち合せはないため、大毎社發行映畫教育第四輯にのせられてゐる大阪少年審判所の少年保護司で居られる藤村成助氏の「不良兒と映畫」といふ談話をここにかりることにする。藤村氏の言はれる不良兒といふのも大體私の言ふ様な不良兒を指されたのであらうが、小學校に於て特別注意を要する兒童を含めて居られない様である。然しかういふ小學校に於ける不良兒童にも所謂不良兒に近い心理をもつてゐるものがあると思ふし又所謂不良兒に對するとはほど同様の注意が必要なきもある。

その全文をこゝで紹介したいと思ふがとても紙数が許さないのでその要項だけにとどめておきたい。とにかくその一文は私だち正常兒を教育してゐるものにとつても参考となる貴き研究の御發表であると私は思つてゐる。

「浮浪兒の大部分は未就學兒童で十二三才のものが多いが私の扱つた浮浪兒のうちで、スリとか辻賣をしてゐる部類に屬するものは感心にも相等國家觀念といふやうなものもち、禮儀作法といふものもわきまへてをり、また文字を書けるものも多い。かうした素質を彼等は何によつて得たかといふに、それは大い映畫によつてである。又普通の家庭兒には、來るべき大人の社會といふものを知らぬものも多いが彼ら浮浪兒はよく知つてゐる。これも多くは映畫によつて知るのである……。」これによつてみると浮浪兒、などにも映畫のいゝ感化を及ぼしてゐることがよくわかると思ふ。尙同氏は「映畫による犯罪」として次の様なことを述べられてゐる。「映畫に因る少年少女の犯罪は一、映畫をみて行はれたもの、放火、強盜、脅迫、性的罪惡、家出等。二、映畫をみたために行はれるもの、窃盜、スリ、脅迫等。三、映畫館の中で行はれるもの、スリ、買食等。であるが、しかしこれらの不良兒について調べてみると、何れも家庭が放任してゐて、後天的に生育、教養上に於て變質變態の徴候を備へてゐる子供の多いのは注目すべきことである……。」と。

尙「不良化の原因」の中に「何故子供が映畫館に走る様になるか、その原因を考察してみ

なければならぬ。元來子供は本能のほどばしるがまゝに行動したがるものである。そして子供の心理からみても子供の教養上から言つても遊戯、娯樂は子供の生活に重要缺くべからざるものである。しかるに現在の子供の世界にはとかくそれが缺けてゐる。家庭に何の楽しみがなく屋外にも遊戯の場所がない。自然子供は映畫館に集まらざるを得ないではないか。そうしてみると、子供を映畫館に勝手に行かせ、勝手に間食させてゐることがそもそ〜いけないので父兄、教師がこれをさせてゐるのだ。追ひこんでおいて、悪くなつた〜とやかましくいふ罪は子供になくて家庭及び學校にあると言はなければならぬ。不良兒はすでに映畫をみたり映畫がすきになるまへに、家庭が生むのである。社會が出すのである。」(雜誌映畫教育より)

かういふ考察に私たちが思ひ至るとき、私たちの小學校に於ける比較的不良な兒童も彼ら兒童をのみ責めることを慎まねばならぬだらう。勿論家庭の罪といふものも大きいだらうが教師の考への足りない點も多々あらうと思ふ。こゝに教育者の責任もあるはずである。不良兒とのみ限らない。所謂劣等兒といふ様なものでも、先失的に何かの故障でかういふ名稱の

部類に入れられてゐるものもあるが、教師の教授法の貧い點から、又は不注意から劣等兒になつたものもあるだらうと思ふ。思ひをこゝまでめぐらすとき私たちの責任の重且大なるを感じないものはないだらう。

小學校に於ける映畫設備の急務

小學校に於いては諸種の設備が必要である例へば理科室の完備、體操器具の購入、算術實驗室の創設、その他器具機械標本類の備へ等一として不要なるものはない。まだこの他に色々擧げることが出來やう。私は之等の設備と同様必要なものは映畫設備だと思ふ。どこの小學校でも否中等學校でも一校一臺の映畫機は必ず備へて欲しい。今後もし小學校に於いて如何なる設備が要するかと問はれたならば私は第一番に映寫設備だと言ひたい。おすすめしたいと思つてゐる。

幸ひ私の學校では兒童の保護者團が自發的にこの設備をなすべく奔走され本學年度から映畫教育の實施をみたのである。學校がかういふ設備を願望してゐるのみでなく保護者がこの

設備を要求してをられることは、この設備をなすに満場一致で可決され、幾度かの委員會にも全員が賛成されたのをみても解ると思ふ。(費用その他の概算は後述する。)一時は大層やかましく言はれてどこの學校の運動場にも設けられた體操の道具が今ではほとんど使用されてゐない學校がちよい／＼見受ける。映畫設備が出来てもかういふ状態ではただ一時の流行物の様になつてしまつて効果があがらない。一度設備されたならばこれを利用活用し教育効果をより一層高めなければならぬ。

七 映畫による各科學習の實際

映畫を取り入れたる學習指導案——各科

兒童が映畫常設館に始終出入することに依り諸種の弊害の起るを防ぐために學校で映畫を見せるといふだけでは、これを映畫教育といふことは出来ないだらうと思ふ。然し結果より見れば何らかの好影響を兒童がうけてゐるのであるから、廣き意味に於ける教育といふことは出来るだらうが。これであれば常設館へ行つても又一面何らかの好影響もうけて來てゐる

のだからほゞ同一であつて嚴格なる意義に於ける教育だといふことは出来ない 勿論學校で映畫をみせる以上何らかの好影響を與へやうといふ考へは働いてをる筈だが、少くとも私たちが映畫教育といふ名辭を用ひやうとするならば、より具案的系統的であり、この映畫をみせるによつてかゝる好結果を惹起するだらうといふ教師の考へが明瞭に働いてゐなければならぬと思ふのである。即ち映畫教育を施さうといふ意識が明瞭であり、その施さうといふ考へが一定の方法と法則と案によつて實際に表はさなければならぬ。でなければ教育といふ名前を冠することは出来ないだらう。たゞ漫然とやつてゐるだけでは娛樂としか言へない。娛樂として上映するならばとにかく苟くも教育といふ名目の下に行ふならば、こゝに當然指導案といふものが必要となつてくるのである。私はこゝで映畫をとり入れたときの各教科の指導案の實例と映畫學習指導案を書いてみることにする。

○映畫を取り入れた修身科指導案例(一)(尋常科第三學年)

教材 第十七課 儉約(尋常小學修身書三)

目的 いろいろな物に對する愛の心から無益に物を費さず常に分に應ずる儉約をなし

映畫による各科學習の實際

映畫による學習の實際と施設

それより得たる財を正當に使用するやうに導きたい。

區分 第一時 例話 光圀の話

第二時 生活指導

第三時 映畫 蟻ときりぎりす(全三卷一九六七呎)……本時

本時の目的 前二時間の學習を一層徹底せしめるため兒童の視覺に訴へて分に應ずる儉約とすべての物に對する感謝の念を切實に感ぜしめる。

準備 上映の用意 臺本

フィルム of 梗概 相當な家に生れた怠けもので物を粗末にした若者は遂に勞働者となつて其日々を送らなければならなかつた。毎日働いた金は不相應な食物、衣類、酒、煙草に費して明日のことは考へなかつた。或日自分の食ひ散らしてすてた辨當がらに澤山の蟻が集り冬の用意に食糧を貯へる様を見て彼は翻然悟る所あつて蟻の生活に這入るといふ小童話劇である。

方法 1 復習 要點だけを極く簡單に

2 上映 説明指導

3 默想

▼この映畫を本教材に取入れるに就いて。

私はこの映畫(蟻ときりぎりす)を儉約といふ教材のところへ取入れることに少しの難點のあることを知つてゐる。然しフィルムが儉約といふ教材に即したいものを持ち合せてゐないときは萬やむを得ぬことである。このフィルムは勤儉といつた様な教材として最もびつたりと來るだらうと思ふが、勤も儉も蜜接不離の關係にあるものであつて、儉を説くときに勤を説明してもよいと思ふからである。尙この劇の終局は勤を説いてゐるのであるがその道程に於て儉を説いてゐる場面が大へん多く、ほとんど儉を説明してゐると言つてもよい位である。かういふ劇では説明を相當考へれば儉を高調することが可能である。依つて本教材の目的たる儉約の精神を養ふに使用出來ると思ふのである。

この外に本教材に適するフィルムは非常に多い。例へば「二宮金次郎」「森の夕」「太陽は休まず笑ふ」等あるが何れも三〇〇〇呎以上で時間其の他の都合で上映出來ないと思

ふ。勿論時間が許せば上映價値は十分あるだらう。

○映畫を取り入れた修身科指導案例(二) (高等科第二學年)

教材 第二十課義勇奉公(二) (高等小) 修身教科書(二)

目的 八千萬同胞の一人である兒童一旦緩急あるときは義勇奉公の念に燃え起つ忠良なる第二の國民たらしめたい。

區分 第一時 戦時軍人外の國民の有する義勇奉公の道

第二時 映畫 國を擧げて(全四卷三四五五呎)……本時

第三時 平時に於ける義勇奉公の道

本時の目的 戦の庭に立ち得ざる同胞の有する義勇奉公の念の熾烈なると戦に立つ者の如何に雄々しく義勇奉公の精神の強烈にして白熱化せるかを映畫劇によつて想はしめ、強き感銘を兒童に與へたい。そしてその血を汲める小國民をしてその芽生を伸ばすことに楽しみ意氣込む健氣なものとなしたい。

準備 上映の用意 臺本

フィルム梗概 軍人の未亡人であるお秀は苦しき世帯の中より兄妹の遺兒の生長を楽しみに働いてゐた。待ちに待つた息子重太郎は専門學校に學び學資の一部を自辨しつゝ、螢雪の功なつて卒業の榮冠をいただく日の近からんとするとき、風雲低迷たりし我國と某國との間に國交斷絶した。一日千秋の思ひで待つてゐた我子の卒業歸省の間近になりたるとき、お秀は長らく病床に苦しむ身も忘れて「母も家も忘れよ、一死國難に殉ぜよ。」と激勵の手紙を送つた。母の手紙に接した重太郎は決然と立ち直ちに志願して戦陣に行く或時は鐵條網を破り或時は塹壕を越え敵營に到り、偉勳を立てて芽出度凱旋することになつた。母は哀れにも餘命風前の燈の危き時である。武装凛々たる我子の姿、その胸間に燦たる勳章を見て母は逝く。大和魂の發露、義勇奉公の精神、懦夫をして奮起せしむるものである。

方法 1 第一時限の復習

2 上映 説明指導

映畫による各科學習の實際

3 黙想

▼この映畫を本教材中に取り入れたに就いて。

この他にもこの種映畫はあるだらうと思ふが、私はこの國を擧げてをもつて來た。それは本教材の精神を深くうゑつけるに最もよいものだと思ふ。これは戦時に於ける義勇奉公であるが、平時に於ける義勇奉公はこの母のお秀が重太郎を教育し、重太郎又刻苦勉勵するところによく表はれてゐると思ふのである。だからこの上映を第二時に配當し第三時と聯絡をつけることもよいと思ふ。

○映畫を取り入れた理科指導案例一(尋常科第六學年)

教材 第三十二 じしやく(磁石) (尋常小學理科書)

目的 磁石の磁力作用である鐵を吸引すること、南北を指すこと、及び同異極の吸引反撥の作用に就て學習するのが主要點で今一つは次に來る電氣と非常に深い關係があるから同課の豫備的取扱に意を用ひたい。

區分 一時間取扱

準備 棒磁石、馬蹄形磁石、コイル、(電磁石)、鐵釘(三分計)、鐵粉、コルク。

磁石の玩具等、映寫の用意……映畫磁氣學(全一卷七七五呎)
フィルムの梗概 磁石の諸特性即ち吸引力、反撥性から磁氣分子説に至り、更に熱が磁石に與へる影響を詳述したものである。

方法 1 既知事項の發表

2 學習問題の提出……教師、兒童

(問題解決にうつる前磁石取扱上の注意二つ三つ)

3 問題の解決、映寫

(一)鐵の吸引 どの部分が一ばん強いか——極

a 實驗 どの位のへだたりであれば吸引するか——磁場
釘何本を引きつけ得るか——強さ
落つればどうなるか。

b 映寫 右の實驗によつて兒童は磁石の極、磁場、強さ等を知つた磁場と

か強さは磁石の用途と關係をもつてゐるものである。以上實驗で

映畫による各科學習の實際

得た知識を一層確實なものになすため映畫を用ひて整理してみる。

(二) 南北を指すこと

● 實驗

棒磁石の一端で針を同一方向にすりこれをコルクに通して水中に入れてみよ。
南と北を指す——北極と南極
どんなことにこの性を用ひてゐるか？

b 映寫 右の理由を視覺に訴へて明瞭にする。

(三) 異極相引き同極反撥す——用途はどうか

● 實驗 h 映寫による説明

(四) 電磁石について

4 質疑應答と整理、尙時間に餘裕があればもう一度石の映畫を初めからくりかへして觀せてもよろし。

▼ 本教材にこの映畫をとり入れた理由

磁石といふものは兒童にとつて面白い不思議なものの一つである。兒童に磁石をもたせてをけば色んなことをして遊ぶ。面白いものを考へる。然したた面白いといふだけに止まらず兒童がこの磁石の特性、原理を十分理解し得るやうにと努めねばならぬ。尙本教材が次に來る電氣と非常に深い關係があるのだから十分徹底した研究をしておかねばならない。それがため教師の説明も必要だが映畫による説明を加へて印象深いものにしておかなければならぬと考へる。

○ 映畫を取り入れた理科指導案例(二)(尋常科第六學年)

教材 第二十一 流水の働き(尋常小學理科書)

目的 流水の三つの作用としての浸蝕、運搬、沈積の働きを理解せしめ地球表面上の地殻の一變動の理法を知らしめたい。

區分 第一時 流水の浸蝕運搬作用に就いて

第二時 流水の沈積作用に就いて、映畫による説明——本時

準備 流水の作用を示す掛圖、映畫の用意……河の作用(全一卷九五七呎)

映畫による各科學習の實際

映畫による學習の實際と施設

フキルムの梗概 河流の作用は土地の高低を均一ならしむるものにして、川、海湖の水は蒸發して雲霧となり、風と温度の作用によりて雪霰雨水と變り削剝作用によりて峨峨突兀たる溪谷を作り自然と其處に流れを生ず。河流は沈積作用によりて豐饒なる田畑を形成し流域は人工稠密となり交通を便ならしめ水力を利用して發電所を設くるに至る。その理由をテヨウクにより圖解説明したのが本映畫である。

方法

- 1 前時の説明補説、復習的問答
- 2 本時の學習問題解決
- 3 映寫——説明指導により本教材整理
- 4 教科書の目讀
- 5 質疑應答

▼本教材に映畫を取り入れた理由

附近に溪谷のある學校なれば勿論臨地學習をやつてもよい。又たとへ小川にしても

あればそこで學習せしむべきである。尙雨天の日などにこの學習をなすのであればすこし傾斜のある運動の一隅へ行つて實際に水の流れる様を見せるなど映畫を観せる以上にいゝことに相違ない。又以前より兒童に觀察せしめておくなども必要だと思ふが、しかし何れの學校でも望めることではない。流水の働きによつて沈積した大きい川の沖積地など到るところにない。この沖積地のある様な土地のものは溪谷の削剝作用がわからないといふ有様である。然したとへ一部分であつても實地にみせることはいゝことだが、本教材の如きは又映畫によつて深山の溪谷から洋々たる大海に入るまでの一筋の川の流れを直觀せしめることは兒童にとつて興味深いものである。即ち一部分をみるのではなくて大觀出来るのが都合いゝと思ふ。

○映畫を取り入れた地理科指導案例(一)(尋常第六學年)

教材 (尋常小學地理書卷二第八ヨーロッパ)

目的 世界六太洲中のヨーロッパの位置はどうであるか。その中にはどんな國がありその國勢はどうであるか、又どんな地理的要素の上にどんな人種が

映畫による各科學習の實際

映畫による學習の實際と施設

如何に活動し如何に文化を建設し又建設しつゝあるかを知らしめると共に我國との關係を知らしめたい。

區分 第一時 區域、地勢、産業(農業)

第二時 産業(牧畜、林業、鑛業、工業)

第三時 交通、貿易

第四時 イギリス——本時

第五時 フランス、イタリヤ

第六時 ドイツ、ソヴィエツト聯邦(ロツヤ)

第七時 其の他の國々、我國との關係

本時の目的 イギリスの國勢と我國の關係とを知らしめ、尙映畫によつて彼地の風物に接せしめる。

準備

映畫の用意(オ!大テームス河全一卷五八〇呎、エディンバラ全一卷五七七呎、西北部湖沼地方全一卷六二八呎、エグゼター全一卷五二〇呎)

方法

歐羅巴洲の地圖、英國地圖、世界地圖、イギリスの人口、面積、船舶のグラフ等

1 既知事項の復習

2 イギリスの面積人口はどれほどか、領地はどうか

3 イギリスの産業はどうか、何が一ばん發達してゐるか

4 都邑、ロンドンについて

5 映畫による説明

6 我國とどんな關係にあるか

7 百二十三頁十行から百二十五頁七行までの目讀

8 整理、質疑應答

▼本教材本時間に右の映畫を取入れた理由

特に英國は我國と關係最も深きため他の各國よりも詳細に説明をなすと共に映畫も最も多く取入れることにした。勿論一時限ではあれだけの分量は全部やれないと思ふから普通四十五分の授業を一時間半ぐらゐにしたらいと思ふ。右の映畫の中「オ!大テームス河」

映畫による各科學習の實際

映畫による學習の實際と施設

は飛行機上より大テームス河兩岸の風景をうつしたものでロンドン市の状況が大観出来るそれによつて世界一と誇る大都市の活動状態を知らしめたいと思ふ。「エディンバラ」はスコットランドの首都の風景であり英國流の古風な服装及び古城、いろ／＼の記念碑等を見るによつて同地の風俗などを知るに便である。「西北部湖沼地方」は英國のスイスと呼ばれる西北部、湖沼地方一周、美しい湖岸の町々、風景等であり、「エグゼター」は西部の都會、古い都の一つ沙翁によつて知られたる所、有名なる家畜市場、及び附近の町々の風景をみるによい。かういふ風物を観せるによつて英國そのものを一層明確に兒童は摺むことが出来ると思ふ。地理なんかはこの映畫によつて諸外國の風物に接せしめるが大へんよい様である。

○映畫を取り入れた地理學習指導案例(二)(尋常科第六學年)

教材 アジヤ洲(尋常小學地理書卷二)

目的 世界六大洲中のアジヤ洲の位置はどうであるか。我日本の外にどんな國があり、その國勢はどうであるか。又どんな地理的要素の上にどんな人種が

如何に活動し如何に文化を建設し又いつゝあるかを知らしめ以て極東に於ける帝國の大きな使命に目覺めしめたい。

區分 A アジヤ洲總論 B 支那一次取扱、支那本部二次取扱、滿洲
三次取扱(第一時地勢、氣候、産業(本時)第二時交通、都邑) C シベリヤ
D 印度

本時の目的 日本民族の活動舞臺として産業の上に交通の上に移民問題に重要な關係をもつてゐる滿洲を産業中心としてその價值を知らしめ併せて我國同胞 奮闘振りを味はしめたい。

準備 アジヤ洲地圖、滿洲地圖、映畫 滿洲の農牧全一卷一〇三〇呎)

方法 1 既習事項の復習 2 滿洲の價值(産業上の價值、交通上の價值、移民上の價值、以上の中より學習中心問題發見)

3 學習要項 a 映畫により一望千里の滿洲の沃野に栽培さるる大豆、高粱、小麥、甜菜、陸稻の耕作及び收穫の狀況、牛馬、豚、綿羊等の牧畜、その

映畫による各科學習の實際

映畫による學習の實際と施設

他滿洲の家畜を觀覽せしめつゝ同地の産業を説明して行く。映寫中兒童に質問すべき要項は、(一)高粱、大豆、小麥、牛馬、綿羊はどの地方に？(二)かういふものどこへ出るか？(三)どこの人々がかういふしことをしてゐるのか？
b 映寫後産業地圖に記入、。發表と質問(地勢氣候人口はこれに附帯して)
d 産業開發上より見たる交通、。農牧以外の産業にも同胞の活躍すること
f 交通發展の上に同胞が活動してゐること。
4 質疑應答と發表
5 整理……………教科書によつて。

▼本時間にこの映畫をとり入れた理由

滿洲、大平原に於いて活動してゐる我々同胞の状態を掛圖でみただけでは餘り心を惹かない親しい我らが同胞の活動状態は活動寫眞によつて兒童の前に展開されたときそこには言ふべからざる愉快と彼ら同胞に對する涙ぐまじき感謝の念が湧くであらう。尙自分も行つて一つ活躍奮闘してみたいと希ふ氣持が起つてくるであらうと思ふ。こゝに於いて本教材

が十分生かされたと言つてもよい。

○映畫をとり入れたる國語科讀方指導案例(一)(尋常科第六學年)

教材 第十八課貨幣(尋常小學國語讀本卷十一)

目的 現代の貨幣の考案、貨幣の種類、貨幣の變遷等について知らしめると共にその必要と便利なることをさとらしめる。

區分 第一時 文意の直觀

第二時 構想吟味 整理

第三時 映畫による學習指導整理——本時

本時の目的 我々はほとんど貨幣なくして一日も生活することは出来ないと言つてもよいからである。かくの如く色々の用を辨じ、物品の賣買に必要であり便利な貨幣もその使用に馴れきつてしまへば何ら事新しく便利を感じてゐないのである。

この貨幣が如何なる工程を経て出來上るかは何々考へたこともないから

映畫による各科學習の實際

である。本時は映畫によつて現代使用せる貨幣がどうして出來上るかといふことを知らしめたいと思ふ。

準備 映寫の用意 映畫(貨幣の出來る迄全二卷一五六一呎) 貨幣數種

方法 1 既習事項の復習

整理

2 應用等

3 映寫により説明指導 質疑應答

4 右映畫の感想發表(兒童)

▼本教材に此の映畫を取り入れた理由

本教材は割合に短文でありその筋を兒童がよく理解出來る様に、よく味へる様になつてゐるから教材としてはそんなにむづかしいものではない。それで第二時までで全部學習は終るのであるが、現代の貨幣は如何にして製造されてゐるかといふことは第二時までに説明してゐないので兒童はどうして出來るのかしら?と疑問をもつてゐるにちがひない。よく平素にでも兒童はげにはどんな工程を経て作られるかといふ意味の質問をするものであ

る。然もその工程順序は兒童の誰もが知つてゐないのである。これを掛圖とか寫眞で説明するよりも映畫によつて説明される方がどれだけ兒童によくわかるか論を待つまでもない。口でうまく説明出來るものと出來得ないものがある。この説明のむづかしいものはどしどし映畫によつて説明し理解せしむべきである。

極印と、する打型で壓印され一分間百枚の穴あき、貨幣が出來るといふ精密無比なる機械應用の順序を映畫によつて説明しやうとするのである。

○映畫をとり入れた國語科讀方指導案例(二)(尋常科第五學年)

教材 傳書鳩(尋常小學國語讀本卷十第十一課)

目的 傳書鳩の使用法利用の場合を知らしめ及びこれが歴史的考察をなすと共に鳩のかしこさを想はしめたい。

區分 第一時 文意の直觀

第二時 構想吟味

第三時 構想吟味 整理

映畫による各科學習の實際

第四時 復習 映畫——本時

本時の目的 前時までの復習をなし終つてから映畫「傳書鳩の飼育」を利用して傳書鳩の飼育法とその活躍振を視覺に訴へて知らしむ。

準備 映畫(傳書鳩の飼育 全一卷七〇〇尺)

方法 1 復習的問答

2 質疑應答

3 映寫——説明

注意 大體讀方學習の際は全文を味讀してから即ちその課の學習が終つてから補充的に觀せるのがよい。(この問題は項を改めて後述する)

▼本映畫を本時に映寫する理由

このフィルムは大阪毎日新聞社が多なる費用を投じて飼育してゐる傳書鳩の活躍及び其の飼育法を示したものである。第十一課傳書鳩は兒童のよろこぶ教材の一つである。兒童は鳩をよく知つてゐる兒童と鳩とは親しみ易いものである。尙傳書鳩を知つてゐるものも

ある。然しその飼育法なり活躍の状況に至つては何ら知つてゐない。この活躍を兒童に目のあたりみせることは彼らにとつて如何に愉快なことであり面白いことであり勇ましいことであるかわからないだらう。かういふ映畫は下手な説明を多くするよりもじつと兒童にみせるがよい。

若し時間が許すならばこの傳書鳩の教材が全部終つてから同じく大阪毎日新聞社のフィルム「軍用犬一卷四三〇尺」をみせてもよからうこのフィルムは彼の歐洲大戰がうんだ軍用犬の活動及びその飼育法の實況である。讀方の補充教材は勿論文章でなければならぬ。然しかうした映畫をみせて諸種の知識を兒童に與へるのも或意味に於ける補充的であり然も有効なものであることは事實である。

○映畫を取り入れた國史科指導案例(一)(尋常科第五學年)

教材 楠正行(尋常小學國史上卷)

目的 正行は父正成が櫻井の驛でのこした訓を善く守り又母の切なる教訓に従ひ忠孝の正道を全うすべく一族郎黨を隨へ正平三年吉野山の行在所に參内し

映畫による學習の實際と施設

て後村上天皇に拜調を賜り正行此の天地に存在中は何卒宸襟を安んぜ給はれかしと申上げ如意輪堂の扉に辭世をのこして四條畷に向ひたるその雄々しさ、その悲壯なる討死、その誠忠を知らしめ深き感銘を與へたい。

區分 第一時 前時間の復習 足利氏の専横、吉野方と足利方の有様

第二時 映畫による學習(楠木正行)——本時

第三時 整理感想發表 研究發表 教科書の目讀等

本時の目的 「小楠公」の映畫により正行の大君に對する忠義の誠を味得せしめる。
準備 映畫「史劇小楠公」(全一卷九〇〇尺) 近畿地方の地圖、御系圖、楠氏の

系圖

方法 1 教科書の通讀

2 學習課題の研究

3 映寫——説明

4 默想

△この映畫を本時に取り入れた理由

正行の赤誠、報國盡忠は我等日本國民の最も美しき最も立派なる即ち至高至純なる行であつたこれを兒童に學習せしめるに教科書と教師の熱辯とだけではまだ何だか物足らなさを感ずるのである。遺憾なく學習せしめるには必ずこゝへ映畫をもつて來なければならぬ。目と耳の兩方面から入れたいと思ふのである。

關東大震災の話をきいて泣かなかつた兒童が、新聞の寫眞をみて涙さへを流さなかつた人が大震災の活動寫眞を見ながら説明をきいてさめざめと涙を流して泣いたと言ふではないか。國史教授にも映畫をとり入れることはまことに効果の大きいものだと思ふ。

○映畫を取り入れたる國史科指導案例(二) 高等科第一學年

教材 第二十三北條氏の滅亡(高等小學國史上卷)

目的 北條氏の専横とその滅亡に至りし因果の史實を辿りつゝ、北條氏の如き専横無道といふものが尊嚴なる我國體に相容れられないといふことを十分會得せしむると共に幾多勤王の士が奮ひ起ち天皇の御爲つくせし忠誠を知ら

映畫による各科學習の實際

映畫による學習の實際と施設

しめ、この誠忠を兒童の心に深く感銘せしめるのが本課教授の主眼である。

區分 第一時 幕府の財政困難、京都の實權北條氏にうつる、北條氏皇位の御事に干涉す、後醍醐天皇政をみづからし給ふ。

第二時 高時奢にふける、天皇政權を回復せんとし給ふ、天皇隠岐にうつされ給ふ。

第三時 勤王の軍所々に起る、大波羅を陥る。

第四時 北條氏亡ぶ。

第五時 映畫(藤原藤房郷)——本時

本時の目的 藤原藤房郷とその當時の尊王の士の忠節を映畫によつて知らしめた

5。

準備 映畫 藤房郷全五卷四〇七五呎——一二三五米)

方法 映寫説明指導(第三卷の終に於て休憩五分をおくこと)この休憩時に簡單な體操をやつてもよい。

この映畫が本教材の中に取り入れられた理由

映畫「藤原藤房」は第二十四課の學習が終つてから上映してもよいと思ふが、本課の終りになつても差支ない。

藤房郷及び其の他忠臣の事蹟を映畫によつても學習せしめることは前指導案例(一)にも述べた通り目よりも入れてより一層兒童に感銘を與へたいからである。かくすることによつて國史教育をより徹底せしめ小國民の善導に資したいと思ふのである。

以上私は映畫を取り入れたときの學習指導案を數教科にわたり書いてみた、尙不備なる點も多々あらうと思ふが大體の標準とでもいふべきものを示し得たと思つてゐる。とり入れた映畫そのものは或はその教材に適切でない部分もあるかもしれないが今のところあつたものを使用したいと思つてゐる。他にもつといふフィルムがあつたならば勿論それと入れ代へたならばよいだらう。理科教授にしてもあつた教材にあつたフィルムをもつて來ないで他の生理學なんかの教材のときにいふフィルムのあることも知つてゐるからそれも示したい

と思つたのだが只今私の手もとに理科の教科書が全部そろつてゐないため已むを得ないと思ふ。それは今後教育雜誌でぜひ發表するつもりである。然し理科のときでもあつたとり入れかたが一ばんいゝと思つてゐる。教科書の教材を學習せしめるときにはどこまでも教科書が中心であらねばならぬ。教科書を中心にして進めていくが最もいゝ。教科書を重要視せない人が若しあつたとしたならば、それはいけないと思ふ。私はどこまでも教科書を中心にして進めていく。それがため映畫のとり入れかたもその方針である。

然し課外讀物といふものがあるが様に教科書に關係あるもので課外に映畫をもつて學習せしめることも非常に有効なことだと信ずる。今その一二の實際例を示してみたい。

映畫學習指導案 (一)

教材 宇宙の驚異 昭和二年度文部省推薦映畫——全十二卷六六七三呎

學年 尋五、六、高一、二

目的 天體に關する知識を平易に知らしめたいと思ふのである。天體に關する知

識を附與することは必要なことだが私だちの掛圖や口だけの説明では十分に兒童に會得せしめることは中々至難である。これを映畫によつて理解せしめ様と思ふのである。

指導方法その他

- 1 尋常六年以上の兒童には卷十一の讀本に出てゐる太陽の課と卷十二にある曆の話の課をよく讀ませておく。
- 2 尋常五年の兒童には理科に出てゐる春分秋分夏至の所を復習せしめておきたい。
- 3 高等科の兒童には地理書に出てゐる地球、高二兒童には讀本の望遠鏡と顯微鏡のところを研究せめておく。
- 4 その他にも天體に關係ある教材をよく復習せしめおきたい。
- 5 映寫時間は相當長いから時々休憩せしめるがよい。

この映畫教材の内容その他

映畫による各科學習の實際

映畫による學習の實際と施設

文化映畫宇宙の驚異は獨逸ウファ映畫會社の製作にかゝるものでアクメ商會が所有してゐる。昭和二年五月に文部省から推薦されたものであつて非常に立派なものである。兒童の天文學的フェイルムとして申分ない。全十二卷の長尺で二二〇二米ある。全部邦文タイトルで詳述したもので、その内容は次の通り。

第一編眞理の探究——天動説より地動説へ、近代天文學の發達。第二編夜の空——月恒星界。第三編畫の星——太陽。第四編——月世界へ飛行。第五編太陽の子供世界——水星、金星、地球、火星、小遊星、木星、土星、天王星、海王星。第六編無限の門に立ちて。第七編天體の進化——天體の起源、地球の未來等。

映畫學習指導案 (二)

教材 二宮金次郎(昭和二年度文部省推薦映畫)——全四卷

目的 二宮金次郎の人格に接せしめて深き感銘を與へ兒童の修養に資したい。

學年 尋一、二、三、四、

指導方法その他

- 1 修身書に出てゐる二宮金次郎の話を再び讀ませておく。
- 2 説明は低學年であるためごくわかり易く。
- 3 兒童の生活反省
- 4 感想發表會を催してもよい(各學級で)

内容その他は省略しておく。

この外に米國パラマウント映畫會社の製作にかゝるものでパラマウント日本支社の所有の映畫である實寫「チャング」(全八卷)は是非兒童に見せてやりたいもの一つである。又佛國キヤスピヤン藝術家協會の製作品で中村映畫教育社の所有である童話人形劇「蛙の王様」(全二卷)等もいゝものである。これ等の指導案例もかくべきであるが紙面の都合で省いておくことにする。(以上十數種の映畫の中で私のみてゐないものも一二あるから餘りよくない

映畫による各科學習の實際

推理の機會を少くしその教科の形式的陶冶の價值を少くして終ふのである。だから私たちは映畫を學習中にとり入れても各科に於ける形式陶冶の機會の存在を忘れないやうにしてその機會を利用することに努めねばならぬ。特に小學校に於いては學習力の陶冶にも重きをおかねばならぬのであるから指導上に細密の注意を要すると思ふのである。

さて以上の見地から映畫を學習にとり入れ又映畫そのものによつて或學習をいとなまうとする場合指導者の最も注意を要する點は説明の簡單明白といふことである。映畫面は轉々として變化し兒童の目を畫面にうばつて終ふ。だから教師が愚圖々々つまらない説明をしてゐても兒童の耳にははいらぬばかりでなく新しき畫面に對する邪魔にもなる。で、教師は教材の研究を十分にしておくとともに映畫の内容も精査しておく必要がある。映畫をほんとうに自分のものにしてみなければ理想的とはいへないだらう。尙特に兒童に理會せしむる必要のあるもの即ちその畫面は停止映寫をやつて適切な説明指導をせなければならぬ。その他、教科に映畫を利用するときの實際についての注意事項は後述する。

獨自學習より映畫學習へ

學習の過程を三段に分けて觀察、觀念連合、表現としてゐる人がある。即ち學習は觀察に始まりそれが表現にまで到つて終結するものである。獨自學習もこの三段の過程を通るものである。然してこの表現に到つて終結した獨自學習を更に學級に持ち出される。學級の兒童が相互に各獨自學習をもちよつて、お互に意見を交換し發表し相修正し意識的にも相研磨するところに學習は更に深みと廣さを加へていく。これ即ち獨自學習の發展である。この相互協力輔正の學習が終結し再び獨自の世界に於いて整理されてその學習が完結するのである。だから獨自學習は相互協力輔正の學習即ち相互學習の根柢をなすものとみななければならぬ。勿論或學習は獨自學習で終結し完成することもあるだらうがこの相互學習あるによつて深まりもし又新しく自己自身を開拓していくのである。この新しき自己自身の開拓は即ち自分の方では開拓し得ない新しき世界への開展は相互學習に待たなければならぬ。全く相互學習のたまものである。

兒童の獨自學習が（私のこゝでいふ獨自學習は豫習や復習をとり入れたものである）學級に於ける相互學習にまで發展し兒童相互の補正と教師の指導により確實味をつけるといふことはまことに必要なことと言はねばならぬ。若し獨自學習に誤謬がありそれをそのままにして打ちすて相互學習にうつさないとするならばそれは兒童のため非常に不幸と言はねばならぬ。兒童の獨自學習はぜひ相互學習にまでもち出し誤謬を正し遺漏を補はねばならぬ。

獨自學習に確實味をつけ、誤謬を正し、遺漏を補ふため映畫をもつてくることも、亦効果の多いものだと思ふ。すべての教材を映畫によつて學習せしめないと同様に（實際に於いてさういふことは出来ないし、よくない）すべての獨自學習を映畫學習にまでうつすことはよくないが或教科の或獨自學習を映畫によつて補正し深めていくことは兒童相互の學級に於ける協力研磨の學習以上にいゝ場合がある。映畫の説明に依ることによつて、一層獨自學習が深いものとなり、更に獨自學習に歸つて兒童の力は一段の進歩を示し、その學習が完成されるところもある。この場合相互學習時に相當するのが映畫學習であるが勿論指導者と學習者との間に質疑應答があり、映畫學習に入るまへに兒童の獨自研究の發表もなければならぬと

思ふ。然し普通にはこの映畫學習が終つてから又更に相互學習へと發展したいものである。

相互學習より映畫學習へ

獨自學習より映畫學習に入る場合は實際に於いては稀である。が相互學習より映畫學習にうつる場合の方は非常に多いだらう。又この方がより効果の多いことでもある。尙相互學習中に映畫學習をとり混ぜてやることもいゝ。普通にはこの形をとつて學習を進展していくのが最も多いと言はねばならぬ。

前述獨自學習のところでも述べた通り、相互學習は學習完結への途上であり、兒童相互が相補ひ相正し自己の學習をより深めより高めていくことである。勿論教師が補ひ正しつゝ啓發指導することは相互學習の最も有力なる且缺くべからざるはたらきであるのは疑ひないことである。此の如くにして兒童の學習力といふものも陶冶されていくのであると信ずる。

相互學習中に映畫學習をとり入れることについては映畫をとり入れたる學習指導の實際案

によつて詳述したからこゝで省略することにして、相互學習が終結をつげた後この映畫學習に入る場合を一考してみたいと思ふ。(相互學習終結後の映畫學習の實際案も既に述べたが)相互學習に於いては大抵の場合討議の様式をとるのが最も普通であるこの際教師はさうした協力研究の指導者として更に全體的の誤謬を正したり不足を補つたりするのがその主要なる役目であらねばならぬ。そのみにはとどまらず更に學習者の氣づかない部面に善き暗示を與へたりするものである。相互學習に於いては兒童の質問討議が進展して學習が深まるにつれ有力なる問題が生れて來るのが常である。このいゝ問題を更に兒童は研究しつゝ進むのであるが結局教師の説明指導をまたねばならぬことも往々あり得ることである。然しその問題が兒童の協力研究によつて解決出来る場合は別として教師の指導を仰がねばならぬ場合にたち到つたとき教師はその問題の性質と學級兒の能力を考へて解決してやるべきは當然であるが、教師の解決を待たなくとも更に兒童の相互學習又は獨自學習によつて解決出来ると思つたときには善き暗示のみを與へて、兒童の研究にまかせる様なこともあらう。かうしたいろんな場合を考へ尙この學習は映畫によつて深め是非問題の解答を與へなければならぬとい

ふ場合は映畫學習に當然はいらなければならぬ。勿論すべての問題の解決をあたへなければならぬとは思はない。又さういふ必要もないと思ふ。然しこの問題の解決は次の學習と密接なる關係をもち、この問題の解決が兒童今後の研究上非常に有力なるものであるといふときはその問題の解答は是非望ましいことである。この問題を映畫學習に移すもよい。又教師の説明とその他直觀具の使用とではとても正確なる解答を與へることが出来ない、尙明瞭を缺くといふときは等しく映畫學習に入らねばならぬと思ふ。

その他相互學習の階段が終りを告げ再び獨自學習に入り兒童が整理し整頓する前にその整理を一層明確ならしむために映畫を見せてもよい。又整理復習後一層その學習の徹底度を加へるために映畫學習に入つてもよいと思ふ。これらは色々の場合があつてその教科教材に即し、學習の難易や兒童の能力にも密接不離の關係があるのだから指導者はすべてに用意周到でありたい。

劣等兒指導と映畫

劣等兒とは如何なるものであるか？ 私はこゝでその精細なる學的研究を試みやうとするのではない。劣等兒と映畫とは如何なる關係にあるか即ち映畫は劣等兒指導に如何なる役目をなすであらうか？ といふことに一考察を加へたいと思ふのである。

劣等兒はその一般性として教科に興味少く、注意散漫怠惰なるもの多く、圓滿なる學習の進展を望むことは不可能である。よしや個人指導よろしきを得たとしても學級教育全般より見て教育効果を徹する上に教師の努力、學習經濟等に大きい障害を來たすは事實である。更に體力の虚弱なるものは別として、學習方面より受ける劣敗者の氣分、他の正常兒より受ける壓迫的氣分より脱し、何らかの形に於て優勝者たらんとする優越本能の満足を希ふ。

道德的缺陷を有する彼らにはやがてこれが惡戯となり粗暴となりやがて學校の風紀及び風儀をみだし訓練上の障害を醸す原因となる。

かうした教育上の問題の一部を解決せんがために我校に於いては特別學級が生れたのである。(今も或二三のかうした學級が特設されてゐる。)然し彼ら個人をみつめた時、如何に劣等兒と云へどもこの世に生を享けた以上一個の人間として社會人として幸福なる生活をすべき

欲求をもつことは正常兒と同様に許さるべき筈である。けれども従前の状態をそのまま進めるなら恐らく彼等は個人として劣敗者となるであらう。

「劣等兒は幾ら教育しても駄目だ」といふ聲を私たちはよく聞く。駄目だと言つて打ちすておくことはよくない。彼ら劣等兒には彼らに適する指導方法を考案せなければならぬ。即ち劣等兒救済の道を講じなければならぬ。

兒童心理を研究してゐる人は、かうした兒童に直接實際的の科目を課することを正當としてゐる。知能に缺陷ある彼らに學科を普通に課することは結局、兒童自身は勿論指導者までが勢力の冗費にすぎないかと思ふ。何となれば彼らの心的の才能が先天的のものであり、學校教育がかうした先天的缺陷までも矯正し得る力が無いと思ふから。彼らに對しては何よりも先づ實際生活に有益な訓練をうけしめることが正常兒より早く行はれなくてはならない。然しながら彼らの中には知識的の缺陷あつて知能に缺陷なきものがあり、後天的の何かの疾病によつてかうした不幸な境遇にゐる者もある。前者に對しては懇切なる知識の補充教育、後者に對しては専門的醫師の診療によつてその不幸な境地を脱するにある。

何れにしてもこの種の學級にありては、根本的に兒童調査を行ひその結果に基礎をおき、實際生活に有益な訓練をなすつゝ知識の補充教育を行ふにある。

次に劣等兒の知的方面の一般特質を列記すれば

○精神の統一が充分でない。注意が動搖する。仕事は斷片的であつて全體的の統一がな

す。

○構成の能力に一面の缺陷を與へる。

○自分のうちに起つた事件について專念に思考する作用がない。

○複雑な命令、仕事は實行出來ない。

○類推の缺陷から理解とか推理とかは出來ない等。

彼らについて最も困難なのは不潔、怠惰、動作の遲鈍、行動の本能的だといふことである。これは彼らの知的缺陷、道德的缺陷等に原因するものであるが、實生活の上に多大の支障を來す根本的のものである。

以上の研究に依つてもわかる通り劣等兒は概して教科に興味が少く注意散漫のものが

多いことは事實である。たとへ一年でも教育の實際に當つた人はうなづけることだと思ふ。尙彼等を詳しく觀察すれば知能に缺陷なくして劣等兒となつてゐるものがある。

教科に興味のないといふことには色々原因もあらう。例へば理解や推理が出來ないとか專念に思考する作用がないとかを擧げることが出來やう。平たく言へばわからないのである。

教師の言ふことが理解出來難いのである。だから自然教科に興味がなくなるのである。私はその實際的な好例としてかういふことをあげ得らると思ふ。即ち彼ら劣等兒と言へども體操とか手工とかには非常に興味をもつてゐる、圖畫なども彼らの好む一つである。かういふ教科に興味を持つといふのは他にも原因があらうと思ふがこれらの教科は彼らにわかり易いといふ點がある。(勿論體操や圖畫は頭を使はなくともよいといふのではない。)尙彼らは唱歌なども好むけれども餘りむつかしい曲譜になつてくると讀めないためすぐやめてしまふ。さうすると彼らには正常兒の學習するものが餘りむつかしすぎると言へる。正常兒が耳からのみで理解することでも彼らには困難である。耳から入れると共に目からも入れなければならぬ。

私はこゝに於いて映畫を彼ら劣等兒の指導に使用することは非常に有効なものであると思ふのである。映畫によつて學習した彼らの理解度は映畫に依らない學習の理解度と大差のあることは事實である。何故劣等兒指導に映畫がいゝか？ 映畫は兒童の視覺に訴へると共にその説明は聽覺にも訴へてゐるといふこと。映畫による説明は具體的であるといふこと。映畫そのものに熾烈な興味をもつてゐるといふこと。實感的なものが多いといふこと等を擧げることが出来るだらう。だから映畫學習によれば教科に對する興味が自然と湧いて來る。

次に劣等兒の一特質として擧げてゐる注意の散漫といふことも映畫によれば多分に救はれるのである。劣等兒と云へども映畫には前述の通り興味をもつてゐるのである。だから彼らの注意は相當長く持續することが可能である。更に知能に缺陷なきものには映畫によつて説明すれば割合に早く知識的の缺陷を補ふことが出来るのも事實である。

尙彼らの道德的缺陷の補正も必要なことであるがこれも映畫によつて相等な効果を收めることが可能である。

大阪市野村教育研究所の大伴茂氏は昭和二年以來、同市の小學兒童七萬人につき智能調査

をされたのであるがその第一期試験の結果によると、兒童の智能程度を十一階級に分けこの階級以外のもの即ち先天的天才兒を一、八パーセント(一千三百名)を見出しこれと同數の痴呆性のあることを發見したと言はれてゐる。然して此等一千三百名の天才中二十パーセントは所謂劣等兒中から發見され、又痴呆性の二十三名が所謂優等兒中から見出されたといふことである。然して前記劣等生中十二歳にてよく高等幾何學を了解してゐる者が二名あつたと言ふことである。私たちがこの報告の前に考へなければならぬことは、適切なる學習指導といふことと、兒童調査の必要なことである。優中劣その各々の能力を考へてこれに適當なる指導方法を立てなければならぬことは言ふまでもないが、映畫學習に於いても知的材料を取扱ふときには映畫といふものが如何にわかり易いとは言へ特に能力といふものに注意すべきである。無論情的教材に於いては知的教材ほどの差等は考へなくともよいと思ふが。

大伴氏の調査をまつまでもなく、どここの學校に於いても何パーセントかの劣等兒の居ることとは事實であるとして劣等兒の教育方法にも色々あらうと思ふが、この映畫による指導は最も適切なものであると思ふ。然し斷えず注意しなければならぬのはフィルムそのものゝ選

定である。(尙劣等兒教育についての詳細は西久保奈良石氏著「劣等兒教育の實際研究」を参照されたい)

映畫の見方指導

防火宣傳劇を見て防火の必要をひし／＼と感ずるのが普通だ然るに同じ防火宣傳劇をみて放火したといふつまらない人間もある。かういふ教育を目的として作られた映畫をみてもつまらない人間にはとても悪いことをなさしめる刺戟ともなるのである。まして教育を目的として作られてゐない映畫をみるときそこには色々な感化があるだらうとは容易に私だちの想像出来ることである。

映畫それ自體は一個の寫眞である。それが善いものにもなり悪いものにもなると言ふのは見る人の人格即ちその人の趣味、性質、教養の程度、修養の如何等によつて決定されるのであるまいか、尙心理發達の程度如何といふことも大きい關係を持つことは確かである。

學校で兒童に見せるものは教育映畫か又は教育的映畫のみであるから、まだよいとしても

一度社會へ出ると各種の映畫が彼等を待ちうけてゐる、學校に在る中とはとにかく卒業すればどうであるか。思ひをこゝに致すとき當然彼等兒童に映畫の見方といふものを指導せなければならぬ。そのみではない映畫學習に於いても映畫の見方といふものが下手であればその効果を割くことが著しいと言はなければならぬ。で、映畫學習時間にはこの兩方面から考へて一は映畫學習の効果を一層顯著にするため、一は映畫によつて善い感化を受ける様にと指導を怠つてはならないと思ふ。私たちは讀書指導といふ言葉を耳にするし又日々の學習にそれをやつてゐる。讀書指導の必要なるが如くに映畫の見方指導といふことはまことに必要なことであらねばならぬ。たとへ學校に映畫設備がなくともこの映畫の見方指導といふことは刻下の急務である。

映畫の見方指導と言つても風景寫眞といふ種類には餘り必要を感じない。その指導を要するものは學術映畫の一部と劇映畫とである。(私がこゝでいふ映畫の見方指導といふのは映畫面そのものゝ見方指導であつて専門的な映畫一般の見方指導を指すのではない。)

先づ學術映畫の一部のものに就いて述べやう。

學術映畫でよく間違を起したり誤解をするのは、高速度撮影による映畫と、クローズアップされたものと、たまにあるトリックの使はれたもの等であらう。

以上の實際例を擧げてみると、肉眼では見えない遅運動をよく見える様にしてあること、それと反對に肉眼で辨識出来ない様な高速度運動を私たちが一々理解出来る程度の遅運動にしてゐること、肉眼ではとても見えないもの、又は形の小さいものを大寫しにしてあること、尙私たちの理解し易いやうに或一種のトリックをもつて物體を動かしたりしてゐること、此等はその映畫に面接したとき一々兒童に理解せしむべきである。この指導がなかつたときは兒童に大きい誤解を抱かせてゐることが間々あることは事實であらう。

學術映畫に比べて劇映畫の指導はやゝ複雑であると言はねばならぬ。

私は數年前村のお爺さん連中を連れて大阪道頓堀のあたりを歩いた。そのときお爺さん連中の求めに應じて或映畫劇場へはいつた。どういふ映畫であつたか今記憶にないから判然としないがこの連中一人として面白さうな顔をしてない、たゞめづらしいといふ顔つきである。そこでこの人達にどうですかと尋ねて見ると別に感激のない口調でわからないと素直に答へ

た。それから面白さうな看板を見てもう一つの映畫劇場へはいつてみたがその時刻に上映されてゐたのは西洋物であつた。お爺さんともわからないそれでも相當の觀覽料を出したといふので無理に見てゐたが、まへよりも一層退屈さうな顔をしてゐた。私はあとからこれだけの觀覽料を出してみせるのだつたらお爺さんたちに芝居でもゆつくりと見物させたがよかつたと後悔したことをおぼえてゐる。かういふところへつれてはいつたことがあまりかしていやかたではないと思ふが、要するに映畫劇を見たことのないかういふお爺さん連中にはわからないのは當然である。田舎のお爺さんのみでない兒童などもこれと同じであると言へよう。然し最近の兒童で數回以上も劇映畫を見たものには相當わかつてゐるだらうと思ふが第一映畫劇表現のテクニクであるがカットバックの多いものになると初學者にはその筋さへ理解出来難いだらう。

尙その表現技巧は心理の根本をつかんだものであり、或一つの約束に屬するものであるから兒童にその約束を知らしめておくことが必要である。以上は映畫の表現技巧に關係することであつてそれさへ理解出来れば映畫はわかるかといふにさらはいかない次に内容が問題

になつて来る。これは主として外國の作品を見るときに於いてである。例へば外國の風俗である、これがわからないものにはとても滑稽に感ずることがある。その他彼地の習慣、歴史、國民性、人情等を知らしめておくことが何よりも肝要である。若し外國のいゝ作品があつてこれを上映するにはそのままへ又は上映中に適切な指導をせなければならぬと思ふのである。外國の歴史を知らしめるといふことは映畫そのものゝ理解にも必要なことであると共に彼地の歴史を知るによつて我國がらが他國に冠絶してゐる點も兒童にはよりよくわかるのである。世界無比の立派なる國體を有する我國のことがより深く自覺し理解するのである。私たちはあらゆる機會を利用してかくの如く國民教育の徹底をはかるべきである。

尙傳説等も知らなければならぬと思ふ。これを我國の例にとれば浦島太郎の傳説を知らずして龍宮の映畫はわからないし面白くないだらう。これは童話と連絡をとるのもよい。

映寫前の指導としては是非上映々畫のプログラムを作製しておくことである。プログラムを作ると共にその映畫の内容の概説したものをトウシヤ刷にでもして兒童に與へこゝにも適當な指導が加はらなければならぬ。いくら立派な教育映畫であるからと言つてもたゞ漫然と

指導なく上映してはその効果が少いものになつてしまふであらう。映寫後に於いても見方の指導は必ずなければならぬ。これは感想發表會とか批評會とかいふ様式によつて兒童相互の研究中に適宜見方を教示してやるがよい。

映畫感想發表會

映畫の感想發表會又は批評會といふものは映畫の見方を指導する時間として必ずなければならぬものである。私は綴方の時間に兒童作品の合評會といふものを數年前からやつて來たがこれなども兒童の綴方成績の向上には非常に役立つてゐると思ふ。

映畫學習は獨自學習から發展して行つても相互學習からはいつてもよいと言つた。又映畫學習が獨自學習や相互學習の發展ではなく單獨に行はれることも多くある。

その何れの場合と言へども兒童相互間に感想を語りつゝ批評しつゝ進むといふことは出来ないのである。何ぜならば畫面はそれからそれへと新しく展開していくのだから、さういふ時間の餘裕を持たないのは當然である。だからこの時間に學習したものを發表といふ表現の

形にまでうつすことは是非あつて欲しいと思ふ。かういふ發表會といふ様なものも或意味に於いては相互學習とも考へることが出來やう。他の見方、他人の感じ方とでも言つた様なものを相互間に知ることは、教師の指導と相待つて自分の修養の糧にもなり、尙今後の映畫學習にも益あるところが多いだらう。

特に劇映畫より生れる兒童の感想はこれを綴、方にまで導きたいとも思つてゐる。

○兒童の感想の二三。

「二宮金次郎」(全四卷三三五〇呎)を見た尋常五年の男兒の感想二三の大略をこゝに掲げることにする。

○

僕はどこを一ばん感心したかといふと金次郎のお父さんである利右衛門が大病中に大洪水に遭ひ大部分の田地は流され、残りの一部は醫者への藥代にもつていかなければならないやうになつた。まもなくお父さんの病氣がなほつたかと思ふと又お父さんは病にかゝつてとう／＼死んでしまはれた。つゞいてお母さんも死なれた。それで兄弟わかれ／＼になつ

た。それでも金次郎さんは餘り泣かないで、一生懸命に勉強したことです。僕らであると泣いてばかりゐたと思ひます。やつぱり小さいときから大へん苦勞したからえらい人になつたのだと思ひます。僕はかういふところに感心しました。—K兒—

○

叔父の萬兵衛は金次郎さんに勉強をさゝなかつたから大へんわけのわからないわるい人だと思つてゐました。それに金次郎さんがかへるとき金次郎さんのためにだまつてためておいた金をやつたのをみて矢張叔父さんも金次郎をかあいがつてゐたのだといふことを知りました。そしてこの叔父さんにもえらいところがあると思つて感心しました。—T兒—

○

金次郎さんは初めから終ひまで一つも小言を言はないでよく働いてゐました。どんなことを叔父さんから言はれても口ごたへしませんでした。僕はこの間お母さんが「勉強してしまつたら妹を遊んでやつてくれ」と言はれましたが、妹と遊んでゐてももしろくないので勉強しまふとすぐ○○君のうちへ遊びに行きました。そして夕方まで○○君の内でお遊ん

でかへつてきますとお母さんはだまつておられました。夕飯がしまつてから僕は叱られました。僕は「妹と遊んでゐると妹はぢきに泣くから〇〇君の内へ行きました」と言ひますとお母さんは「五年生にもなつたら妹の守りをしてお母さんの手傳ひをよくするのでよ」と言つて叱られました。僕はお母さんの言はれたことをきかないときがあります。それはわるいと思ひました。金次郎さんですときつと妹の守をして妹がお母さんの仕事のじやまをせない様にしたと思ひます。それから五日ほどまへにお母さんが市場の〇〇へお使ひに行つて来てくれと言はれました。僕は市場の〇〇のうちは知りませんでしたので、「そんなうち知らん」と言つて行きませんでした。金次郎さんであると、いくら知らない家でも行つて来いと言はれたらその家をさがして行つて来たと思ひます。僕はこれからお母さんのいひつけをよく守らなければぬと思ひました。—F兒—

○
金次郎さんが親類にゐる自分の弟が病氣になつたと云ふことをきいてすぐ看病に行かうとしましたが叔父さんはそれを聞き入れませんでした。このときの金次郎さんは一ばんかあ

い想だと思ひました。—S兒—

この外にもまだくたくさんの感想が出た。もつと深いいゝ感想もあつた様に思ふのだが一々書きとめておく餘裕がなかつたのでこゝにならべた様なものだけが私のノートに記されてゐるのでそれを列記したにすぎない。私はこの兒童の感想を修身の時間に何かの材料に使つて兒童の生活指導にまではいつた様に記憶してゐる。

八 各學年の教科と映畫の調査

映畫教育を試み様とする者にとつて各學年各教科教材と映畫の關係を調査するといふことは缺くべからざる事である。若しこの調査をなさずして上映しやうものなら二年生でやれば適切な映畫を四年生に持つていつたり、六年生にいゝ映畫教材を四年生に廻したりなどして映畫教材の價値を著しく減少してしまふことになるだらうと思ふ。又上學年にいゝものと下學年にいゝものがある。かういふことも研究せなければならぬだらう。

各學年各教科教材の調査は容易に出来るのであるが、教育映畫のすべてにわたつて調査す

ることは非常に困難なことである。それで私の知るこの出来る範囲にとどめておくことは勿論、尙そのフィルム梗概は省き題名だけを入れておく。

讀方教材と映画

讀方教材と映画との關係はやや薄い。それは讀方學習の對象は「文」であるからだ。で、私は映画をもつて讀方教育をやらうなどとは夢思つてゐない。たゞ一つの文を學習し終つた後に於て、その文をよんでつかんだことを更にたしかめるために、又は一層直接的な經驗となすために映画を利用したいと思ふのである。尙文中に於ける難解な語句の意味とか事物を理解せしめるためには映画はよいと思ふ。今各學年の各教材で映画に關係あるものを抜き出すと次の様なものになるだらう。こゝで關係あるといふのは前記の様なしごとをなすに都合のいゝことを言ふのである。讀方教材の内容を映画によつて知らしめたからと言つてそれは讀方學習だといふことは出来ない。それは映画學習である。讀方學習といふものはどこまでも文を對象とせなければならぬといふことを再び附言しておく。だから難解な語句の

理解のときは別として讀方學習に於ては映画といふものは常にその文の學習完結後に來なければならぬ。(表中括弧内は映画題、名數字は學年を示す)

- 1 オヤ牛ト子牛(牧場)
- 2 うらしま太郎(浦島太郎) 白うさぎ(因幡の兎) 曾我兄弟(曾我兄弟の仇討) フクロウ(動物園中のふくろう) ふじの山(空中より見たる富士。富岳集)
- 3 象(動物園中の象) 日本三景(松島の絶景。宮島の絶景) 東京停車場(復興の帝都) 日本高山(富岳集。金剛山の風景。日本アルプス) 蠶(蠶の家) 郵便函(郵便の旅) 入營した兄から(入隊式。軍旗祭。兵營生活の一日) 水見舞(鳥取市の水害状況) 伊勢参宮(東宮殿下伊勢兩宮御参拜)
- 4 乃木大将の幼年時代(乃木大将) 大阪(空よりみたる大阪) 海ノ生物(海中の棲息動物) 分業(マッチとなるまで)
- 5 水兵の母(水兵の母) 明治神宮参拜(明治神宮青年團参拜) 兒島高德(兒島高德) ナイヤガラの瀧(ナイヤガラ瀑布の奇觀) 白馬岳(日本アルプス中の白馬岳) 京城の友から

- (朝鮮風風) 星の話(宇宙の驚異) 傳書鳩(傳書鳩の飼育。傳書鳩の使命) 水師營の會見(旅順開城) 軍艦生活の朝(軍艦生活) 日光(日光)
- 6 明治天皇御製(明治天皇御製謹解) 釋迦(亞細亞の光) 瀬戸内海(宮島絶景。泉都別府) 奈良(奈良の美) 十和田湖(十和田湖) 太陽(宇宙の驚異) ガラス工場(板硝子の製造工程) 貨幣(貨幣の出来るまで) 新聞(新聞紙となるまで)
- 高1・2 噴油(黄金の水) 地震(大震火災中の帝都) バクテリア(コレラの傳播と豫防) 水と風景(三公園)

國史教材と映畫

國史教材に關係ある映畫は今のところ至つて少ない。それで各學年の各教材をこゝで列擧することを省き、映畫に關係ある教材のみを記すことにする(括弧内は映畫)(數字は學年)(旅順開城)……高2 第十九明治三十七八年戰役、尋6 第十九明治天皇・六・明治三十七八年戰役(ゼネツア軍縮會議)……2 第二十四國民の覺悟、6 第二十今上天皇・二・歐洲の大戦と

我が國(普選實施と國民の自覺)……2 第二十四國民の覺悟、6 第二十今上天皇(大正年代史)……2 第二十二明治天皇の崩御、今上天皇の即位、6 第二十今上天皇(明治大帝と乃木將軍)……2 第十八明治二十七八年戰役、第十九明治三十七八年戰役、第二十二明治天皇崩御、6 第十九明治天皇、小楠公……1 第二十五吉野の朝廷、5 第二十三楠木正成(大楠公夫人)……5 第二十三楠木正成、1 第二十四建武の中興、第二十五吉野の朝廷(東宮殿下御歸朝御報告伊勢兩宮御參拜)……6 第二十今上天皇、2 第二十四國民の覺悟、(明治神宮鎮座祭)……6 第十九明治天皇、2 第二十二明治天皇の崩御、我等の日本)……2 第二十四國民の覺悟、6 第二十今上天皇(乃木將軍)……6 第十九明治天皇、2 第二十二明治天皇崩御(國を擧げて)……6 第十九明治天皇、四、明治二十七八年戰役、六、明治三十七八年戰役(文武時代風俗の變遷)……各學年各教材(ポーランドの災害)……6 第二十今上天皇(歐洲の大戦と我國、2 第二十三歐洲大戦と我國の地位(天壤無窮)……各學年各教材、(和氣清麿公)、5 第十和氣清麿、1 第十二奈良時代の佛教(藤原藤房卿)……1 第二十三北條氏の滅亡、第二十四建武の中興、5 第二十一北條高時、第二十二後醍醐天皇(竹の園生)

……2 第二十四國民の覺悟、6 第二十今上天皇

地理教材と映畫

この教科は一々こゝに教材を列擧しなくともいふと思ふ。たゞ地理に關係ある映畫だけをかいておく。

朝鮮風景、伊豆大島の風景、夏の日本アルプス、國境の彼方、吉野山の櫻、琉球風景、泉都別府、室戸岬、木曾川、夏の雲仙岳、日本八景、空中よりみたる富士、雪に埋れた信越地方、十勝硫黄山爆發、長崎線島原の大地震（大正十一年十二月一日 關東大震災、地球の巻、北極探險、樺太探險、火星旅行、日光、奈良の美、善行寺、富岳集景、飛行機上より見たる文化の大阪、奥丹後地方震災、復興帝都及横濱、十和田湖、奥秩父と長瀨の清流、南伊豆巡り、天龍峽の舟遊、木曾八景、甲州御嶽、瀨八丁、雪の北信へ、雪の赤城、大島巡り、多賀の海、濱名湖、風來寺峽、球磨川の急流及阿蘇の噴火、琵琶湖周遊、日本周遊、（以上日本地理及び地球に關するもの）

北京スケッチ、倫敦交通の今昔、アルプス登山鐵道、アラスカ雪中の勇者、英京倫敦、スペイン風景、佛國タラップ地方風景、スペインパロセロナー風景、ナイヤガラ瀑布、自動車大陸横斷大旅行、氷雪に直面して、スイス山水の田園生活、ナイルの流れと埃及の文化、モロッコ、グランドキヤニオン、極光の下まで、コネーアイランド、オー大テムス河、ロンドン西部街、エディンバラ、ロモンド湖、ベッドフォードの都、ヨーク、シユルスベリ、英國西北部湖沼地方、ハローゲート、ワーウィック、ハンプトンコート、エクゼター、羅馬東京間飛行（以上外國地理、この外に天體に關する名映畫「宇宙の驚異」あり）

理科教材と映畫

理科教材を分つと1 物理教材 2 化學教材 3 博物教材 4 礦物教材 5 動物教材 6 植物教材 7 生理衛生教材の七項目となる。今映畫に關係のある各教材を學年別に見れば次の如くである。（括弧内は映畫題名）

○第四學年理科書

各學年の教科と映畫の調査

映畫による學習の實際と施設

(花の實驗)さくら、つばき、あぶらな、つじ、たんぽ、はなしやうふ、はす、きく、

(植物生理の卷)同前

(液體空氣の實驗)空氣

(花から實へ)「植物生理の卷」の關係教材と同様、あぶらなの實、もんしろ蝶、きりの葉のおちること、み、きうり

(野獸と水禽)あひる、うま、うし

(燻の人工孵化)にはとり、(人工孵卵と養雞)にはとり

(アメリカの牧場)うし、うま、(種子が材木となるまで)きりの木、さくら

(靜物蔬菜の活動)なす、きうり

○第五學年理科書

(河の作用)川、いづみ、(淡水中の昆虫類)げんごらう、みづすまし、(金銀分析と品質試驗)金、銀

(海底の奇觀)海、(テキサス洲の黄金の水)石油、(生糸となるまで)蠶、蠶のまゆ、その他博

物教材は尋四のときの映畫を利用すればよい。

○第六學年理科書

(水力電氣の發電順序)でんき、でんとう、(海中棲息動物)うに、なまこ、二枚貝、えび、かに、みちんこ、いか、たこ

(靜電氣學)(電磁氣學(磁氣學)(電磁誘導學)じしやく、でんき、電流、でんとう、でんれい、(無線の話)(ラヂオ)電信機、でんわき

(耕すは誰)(夏の衛生)(寄生虫をとれ)(醫者の來るまで)(少國民)(共進會場の赤十字)(尊き生命)(光明)(目のない小鳥)えいせい

○高等科第一學年理科書

(野獸と水禽)哺乳類、鳥類、(植物生理の卷)植物の呼吸、ねのはたらき、はのはたらき、莖と根の成長する方向、植物の成長と方向、細胞、靜物蔬菜の活動)同前(蜜蜂の飼育昆虫類、(ボールペアリング)器械と仕事、輪軸、(板ガラスの製造工程)ガラス

○高等科第二學年理科書

各學年の教科と映畫の調査

映畫による學習の實際と施設

(宇宙の驚異)地球、太陽、月、日食、月食、恒星、惑星、(電氣列車の生ひ立ち)蒸氣機關電動機、(金銀分析と品質試験)電氣分解、(ガソリンエンジンの原理)石油發動機、(蒸氣機關の構造)蒸氣機關 電車の構造)でんどうき

(尋六のときに用ひた衛生映畫(健なればこそ)傳染病、眼、呼吸、神経系、(高周波電流學)電流、(發動機製作工程)石油發動機

修身教材と映畫

修身教材となるべき映畫はまことに多い。恐らく學校映畫中劇映畫に類するものは修身教材でないものはなく、すべてが私だち人生への教訓である。で、各學年の修身教材を次の様に分けて映畫との聯絡を考へてみることにする。(括弧は映畫題名、漢數字は學年)

○皇 室

一、天皇陛下二、天皇陛下三皇后陛下、祝日四、明治天皇、能久親王、祝日大祭日六、皇太神宮、高二、歷代天皇の御盛徳、皇祖皇宗の御遺訓(明治天皇御製謹解)(皇后陛下堺御陵

御參拜)(東宮殿下四國行啓)(大正天皇御大葬儀)(聖上陛下小笠原島行幸)(天壤無窮)(東宮殿下御西下)(東宮殿下御外遊實況)

○國體國家

一、忠義二、忠義規律に従へ三、忠君愛國、規則に従へ四、國旗靖國神社、皇室を尊べ、法令を重んぜよ、我國、忠義、公民の務、學國一致六、國運の發展、國交高一 大日本帝國、忠君愛國高二、建國、國體の精華、忠、國憲國法、義勇奉公、忠孝一致(小楠公)(我等の日本)(勤勞鼓吹の巻)(普選實施と國民の自覺)(國勢調宣傳映畫)(旅順開城)(大正十五年陸軍特別大演習)(國を舉げて)(村の榮光)(母と子)、和氣清麿公(我陸軍航空隊)(生きる悲哀)(乃木將軍)

○社會(以下各項に同じ徳目の教材が各學年にあるから學年毎の教材全部を挙げない)

一、朋友二、友達は助け合へ三、恩を忘れるな四、博愛、公益五、禮儀六、慈善高一、寛容高二、公益世務(愛の曲)(黎明の郷)(潔き歩み)(鈴の音)(二宮金次郎)(街の子)

○家 庭

各學年の教科と映畫の調査

映畫による學習の實際と施設

- 一、親の恩、兄弟仲よく、家庭二、祖先を尊べ、孝行四、兄弟五、主婦の務、祖先と家、高
- 二、友愛、夫婦(親心)(母と子(賢婦せき女)(鈴の音)父を尋ねて)(幼きれの勇者)(藤太郎と母)(心の光)(妻の眞心)(マイフレンド)(野に咲く花)

○個人

- 一、食ベモノニ氣ヲツケヨ、ナマケルナ、物ヲソマツニスルナ二、勉強セヨ、辛抱強クアレ
- 三、學習、カンニン、儉約四、自立自營、志をかたくせよ五、進取の氣象、誠實六、沈着
- 高一、勇氣、質素、高二、恭儉(人の子)(二宮金次郎)(めさむる心)(懐しの故郷)(四つの魂)(森の夕)(デンマーク辯民の努力)(愛の教鞭)(青年訓練所)(土と心と耕せ)(平和の勇士)(強者)(潔き歩み)(蟻と蛾斯)(少國民)(黒死より免れて)(水の呪)(虎菌と戦へる我等)(明るき生へ)(ほまれの出世)(健なればこそ)(努力)

○總括

- 一、ヨイ子供三、ヨイ日本人五、徳行、よい日本 六、教育に關する勅語高一、修養、戊申詔書、忠良なる臣民高二、徳器、皇運扶翼、勅語下賜(村の榮光)(少國民)(二宮金次郎)

(天壤無窮)(鐵)(小楠公)村の幸)

其他教科教材と映畫

○體操科教材と映畫

體操に關係ある映畫も諸種あるがその中でも(高速度撮影運動の要領)(陸軍戸山學校教官の體操要領)(陸軍戸山學校教官の家庭體操)(極東オリムピック大會)(女子バレーボール)(第八回萬國オリムピック大會)(第三回明治神宮體育大會)(女學校先生のダンス)(第四回女子日本オリムピック大會)(水泳飛込フォーム)(海軍水泳術)(體力増進法)(運動とその競技)(高速度運動競技の解剖)(ポートルース)等いゝものをたくさん挙げる事が出来る。

○農業科商業科又は工業科に就いては職業輔導の項に於いて述べる。

○算術科と映畫

この種教科に屬する映畫は我國に於いて非常に少い。(幾何學の定義)……全一卷二三〇呎

各學年の教科と映畫の調査